

公益財団法人日本モンキーセンター 事業方針

この法人は定款第4条の定めるところにしたがい、以下の事業をおこなう。

1. 公益事業

- (1) 霊長類に関する総合的な調査研究
- (2) 霊長類の保護及びその生息地の保全に関わる活動
- (3) 霊長類に関する環境教育並びに社会普及活動
- (4) 霊長類に関する図書及び学術誌の刊行
- (5) 霊長類の標本等の資試料の収集・管理及び展示
- (6) 霊長類の福祉に配慮した動物園の設置及び経営
- (7) 霊長類の適切な飼育・展示並びにこれに関する技術的指導及び協力
- (8) 霊長類に関する研究会、講演会の開催
- (9) 霊長類等に関する展示、保全、環境教育及び社会普及活動に関わる人材の育成
- (10) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

2. 収益事業

- (1) 動物園における物品並びに飲食物販事業
- (2) 所有する土地・建物の賃貸事業
- (3) その他動物園等に関連する収益事業

I 公益事業

(1) 調査研究

1. 霊長類に関する調査研究の実施

- (1) 霊長類をはじめとする野生生物の社会行動の研究
- (2) 霊長類をはじめとする野生生物の進化に関する研究
- (3) 霊長類をはじめとする野生生物の形態学的研究
- (4) 霊長類をはじめとする野生生物の生態学的研究
- (5) 霊長類をはじめとする野生生物の遺伝学的研究
- (6) 霊長類をはじめとする野生生物の保全研究
- (7) 霊長類の福祉に配慮した飼育管理に関する研究
- (8) 霊長類の福祉に配慮した獣医療に関する研究
- (9) 霊長類を中心とした教材開発に関する研究
- (10) 霊長類標本の作成・管理に関する研究並びに研究利用
- (11) 霊長類の生体及び標本を活用した連携研究の推進
- (12) 研究会等の積極的参加による情報の交換と収集
- (13) 霊長類稀少種の繁殖に関する研究
- (14) 市民参加による霊長類をはじめとした生物多様性の保全に関わる基礎研究

2. 研究倫理ガイドライン

2016年4月1日より施行

外部委員含む7名からなる研究倫理委員会を設置

3. 外部研究費による研究活動（モンキーセンター受入分）

- (1) 日本学術振興会科学研究費基盤C（2023～2025年度）
代表者：赤見理恵
分担者：高野智
課題名：動物園と高等学校等の連携による「総合的な探求の時間」の実践
- (2) 日本学術振興会科学研究費基盤C（2020～2023年度）
代表者：高野智
分担者：赤見理恵
課題名：新学習指導要領下における博物館学校連携の継続的・定量的評価の試み
- (3) 日本学術振興会特別研究員奨励費（2022～2023年度）
外国人特別研究員：Raquel Costa
受入研究者：林美里
課題名：野生動物保全とワンヘルスのためのヒトとゴリラの社会的絆の共創
- (4) 日本学術振興会科学研究費若手研究（2022～2024年度）
代表者：豊田有
課題名：霊長類の協力行動におけるミームの探求：ベニガオザルの連合形成をモデルとして
- (5) 日本学術振興会科学研究費特別研究員奨励費（2023～2026年度）
代表者：豊田有
課題名：「子がかすがい」仮説：ベニガオザルのアカンボウが寛容的社会で担う役割の解明

- (6) 日本学術振興会科学研究費国際共同研究加速基金
(国際共同研究強化 (B)) (2019 ~ 2024 年度)
代表者: 松田一希 (京都大学)
分担者: 豊田有
課題名: 霊長類の性的二型の進化要因の解明

4. 他機関との連携

- (1) 京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科との共同研究
研究題目: 野生霊長類とその生息地の保護保全活動の
ための情報及び技術の相互交換
- (2) 大型類人猿情報ネットワーク (GAIN) との連携
綿貫宏史朗
- (3) 地球規模生物多様性情報機構 (GBIF) およびサイエンス
ミュージアムネットへの標本情報の提供
2023 年度 提供件数: 1,500 件
- (4) 環境省生物多様性センター モニタリングサイト 1000
里地調査の実施 (S118 犬山地域: 日本モンキーセンター
哺乳類調査グループ)
園敷地内 3 ケ所にセンサーカメラを設置
設置期間: 2023 年 5 月 6 日 ~ 8 月 14 日
10 月 6 日 ~ 11 月 26 日
撮影された中大型哺乳類 (撮影回数順):
イノシシ、キツネ、タヌキ、ハクビシン、
アライグマ、ニホンザル、アナグマ、イタチ類、
テン、ニホンリス

5. 研究業績

(1) 論文他

Costa R, Brandão Â, Hayashi M (2024) The behavioral sequences of mountain gorillas under tourism pressure – Insights for tourism sustainability. *Primate Conservation*. 37: 121-133.

林美里. (2023) 大型類人猿の多様性から見るヒトの認知発達と子育て. *動物心理学研究*. 73: 79-84.

Sakai T, Hata J, Shintaku Y, Ohta H, Sogabe K, Mori S, Miyabe-Nishiwaki T, Okano HJ, Hamada Y, Hirabayashi T, Minamimoto T, Sadato N, Okano H, Oishi K. (2023) The Japan Monkey Centre Primates Brain Imaging Repository of high-resolution postmortem magnetic resonance imaging: the second phase of the archive of digital records. *Neuroimage*. Jun;273:120096.

Thu WM, Yato TO, Okabe S, Shintaku Y, Motokawa M. (2024) Morphological Variation of the House Mouse *Mus musculus* and the Ryukyu Mouse *M. caroli* (Mammalia: Muridae) from Japan. *Mammal Study*. 49: 33-48.

豊田有. (2023) 総説: タイ王国に生息する野生ベニガオザルの社会生態学的研究: これまでわかったことと将来への展望. *霊長類研究*. 39: 35-44.

山極壽一. (2023) 共感力の再考—コロナ後の時代へ向けて. *ユング心理学研究*. 15: 15-44.

山極壽一. (2023) 今西錦司の思想に西田哲学を見る. *西田哲学会年報*. 25: 1-19.

(2) 書籍

赤見理恵. (2023) 動物園における霊長類研究の歴史. In: 日本霊長類学会 (編) 霊長類学の百科事典. pp. 38-39.
Furuichi T, Idani G, Kimura D, Ihobe H, Hashimoto C. (Eds.) (2024) *Bonobos and People at Wamba: 50 years of Research*. 610pp.

林美里. (2023) 物の操作の認知発達基盤. In: 日本霊長類学会 (編) 霊長類学の百科事典. pp. 314-315.

林美里. (2023) 母と子の愛着形成とその理論. In: 日本霊長類学会 (編) 霊長類学の百科事典. pp. 344-345.

林美里. (2023) 人工哺育・人工保育. In: 日本霊長類学会 (編) 霊長類学の百科事典. pp. 550-551.

伊谷原一. (2023) 地域紛争と霊長類の保全. In: 日本霊長類学会 (編) 霊長類学の百科事典. pp. 492-493.

伊谷原一. (2023) 日本モンキーセンター. In: 日本霊長類学会 (編) 霊長類学の百科事典. pp. 30-31.

Idani G. (2024) Social behaviors of nulliparous adolescent female bonobos. In: Furuichi T, Idani G, Kimura D, Ihobe H, Hashimoto C. (Eds.) *Bonobos and People at Wamba: 50 years of Research*. pp. 211-228.

黒島妃香, 林美里. (2023) 物理的な因果関係の理解. In: 日本霊長類学会 (編) 霊長類学の百科事典. pp. 312-313.

豊田有. (2023) 協力行動とオス間の連合形成. In: 日本霊長類学会 (編) 霊長類学の百科事典.

綿貫宏史朗. (2023) ボリビアリスザル. In: 大淵希郷 (編著) 動物園を 100 倍楽しむ! 飼育員が教えるどうぶつのディープな話. pp. 14-16.

綿貫宏史朗. (2023) スローロリス. In: 大淵希郷 (編著) 動物園を 100 倍楽しむ! 飼育員が教えるどうぶつのディープな話. pp. 114-116.

綿貫宏史朗. (2023) 霊長類の渡来と飼育の歴史. In: 日本霊長類学会 (編) 霊長類学の百科事典. pp. 36-37.

綿貫宏史朗. (2023) 野生動物・動物園動物としての霊長類. In: 日本霊長類学会 (編) 霊長類学の百科事典. pp. 536-537.

山極壽一. (2023) ゴリラ・ツーリズム. In: 松田素二 (編) アフリカを学ぶ人のために. pp. 256-257.

山極壽一. (2023) 地球環境問題は人間の文化の問題? 人類学を起点に SDGs の本質を探る. In: 佐和隆光 (監修) 泉美智子 (著) やるべきことがすぐわかる 今さら聞けない SDGs の超基本. pp. 158-161.

山極壽一. (2023) ニホンザル研究小史. In: 日本霊長類学会 (編) 霊長類学の百科事典. pp. 10-13.

山極壽一. (2023) 日本霊長類学会. In: 日本霊長類学会 (編) 霊長類学の百科事典. pp. 40-41.

山極壽一. (2023) 「人類」と自由. In: ウスビ・サコ (編) 不自由な社会で自由に生きる—「自由論」講義録. pp. 171-187.

山極壽一. (2023) 共感革命—社交する人類の進化と未来. 224pp.

山極壽一. (2024) ゴリラの視点から見た戦争と平和. In: 坂田美雅子 (著) 枯葉剤の傷跡を見つめて—ある映像作家の「失われた時」への歩み. pp. 118-138.

山極壽一. (2024) 森の声、ゴリラの目—人間の本質を未来へつなぐ. 208pp.

山極壽一, 鈴木俊貴. (2023) 動物たちは何をしゃべっているのか?. 205pp.

山極壽一, 松井薫. (2023) 対談—町家とゴリラ. In: 松井薫 (著) 京都の町家に学ぶたしかな暮らし. pp. 172-193.

(3) 連載・記事 (モンキー掲載分を除く)

① 山極壽一 京都新聞『天眼』

地域が力を持つ時代	2023年5月7日
人新世と環境正義	7月23日
通り過ぎる街から憩う街へ	10月8日
地球を庭として考える	12月24日

② 山極壽一 朝日新聞『科学季評』

戦争止める真摯な姿勢を—「スポンサーから一言」の教訓
2023年6月15日

人間と地球の関係 読み解く力を—人新世に人類
学者がすべきこと 9月14日

好きなことを選び、能力伸ばしたい子どもたち
「難関大を目指す」教育 見直す時 12月14日

自然の時間を無視した文明—先取りした未来は訪れるのか
2024年3月14日

③ 山極壽一 京都新聞『現論』

農業規制で生物多様性守れ	2023年5月16日
現論 強まる「契約」信用回復を	11月8日
核ペンは剣よりも弱し	2024年3月21日

④ 山極壽一 BE-PAL『ゴリラ先生・山極寿一の

課外授業 森の声、ゴリラの目』

家畜化の謎	43(5): 59-61
人間の本質と文明の行方	43(6): 59-61

⑤ 山極壽一 Rechesse『The Wisdom of Primates』

人間が置き忘れたもの	43: 24-25
社交という不思議な空間	44: 26-27
対面の本当の意味	45: 26-27
親離れと子離れの時期	46: 32-33

⑥ 犬山市 広報犬山「モンキーレポート」

第73回 5月の第1週は「国際マカク週間」	
2023年6月号	赤見理恵
第74回 園内の野生動物の調査	
2023年7月号	阪倉若菜
第75回 犬山のニホンカモシカ標本を残す	
2023年8月号	新宅勇太
第76回 中学生のモンキーワーク	
2023年9月号	高野智
第77回 密猟・密輸を考える	
2023年10月号	高田晃行
第78回 国際テナガザルの日	
2023年11月号	堀川晴喜
第79回 冬の風物詩「たき火にあたるサル」と サルの文化的行動	
2023年12月号	赤見理恵
第80回 ニシゴリラと“奇跡のみかん”	
2024年1月号	廣澤麻里
第81回 アヌビスヒビの誕生日会	
2024年2月号	川原宇翔
第82回 3月3日は世界野生生物の日	
2024年3月号	赤見理恵

⑦ その他記事

山極壽一. (2023) 人類の歴史・哲学学ぼう—技術の過
信戒め未来描く. 日本経済新聞朝刊. 2023年4月26
日.

山極壽一. (2023) 天眼 人新世と環境正義. 高知新聞朝
刊. 2023年8月7日.

山極壽一. (2023) 元京大総長が10代に語る「学びの本
質」. 不登校新聞. 2023年8月1日.

山極壽一. (2023) 2023年 私の3冊. 公明新聞. 2023
年12月25日.

山極壽一. (2024) 今の世界の常識を疑え—混迷の時代
人間のあり方見直す契機に. 毎日新聞朝刊. 2024
年2月10日.

山極壽一. (2024) 新たな社交で文化再構築 中日懇話
会「人類学者山極壽一さん」. 中日新聞朝刊. 2024
年3月7日.

山極壽一. (2024) 京大変人講座から変人学会へ. 京都新
聞朝刊. 2024年3月24日.

山極壽一. (2024) 産学の人材交流盛んに 国立大学法
人化20年を聞く⑤. 日本経済新聞朝刊. 2024年3
月26日.

山極壽一. (2024) 地域住民との協力大切—先駆者の功
罪から学ぶ おかげさんで今「ゴリラ研究し40年
山極壽一」. 徳島新聞朝刊. 2024年3月19日.

(4) そのほか執筆

Costa R. (2023) Der Einfluss von Touristen auf
Berfforillas (translated article: “The impact of tourist
visits on mountain gorilla behavior and social cohesion:
risks of close proximity to tourists”). Gorilla Journal.
67: 14-16.

Costa R. (2023). Close encounters with mountain gorillas:
Tourists gone bananas! The Academic, Research,
explained. The University of New South Wales. (online)

林美里. (2024) 〈指定討論〉霊長類学の視点から人間の
「言語」を考える. 科学. 94(1): 70-72.

倉本聰, 山極壽一, 林原博光. (2023) 愚者の質問 63 総集
編「人間」と「科学」の海拔ゼロを訪ねて. 季刊カム
イミントラ. 63: 50-61.

澤田昌人, 山極壽一. (2023) ぼくらは、なにを、どうし
て心ときめかせたのか. 地球研ニュース. 87: 2-7.

田中千聖, 伊藤英之, 伊谷原一, 木下こづえ. (2023) 「ス
トレス」を行動とホルモンから分析する. 生物の科学
遺伝. 77: 358-363.

豊田有. (2023) 死を恐れるのは人間だけ…サル研究者が
“タイの森の中”で見た「驚きの光景」. 現代ビジネス.
2023年6月19日号.

豊田有. (2023) 「多死社会・日本」で「我々はどう“死”
と向き合うのか」…動物の「死」に対する行動にヒン
トがある…!. 現代ビジネス. 2023年6月19日号.

山極壽一. (2023) ゴリラに学んだ人間の本質. ACADEMIA.
190: 18-31.

山極壽一. (2023) 京都市動物園と京都大学 いのちかが
やく京都市動物園構想2020、京都市動物園120周年
に寄せて「私と京都市動物園」. 動物園だより. 196:
4-5.

山極壽一. (2023) 思春期とは何か—ゴリラからの提言.
桐光学園大学訪問授業高校生と考える危機の時代の必
須教養『21世紀の突破口』. 279-293.

- 山極壽一. (2023) 共同の子育てが人間の社会力の源泉. LD/ADHD&ASD. 21(2): 1.
- 山極壽一. (2023) ゴリラの老いは美しい. 明日の友. 263: 10-11.
- 山極壽一. (2023) 動物に対する誤解から人間社会の本質を考える. 日本学術会議シンポジウム「人類学者と語る人間の「ちがいと差別」報告書. 3-7.
- 山極壽一. (2023) 人新世の脱構築. 日仏文化. 92: 13-21.
- 山極壽一. (2023) 分かち合う社会. 文部科学省検定済教科書 高等学校国語科用「論理国語」. 157-165.
- 山極壽一. (2023) 小説を書きながら音楽を奏で、踊っている「村上春樹」を読む. AERA 23.4.17, No.18: 11-12.
- 山極壽一. (2023) コミュニケーションの進化と図書館の未来. 国立国会図書館月報. 745: 6-7.
- 山極壽一. (2023) 賀茂祭・葵祭・賀茂御祖神社. 18-19.
- 山極壽一. (2023) 人類はどこで間違ったのか、何を失ったのか、そしてこれから何をを得るのか? MURYOJU. 129: 11-12.
- 山極壽一. (2023) やわらかい思考と実践の哲学者. 現代思想 2023 年 5 月臨時増刊号 総特集「鷲田清一」. 153-157.
- 山極壽一. (2023) 日本の真の国際化を目指して. IDA 現代の高等教育. 650: 2-3.
- 山極壽一. (2023) 島の未来可能性. 季刊 iichiko 特集「島の自然と文化学. 8-22.
- 山極壽一. (2023) 「他者実現」が大事 だますより騙されろ. 日刊ゲンダイ. 5 月 5 日.
- 山極壽一. (2023) 保育者は「子どもの時間」をともに生きる存在であれ! あそびと環境 0・1・2 歳. 2023. 7 月号: 8-9.
- 山極壽一. (2023) 「水のをむ」のはじまりって? 新百姓. 001: 90-91.
- 山極壽一. (2023) 共感力を鍛え、人々が寄り合い助け合う社会へ 特集「コミュニケーションのゆくえ」. あらきとうりょう. 291: 14-23.
- 山極壽一. (2023) 山極先生、ゴリラは「ぼけ」るんですか? ちゃぶ台. 11: 125-140.
- 山極壽一. (2023) 書評『Earth for All 万人のための地球』学鐙. 2023 夏号: 56-58.
- 山極壽一. (2023) 人間の持っている力を回復させ、レジリエントな未来を構築する. 産業新潮. 2023 年 7 月号: 6-14.
- 山極壽一. (2023) 驚きいっぱいのリヴィングストーン. リヴィングストーン著『アフリカ探検記』ナビゲーション. 1-7.
- 山極壽一. (2023) 身体性一踊るんだ。踊り続けるんだ。何故踊るかなんて考えちゃいけない。What is Energy? 花椿. 2023 年春夏号: 24.
- 山極壽一. (2023) 常識の壁を超える 特集「視野を広げる」. やくしん. 2023 年 6 月号: 18-21.
- 山極壽一. (2023) 行為に価値を見出す「遊動する社会」の到来へ向けた未来可能性の追求. 東京経済特別号「SDGs に取り組む大学特集」. 5: 10-11.
- 山極壽一. (2023) ヒトの共感力 特集「共に在る、共に生きる」. 学鐙秋号. 120(3): 4-8.
- 山極壽一. (2023) 森から見つめた「人間の本質」. 季刊読書のいづみ. 176: 14-21.
- 山極壽一. (2023) 「人間とは何か」を知るため密林に入り、ゴリラの国に留学する 知の探究者. 蛭雪時代. 2023 年 10 月号: 45-48.
- 山極壽一. (2023) コミュニケーションの本質はリズムを同調させること. SHORINJI KEMPO. 2023 Autumn: 22-25.
- 山極壽一. (2023) 戦争は人間の本性ではない. 公研. 721: 16-17.
- 山極壽一. (2023) 大学の自治と学問の自由—危機の時代にこそ生きてくる. 全国革新懇ニュース. 2023 年 11 月号: 1.
- 山極壽一. (2023) 適切な社交による契約社会から信用社会への移行が安全と健康をもたらす. 地方公務員安全と健康フォーラム. 126: 2-3.
- 山極壽一. (2023) 美德と道徳の違いを超えて. 青淵. 897: 3-4.
- 山極壽一. (2024) 多業・兼業の時代が。一日も早く自立して複数の自分を磨け「新しい時代」の生き方、働き方。ダイヤモンドセレクト. 2024 年 1 月号: 34-35.
- 山極壽一. (2023) 推薦のことば In: 農林水産省他 (監修) 世界農業遺産. 3.
- 山極壽一. (2024) 何が起ころうともゴリラのように泰然自若「私が大切にしている 10 のこと」. 文藝春秋. 2024 年 1 月号: 184-191.
- 山極壽一. (2024) メッセージ. 動物園ランドスケープ. 2: 3.
- 山極壽一. (2024) 人間と動物の境界はどこにあるのか? 人間は時間を止めて文明を作った. 現代思想「ビッグ・クエスチョン—大いなる探求の時代」. 52-1: 115-120.
- 山極壽一. (2024) 美しさがあるというのは、ケンカとか暴力、戦争なんかとは全く違う 武道の可能性. SHORINJIKENPO. 43(4): 22-25.
- 山極壽一. (2024) 核の時代を超えて未来を創るために. 子どもの本棚. 665: 21-23.
- 山極壽一. (2024) 人間にとって学びとは何か—ゴリラの眼でみた人間社会 野生に学ぶ「未知の世界」の生き方. 鎌倉女子大学学術研究所報. 24(別冊): 51-55.
- 山極壽一. (2024) ゴリラに学んだ人間の本質について. おおやまと. 令和 6 年 3 月号: 1-3.
- 山極壽一. (2024) 信頼は時間の関数. In: 離島経済新聞社 (編) 世界がかわるシマ思考—離島に学ぶ、生きるすべ. pp. 97-102.
- 山極壽一. (2024) 人は旅によって進化した. 未来社会の探求 VOL. 1. Travel Journal. 2024.4.1: 19.
- 山極壽一. (2024) 人の遊び、ゴリラの遊び. JAPONisme. 34 SPRING: 4-7.
- 山極壽一, 藤重貞慶. (2023) 本当に幸福な未来をつくるには新しい価値観を見つけるための「気付き」、そして「共感力」が重要. 藤重貞慶のエース TOP インタビュー「未来のストーリーを語ろう」第 8 回. ACE. 280: 26-30.
- 山極壽一, 伊藤雄馬. (2023) 言語の起源は踊りだった—森で暮らしたふたりの研究者がたどり着いた大胆新説. 週刊プレイボーイ. 2023 年 No. 47/48: 54-57.
- 山極壽一, 梶田真章, 日戸興史, 塩瀬隆之, 谷本有香. (2024) The « Question » Conference 未来会議の緊急提言! 人を導く「問いの力」. Forbes. 2024 年 3 月号: 18-25.

山極壽一, 鈴木俊貴. (2023) 森で動物と暮らした研究者たちが語る「現代人が失ったもの」. 週刊プレイボーイ. 2023 年 No. 34/35: 50-53.

Yamagiwa J, Tachikawa E. (2023) Redevelopment and Preservation: Urban Planning Lessons from the Past. Interview. YNK, Tokyo Tatemono.

山極壽一, 田中孝幸. (2023) Work Magic NARA # 04, BONCHI (一般社団法人 TOMOSU)

(5) 書籍の監修・編集協力

① PHOTO ARK 生命の賛歌. (ジョエル・サートレイ 写真・著, 藤井留美 訳, 日経ナショナル ジオグラフィック社.) 綿貫宏史朗 (監修)

6. 学会参加

(附属動物園部、学術部のみ。JMC で開催したものを除く)

(1) 第 39 回日本霊長類学会大会

日程：2023 年 7 月 7 日～7 月 9 日

会場：兵庫県民会館（兵庫県神戸市）

林美里、高野智、赤見理恵、新宅勇太、
豊田有、Raquel Costa、田中ちぐさ

(2) 第 72 回日本美術教育学会大会

日程：2023 年 8 月 11 日～8 月 12 日

会場：中部学院大学（岐阜県各務原市）

林美里、江藤彩子

(3) 日本哺乳類学会 2023 年度大会 100 周年記念沖縄大会

日程：2023 年 9 月 7 日～9 月 10 日

会場：琉球大学（沖縄県西原市）

那覇文化芸術劇場なはと（沖縄県那覇市）

新宅勇太

(4) 第 25 回 SAGA シンポジウム

日程：2023 年 10 月 21 日～10 月 22 日

会場：秋田県立大学、秋田市大森山動物園

（秋田県秋田市）

林美里、赤見理恵、綿貫宏史朗、武田康祐

(5) PWS International Symposium 2023

日程：2023 年 11 月 16 日～11 月 17 日

会場：1 京都大学理学セミナーハウス（京都市左京区）

新宅勇太、Raquel Costa

(6) 第 64 回日本動物園水族館教育研究会室戸大会

日程：2024 年 2 月 16 日～2 月 18 日

会場：室戸市保健福祉センターやすらぎ、

むろと廃校水族館（高知県室戸市）

赤見理恵

(4) 第 5 回動物園水族館大学シンポジウム

日程：2024 年 3 月 9 日～3 月 10 日

会場：京都大学理学セミナーハウス（京都府京都市）

新宅勇太、綿貫宏史朗、豊田有、
武田康祐、浮瀬百々香

7. 学会・研究会での発表（プリマーテス研究会を除く）

赤見理恵. (2023) 日本モンキーセンター（JMC）の趣旨、活動（研究者、一般市民との交流）. 第 39 回日本霊長類学会大会 自由集会「新たなニホンザル保全・管理のネットワーク ～ニホンザルの研究・行政・一般市民をつなぐ試み～」.

赤見理恵, 高野智, 林美里. (2024) 高等学校の探究活動で動物園を活用する. 第 64 回日本動物園水族館教育研究会室戸大会.

赤見理恵, 綿貫宏史朗, 辻内祐美, 荒木謙太, 高野智. (2023) 「世界ニホンザルの日」2 年間の成果と課題. 第 25 回 SAGA シンポジウム.

Brandao A, Rodrigues E, Costa R. (2023) Quão diferentes são os lémures? Um estudo comparativo da personalidade dos lémures-de-cauda-anelada (*Lemur catta*) e dos lémures-vermelhos (*Varecia rubra*). The 2nd Edition of the Open Meeting of Portuguese Primatology.

Costa R. (2023) People and Gorillas, from Uganda to Japan: the impacts of interactions between tourists and gorillas on their behavior and species conservation. PWS Symposium 2023.

Costa R. (2023) Por que os gorilas precisam de distanciamento social? The 2nd Edition of the Open Meeting of Portuguese Primatology.

Costa R, Romano V, Pereira AS, Hart JD, MacIntosh A, Huffman MA, Takeshita RS, Kalema-Zikusoka G, Bercovitch F, Tomonaga M, Hayashi M. The impact of tourist visits on mountain gorilla behavior in Uganda: proximity to tourists and risk of extinction. 第 39 回日本霊長類学会大会.

Hart EN, Costa R, Takeshita RSC. (2023) Behavioral and physiological responses of zoo-housed White-Cheeked Gibbons (*Nomascus leucogenys*) during acclimation to a new exhibit. The 37th Annual Graduate Research Symposium, Kent State University.

橋戸南美, 土田さやか, 伊藤響生, 本田剛章, 新宅勇太, 半谷吾郎, 牛田一成. (2023) 屋久島山頂部ニホンザルのササ食を支える腸内細菌の機能特性. 第 39 回日本霊長類学会大会.

林美里. (2023) 類人猿の多様性から見るヒトの子育て. 「親性」科研・2023 年度第 3 回研究会.

林美里. (2023) 研究者の視点から大型類人猿の飼育について考える. 第 25 回 SAGA シンポジウム.

林美里. (2024) 霊長類の子育てと社会の多様性—「親性」教育への視座. 「親性」科研・2023 年度第 4 回研究会.

Hayashi M, Takeshita H. (2023) Proto-language in chimpanzees and humans: A view from hierarchical complexity in object manipulation and social interaction. The Joint Meeting of the International Primatological Society and the Malaysian Primatological Society. (online presentation)

Hayashi M. (2023) Cognitive development in great apes and humans. XL Encontro Anual de Etologia. (online presentation)

林美里, 竹下秀子. (2023) ヒトの言語につながる認知発達と階層性の進化的基盤. 第 39 回日本霊長類学会大会.

岩出進, 伊藤喜之, 久田美貴, 柳井徳磨, 綿貫宏史朗, 井之上尚文, 村上智亮. (2023) ボルネオオランウータン (*Pongo pygmaeus*) にみられた全身性 AL κ 鎖アミロイドーシスの 1 例. 第 10 回日本アミロイドーシス学会学術集会.

新宅勇太, 赤見理恵, 高野明香, 高野智. (2023) 愛知県犬山市におけるニホンカモシカの最近の状況: 発見された遺体とカメラトラップ調査. 日本哺乳類学会 2023 年度大会 100 周年記念沖縄大会.

新宅勇太, 綿貫宏史朗, 高野智. (2024) つくる・のこす・つかう 日本モンキーセンターの生物学標本. 第 5 回動物園水族館大学シンポジウム.

高野智, 赤見理恵. (2023) 中学 1 年生は霊長類をどのように分類するのか. 第 39 回日本霊長類学会大会.

武田康祐, 田中ちぐさ, 阿野隆平, 高田晃行, 綿貫宏史朗. (2023) 欧州の動物園における霊長類の展示事例. 第 25 回 SAGA シンポジウム.

武田康祐, 田中ちぐさ, 阿野隆平, 高田晃行, 綿貫宏史朗. (2024) 欧州の動物園における霊長類の展示事例. 第 5 回動物園水族館大学シンポジウム.

豊田有, ゴンカルヴェス アンドレ, 丸橋珠樹, Malaivijitnond Suchinda, 松田一希. (2023) タイ王国に生息するベニガオザルで観察された死体に対する反応の事例報告. 第 39 回日本霊長類学会大会.

Toyoda A, Maruhashi T, Malaivijitnond S, Matsuda I. (2023) Necrophilic Behaviour of Free-ranging Stump-tailed Macaques (*Macaca arctoides*) in Thailand. The Joint Meeting of the International Primatological Society and the Malaysian Primatological Society.

浮瀬百々香, 坂口真悟, 岡部直樹. (2024) フランソワルトン[®]レンの人工哺育報告. 第 5 回動物園水族館大学シンポジウム.

綿貫宏史朗, 田中ちぐさ, 武田康祐, 奥川みらい, 高田晃行, 阿野隆平. (2023) 欧州 11 園における霊長類の混合展示実施状況について. 第 25 回 SAGA シンポジウム.

綿貫宏史朗, 田中ちぐさ, 武田康祐, 奥川みらい, 高田晃行, 阿野隆平. (2024) 欧州 11 園における霊長類の混合展示実施状況について. 第 5 回動物園水族館大学シンポジウム.

Yamanashi Y, Ikkatai Y, Honjo M, Tokuyama N, Akami R, Wilson D, Buchanan-Smith H. (2023) A comparison of attitudes towards animal welfare between British and Japanese zoo visitors and professionals. BIAZA research conference.

Yamanashi Y, Ikkatai Y, Honjo M, Tokuyama N, Akami R, Wilson D, Buchanan-Smith H. (2023) A comparison of attitudes towards zoo animal welfare between British and Japanese zoo visitors. 32nd International Society for Anthrozoology Conference.

山梨裕美, 本庄萌, 一方井祐子, 徳山奈帆子, 赤見理恵, Duncan Wilson, Hannah Buchanan-Smith. (2023) 日本とイギリスの動物園来園者と関係者の動物福祉に関する認識に関する一貫性と相違. 第 71 回動物園技術者研究会.

山梨裕美, 本庄萌, 一方井祐子, 徳山奈帆子, 赤見理恵, Duncan Wilson, Hannah Buchanan-Smith. (2023) 日英の動物園来園者における動物福祉に関する認識と信頼. 動物の行動と管理学会 2023 年度大会.

8. 講演ほか

Costa R. (2023) Desde a planície até à montanha: ecologia, comportamento e conservação de gorilas (*Gorilla* sp.). Pre-conference workshop, Delivered in the Senior University of Almada.

Costa R. (2023) Por que os gorilas precisam de distanciamento social? Delivered in the MSc Primatology program at Faculdade de Ciências Sociais e Humanas, Universidade Nova de Lisboa.

林美里. (2024) チンパンジーから見たヒトの発達と親子関係. りふ事例研究会第 12 回臨床心理セミナー. (岐阜県岐阜市)

木下晋, 山極壽一. (2023) 対談「人間の本質について」. 第 25 回図書館総合展. (神奈川県横浜市)

田中ちぐさ. (2023) SNS などの情報発信をととした霊長類とヒトとの関係づくり第一歩. 第 39 回日本霊長類学会大会公開シンポジウム「霊長類とヒト社会の新たな関係づくりがもたらす未来—霊長類をめぐる多様な保全活動の最前線—」.

豊田有. (2023) タイ王国に生息するベニガオザルの生態と保全の現状. 京都市動物園 動物園 DE サイエンストーク. (京都府京都市)

豊田有. (2023) ダーウィンが来た! ご利用ガイド ~ディレクター×研究者~. 日本動物行動学会第 42 回大会 学会特別企画 パネリスト. (京都府京都市)

豊田有. (2023) データ駆動型研究から見えてきたベニガオザルの知られざる社会生態. 京大学生態学研究センター第 350 回生態研セミナー. (滋賀県大津市)

Toyoda A. (2023) Approaching the Unknown Reproductive Ecology of the Stump-tailed Macaque through Behavioral and Genetic Analysis. Seminar in Zoology I&II, Department of Biology, Faculty of Science, Chulalongkorn University. (Bangkok, Thailand)

Toyoda A. (2023) Current situation of wild Stump-tailed macaque's research in Thailand, as the Buddhist country, and issues related to their interaction with humans. Primates in Asian Anthropogenic Environments. (Kyoto, Japan)

山極壽一. (2023) 人間らしい学びとは何か. ポプラ社中高生向け講義. (東京都千代田区)

山極壽一. (2023) 人間にとって学びとは何か. 千葉工業大学入学式特別講演. (千葉県千葉市)

山極壽一. (2023) 人類はどこで間違えたのか—コロナ後の未来へ向けて. サントリー文化財団至誠乃会講演. (東京都港区)

山極壽一. (2023) G7 環境イベント「Think about Earth」パネリスト. (北海道札幌市)

山極壽一. (2023) 人と自然の相互関係を屋久島から考える—進化の観点から文明の再考 薩摩会議パネリスト. (鹿児島県鹿児島市)

山極壽一. (2023) 人間にとって学びとは何か? 鳥羽高校特別講義. (京都府京都市)

山極壽一. (2023) 思春期と未来の社会. 香蘭女学校中等科特別講義. (東京都品川区)

山極壽一. (2023) 人類の進化と文化のミスマッチ. 京都大学エグゼクティブ・リーダーシップ・プログラム. (京都府京都市)

山極壽一. (2023) 山尾三省記念会シンポジウム「アニミズムという希望—山尾三省が遺したもの」パネリスト. (鹿児島県屋久島町)

山極壽一. (2023) 山尾三省記念会特別講演「アニミズムという希望」と「ヤクシマザルを追って」について心に残ること. (鹿児島県屋久島町)

山極壽一. (2023) 人類はどこで間違ったか？ 京都大学経済学部同窓会東京支部総会講演. (東京都千代田区)

山極壽一. (2023) 人間の共同性はどう進化したか. 和敬塾創立記念日塾祭講演. (東京都文京区)

山極壽一. (2023) 暴力はどこから来たか—進化と歴史から考える. 京都外国語大学特別講義. (京都府京都市)

山極壽一. (2023) 人間の本质とコロナ後の未来. 千葉大学大学院医学薬学府博士課程講義科目「卓越教養特論」. (千葉県千葉市)

山極壽一. (2023) 日本の研究力向上へ向けて. 日本高等教育学会シンポジウム「大学の活性化と高等教育改革」講演. (千葉県千葉市)

山極壽一. (2023) 人新世の意味をゴリラと考える. 千里ライフサエンスフォーラム講演. (大阪府豊中市)

山極壽一. (2023) 暴力と戦争の起源と行方. 大阪倶楽部講演. (大阪府大阪市)

山極壽一. (2023) 人間的な成長とは何か—ゴリラから見た人間の子どもの不思議. きたつな学童主催 2023 年度地域貢献イベント子育て講演会. (オンライン)

山極壽一. (2023) 共感革命とコロナ後の未来. 比叡山未来会議 2023 一人、社会、技術を照らす想像と創造—基調講演. (滋賀県大津市)

山極壽一. (2023) ゴリラから見た人間の子ども不思議. 令和 5 年度兵庫県小児科医会定時総会特別講演. (兵庫県神戸市)

山極壽一. (2023) 文化の本质とコロナ後の社会. 令和 5 年度京都市地域女性大会講演. (京都府京都市)

山極壽一. (2023) コロナ後の社会と大学. 三重モーニングカレッジ. (三重県津市)

山極壽一. (2023) 教育の使命—私が出会った先生たち. 兵庫教育大学上廣道徳教育アカデミー開設記念講演会. (兵庫県神戸市)

山極壽一. (2023) 人間の本质とこれからの社会の在り方. 関西経済連合会評議員会講演. (大阪府大阪市)

山極壽一. (2023) 教育の原点とは何か. 令和 5 年度校長講座. (京都府京都市)

山極壽一. (2023) 審査員. Q-1 コンテスト. (東京都江東区)

山極壽一. (2023) SWITCH CHAT for actions ~ Z 世代が企業に期待するサステナブルアクションとは？ パネリスト. (東京都渋谷区)

山極壽一. (2023) 人類の進化や文化と生物多様性の関り—暮らしの豊かさを支えるものとは—. きょうと生物多様性センター設立記念イベント「京都の暮らしや文化と生物多様性の恵み」基調講演. (京都府京都市)

山極壽一. (2023) 日本学術会議公開シンポジウム「ニンゲン学的環境教育の提案—ローカルとグローバルのはざまで」ディスカッサント. (東京都港区)

山極壽一. (2023) AI 時代に求められる人間の知恵. 大阪懇談会講演. (大阪府大阪市)

山極壽一. (2023) コミュニケーションの進化とコロナ後の社会. 令和 5 年度中部地区獣医師会大会特別講演. (静岡県静岡市)

山極壽一. (2023) 言語の発生と戦争. あいんしゅたいん「湯川博士の贈り物」講演. (オンライン)

山極壽一. (2023) NPO 法人「日本に健全な森を作り直す委員会」結成 15 周年記念シンポジウム「日本の進む道を示そう」 第 2 部「大地震が来るのに、日本は何をやっているのか」パネリスト. (東京都港区)

山極壽一. (2023) 生き物と人の持続的関係の再構築へ向けて. 日本建築学会大会 地球環境協議会シンポジウム「人新世時代における気候変動への建築・都市・地域の応答」講演. (京都府京都市)

山極壽一. (2023) 人類の本质と文明の行方. 第 75 回日本皮膚科学会西部支部学術大会特別講演. (沖縄県那覇市)

山極壽一. (2023) 人類の飛躍と没落—共感社会と言葉のもたらした世界. JT 生命誌研究館 30 周年記念シンポジウム基調講演. (大阪府高槻市)

山極壽一. (2023) ゴリラに学ぶ子育てとコミュニケーション. 金沢大学金沢県立図書館特別講演. (石川県金沢市)

山極壽一. (2023) 人間の本质とコロナ後の未来. 第 38 回保団連医療研究フォーラム記念講演. (東京都千代田区)

山極壽一. (2023) ゴリラに学ぶ人間の本质. NPO 周防大島ふるさとづくり のん太の会 周防大島町文化振興会講演. (山口県周防大島町)

山極壽一. (2023) 言葉を超越する相互理解をするために. 第 1 回大阪大学外国語学部・外国学専攻シンポジウム＝大阪大学大学院人文学研究科附属複言語・複文化共存社会研究センター設立記念＝基調講演. (大阪府箕面市)

山極壽一. (2023) 人類はどこで間違ったか—ゴリラから見た人間社会のゆくえ. 第 25 回構想日本アドバイザー会議講演. (東京都千代田区)

山極壽一. (2023) ゴリラに学ぶ人間の本质. 未来の里山研究会講演. (岡山県西栗倉村)

山極壽一. (2023) NPO 法人ウッドデッキシンポジウム 2023「未来の仕事 / 秋田に学ぶ過去～現在～未来」パネリスト. (秋田県秋田市)

山極壽一. (2023) 人間にとって学びとは何か—ゴリラの目で見た人間社会 野生に学ぶ「未知の世界」の生き方. 鎌倉女子大創立 80 周年記念講演. (神奈川県鎌倉市)

山極壽一. (2023) 共感社会の進化と第二のノマド時代. 学士会 YELL シンポジウム「特別ダブル講演会 “豊か” に生き抜く未来への道標」. (東京都千代田区)

山極壽一. (2023) 人類の進化と文化のミスマッチ. 愛知県民医連学術運動交流会講演. (ビデオ録画)

山極壽一. (2023) 人間にとって学びとは何か. 久留米市総合教育会議講演. (福岡県久留米市)

山極壽一. (2023) ゴリラ訪問記. 関西たちばな同窓会講演. (京都府京都市)

山極壽一. (2023) ゴリラから見た人間の本质. 大倭会文化講演会. (奈良県奈良市)

山極壽一. (2023) コスモス国際賞 30 回の歩み. コスモス国際賞 30 周年記念のつどい・シンポジウム. (東京都渋谷区)

山極壽一. (2023) 京都環境文化学術フォーラム国際シンポジウム「地球という庭で私たちは生きる」パネリスト. (京都府京都市)

山極壽一. (2023) 人間社会の由来と未来. 第 67 回実践人京都研修会講演. (京都府京都市)

山極壽一. (2023) 食の進化とコミュニケーション. 食の未来研究フォーラム「食の未来への架け橋」. (東京都文京区)

山極壽一. (2023) 食の進化とコミュニケーション. GOLDRATTE 講演. (京都府京都市)

山極壽一. (2023) 野生から考える人間の文化的な力と子どもたちの未来. 子どもみらいフォーラムおおさか記念講演. (大阪府大阪市)

山極壽一. (2023) 私たちの社会について考える. 旭川工業高等専門学校 EN 講座. (北海道旭川市)

山極壽一. (2023) 学びの本質とは何か. 数研出版講演会. (京都府京都市)

山極壽一. (2023) 人間の本質と情報通信革命. 慶應義塾タ学講演会. (東京都千代田区)

山極壽一. (2023) 金沢 21 世紀美術館シンポジウム「新たなエコロジーと芸術上の実践」パネリスト. (石川県金沢市)

山極壽一. (2023) 「サル化」する人間社会における大学の役割—観光学への期待. 大阪観光大学学術シンポジウム基調講演. (大阪府熊取町)

山極壽一. (2024) 屋久島で人間の本質を学ぶ. 薩摩会議屋久島合宿第 1 セッション. (オンライン)

山極壽一. (2024) 野生の窓としての動物園の歴史. 京都市動物園開園 120 周年基調講演. (京都府京都市)

山極壽一. (2024) デジタル社会を生き抜くために—豊かさの知恵をゴリラに学ぶ. 京都政経文化懇話会講演. (京都府京都市)

山極壽一. (2024) ゴリラがすすめる友だちとのつき合い方. くにたち SDGs まつり 子ども大学くにたち講演. (東京都国立市)

山極壽一. (2024) ゴリラといっしょに SDGs を考えてみよう. くにたち SDGs まつり 子ども大学くにたち講演. (東京都国立市)

山極壽一. (2024) 人間にとって学びとは何か. 宮城県教職員組合講演. (宮城県松島町)

山極壽一. (2024) ゴリラのフンコロジー. 第 2 回排泄の自然誌を編む研究会「出すことと出たものへのまなざし」特別講演. (長野県松本市)

山極壽一. (2024) AI 時代に求められる人類の役割. 昇絆会講演. (兵庫県神戸市)

山極壽一. (2024) 人間の本質とコロナ後の未来. 同朋学会 2023 年度学術大会講演. (愛知県名古屋市)

山極壽一. (2024) 人間にとって学びとは何か. 博報堂教育財団 EDUCATOR GATHERING 講演. (東京都港区)

山極壽一. (2024) 人間の性の進化と家族の行方. 乳房文化研究会「乳房と WELL-BEING」記念講演. (京都府京都市)

山極壽一. (2024) 「人新世」のわたしたち～人類の未来をともに考える. ビキニ水爆実験被災 70 年「3・1 ビキニ記念のつどい」講演. (東京都港区)

山極壽一. (2024) 共感社会と言葉のもたらした世界—戦争は人類の本性か. 中日懇話会講演. (愛知県名古屋市)

山極壽一. (2024) 人新世を生き抜くために—豊かさの知恵をゴリラに学ぶ. 日本工業倶楽部講演. (東京都千代田区)

山極壽一, 阿部知暁. (2023) ゴリラをみること、ゴリラを知ること. 東京都美術館上野アーティストプロジェクト「いのちをうつす—菌類、植物、動物、人間」講演会. (東京都台東区)

山極壽一, 越前屋俵太. (2023) ゴリラから見た人間の非常識—ゴリラは俺の先生だ. 京大変人講座 IN タダノ 2023. (香川県さぬき市)

山極壽一, 越前屋俵太, 六井淳. (2024) 変人×AI ～AI 時代を生き残るのは「変人」！？～. 変人学会設立記念！第 2 回ヘンボジウム. (京都府京都市)

山極壽一, 金井政明. (2024) 第 2 のノマド時代と社会的共通資本. 京都大学人と未来研究院社会的共通資本と未来寄附研究部門特別シンポジウム「進化する社会的共通資本」基調対談. (京都府京都市)

山極壽一, 森啓子. (2023) ゴリラにとり憑かれたふたりのほろ酔い対談「スマホを持たないゴリラたち」. (京都府京都市)

山極壽一, 森山未来. (2024) 異種間クロストーク. IHJ CULTURAL LOBBY. (東京都港区)

山極壽一, 永田和宏. (2023) 対談 科学のおもしろさをみんなと共有したい—答えより問いを求めて. JT 生命誌研究館創立 30 周年の集い「科学の未来と生命誌」. (東京都中央区)

山極壽一, 鈴木俊貴. (2023) 『動物たちは何をしゃべっているのか』刊行記念対談. (大阪府大阪市)

9. 連携研究の受入

2023001

村松明穂 (秋田県立大学)

飼育下霊長類におけるポータブル式タッチモニタ装置を用いたオープンラボ型比較認知研究

アジア館のマカカ属 (アカゲ・ニホン・ミナミブタオ・チベット・ボンネット・トク) を対象に、ポータブル式タッチモニタ装置を用いた研究を実施した。

タッチモニタ課題は、1) 画面上の大きなドットをさわる、2) 小さなドット、3) 複数のドット、4) アラビア数字を順に、という内容で進めた。全グループがアラビア数字の順序の学習まで進んだが、その後の死亡・転出・入替え・復帰・新しいグループの形成・関係性の変化に伴う複数グループでの中心参加個体の変化や、高難易度の課題に取り組む頻度・時間が低下した個体の存在を踏まえ、全グループが再び「画面をタッチしたら食物報酬」を学習中である。

また、実験場面での社会性を比較した。限られた個体が装置を独占する種から、複数個体が比較的平等に接近する種まで、野生下での特徴を、動物園の飼育グループでも容易に再現・展示できた。実験外での行動も記録し、実験場面での行動との比較を目指している。

2023002

山口庄太郎, 結城健介 (天野エンザイム株式会社)

霊長類からの微生物分離と酵素供給源としての可能性評価に関する研究

日本モンキーセンターが飼育する葉食性コロブス類の糞便から各種乳酸菌用培地 (MRS、BL、TOS、GAM 培地) を用いて嫌気条件・37℃で、また一般的な細菌用培地 (SCD 培地) を用いて好気条件・37℃で菌を分離した。最終的に

コロブス類 5 種 9 頭から得られた 12 サンプルの糞便から腸内細菌 93 株を分離して酵素探索対象として保存した。これら 93 の分離菌株について、液体培地を用いた培養を実施し、その培養液中の新規酵素を探索した。2023 年度は新たに 3 種の酵素の探索を実施したが、優位な活性を示す株を見出すことはできなかった。今後も上記 93 株の分離菌株を用いて新規酵素の探索を継続してゆく。

2023003

川合伸幸（名古屋大学）

霊長類の行動伝播についての研究

本研究では、フサオマキザルを対象として、「同所に多個体が存在することが問題解決行動をうみだし、集団内の個体が互いに学ぶ」という仮説を実験的に検証することを目的とした。

今年度は、昨年度中に個体識別したフサオマキザルのオス群およびメス・オス群の行動観察データをまとめるとともに、実験装置の設計および作製と設置検討を行い、2 通りの開け方ができる実験装置に実際にエサを置いた実験を開始した。行動観察では、ブランコ遊び、高さ利用に注目して分析した。実験装置については、回転盤とスライド板による 2 通りの開け方ができるよう設計し、試作した装置をエサなしで設置してフサオマキザル各群の反応を観察し改良を重ねた。実験装置の最終的な形状が決まった後、エサを置いて各グループケージに設置して実験を開始した。

メス・オス群では、装置の一部を回転させることによってエサを取ることができた。オス群において、エサを得ることはなかったものの、スライド操作をする個体が出現した。どちらのグループも、装置が取り付けられると、(ときには不適切な操作も含め) 熱心に装置を操作し、環境エンリッチメントの一つとして有効であると考えられた。

今後、各グループにおいて、2 通りの開け方のどちらか一方でエサを得た個体の行動が他個体に広まるか観察する予定である。

2023004

糸井川壮大（明治大学／日本学術振興会）

低品質 DNA からの感覚受容体遺伝子群の効率的な配列決定法の検討

今年度は、日本モンキーセンター所蔵のワオキツネザルの筋肉標本のうち、状態のよい標本を選び、高純度のゲノム DNA を精製した。また、同センターの屋外飼育施設ワオランドにて、ワオキツネザルの新鮮な糞便を採材した。採材した糞便からは、複数の手法でゲノム DNA を精製し、最適な方法を検討した。次年度以降、ヒト配列に基づいたエクソンキャプチャーにより、シーケンスを行い、どの程度 of 感覚受容体遺伝子をキャプチャーすることができるのか検討を行う予定である。

2023005

萩原直道（東京大学）

クモザル下肢筋骨格系の二足歩行能力に関係する解剖学的特徴と力学特性に関する研究

霊長類の二足歩行運動を分析し、そこからヒトの二足歩行運動の特徴を対比的に明らかにすることは、ヒトの直立

二足歩行の起源と進化を考える上で重要な示唆を提供する。そのため、霊長類の二足歩行運動の分析的研究が世界各地で行われており、クモザルの二足歩行はニホンザルのそれよりも、ヒトに相対的に類似することが知られている。クモザルの二足歩行が、ヒトに比較的類似するのであれば、クモザルの下肢筋骨格系の形態・力学特性は、ニホンザルのそれと異なっていると予想される。本研究では、クモザル下肢筋骨格系の未固定標本を解剖し、歩行に関わる下肢筋骨格系の構造的特徴とその力学特性をニホンザルとの対比を通して明らかにし、ヒトの直立二足歩行の進化に必要な下肢筋骨格系の構造改変を解明することを目的とした。今年度、関節力学特性の計測準備を行った。次年度、本格的に着手できる予定である。

2023006

小林愛実（東京工業大学）

霊長類における鋤鼻器官の進化多様性に関する研究

広鼻猿類のうち、先行研究によって鋤鼻関連遺伝子に偽遺伝子化が見つかったヨザルに着目しました。ヨザル属の DNA サンプルを提供いただき、ミトコンドリア cytochrome b、鋤鼻関連遺伝子 2 種の配列をサンガー法によって決定しました。その結果、当初ナンセンス変異があることを予想していたヨザル属の鋤鼻関連遺伝子には変異は見つからず、別の鋤鼻関連遺伝子にナンセンス変異が見つかりました。後者の遺伝子については、ナンセンス変異をホモで持つ個体、ヘテロで持つ個体、変異を持たない個体が同一の種であるにも関わらず混在しており、ヨザル属内で段階的に鋤鼻関連遺伝子が壊れつつあることが示唆されました。

また、公開されているゲノムデータを用いて霊長類全体について鋤鼻関連遺伝子の配列の比較や自然選択圧解析を行いました。その結果、いまだに鋤鼻機能の退化が報告されていない系統でも鋤鼻関連遺伝子への純化選択が弱まっている可能性が示唆されました。

2023007

中村千晶（東京医科大学）

ボルネオオランウータン (*Pongo pygmaeus*) の比較解剖学的解析

ヒトの喉頭は発声に適した特殊な機能形態を有しているが、霊長類の喉頭の構造は二足歩行するヒトとは異なった特徴を有している。ボルネオオランウータン (*Pongo pygmaeus*) のフランジオスはロングコールという特有の音声を出すことができる。そこで本研究ではフランジオスであるフトシの喉頭において筋束の形態と走行に着目し、ヒトの喉頭との比較を含め、肉眼的な形態観察とその計測を行なった。その結果、オランウータンの輪状甲状筋前方部はヒトと比べより垂直方向に走行することから甲状軟骨の前方部分を強固に輪状軟骨方向に引き寄せることができる可能性を示唆した。これらの詳細な結果については、2024 年 2 月 4 日に第 68 回プリマーテス研究会にて口頭発表を行なった。今後は筋線維タイプの構成を調べるために切片標本を作成して筋線タイプから喉頭筋のメカニズムを考察する予定である。

2023008

牛田一成（中部大学）
ニホンザルの腸内細菌研究

モンキーバレイで飼育されているヤクシマザルの新鮮糞を採取し、嫌気性検体希釈液に懸濁した後、青酸配糖体アミグダリン加嫌気性 PY 培地で培養し、シアンガス発生量の測定および培地中遊離シアン量の測定を行った。その結果、飼育個体と昨年度に調べた屋久島の野生個体では、シアンガス発生量や培地中遊離シアン発生量に違いが見られることが分かった。また本年度は、モンキーバレイのヤクシマザルの糞より抽出した DNA および、昨年度に採取した屋久島山頂部のニホンザルの糞より抽出した DNA を用いて、次世代シーケンサーを用いた腸内細菌の菌叢解析を行った。ササ食を行う屋久島山頂部のヤクシマザルは、固形飼料を主食とする飼育の個体に比べて腸内細菌叢の多様性が低く、菌種の偏りが大きかった。本研究成果は、第 39 回日本霊長類学会で発表した。

2023009

松田一希（京都大学）
アヌビスヒヒの群れ形成機構の研究

霊長類の直線的な進行順序の規則性を解明することで、群れの社会機構を解明するための取り組みを、アヌビスヒヒを対象に検証している（2022 年 11 月～2023 年 2 月）。ヒヒは、毎朝屋内のケージから直線的な通路を通して屋外へと放たれる。そのため、昨年度はヒヒが放たれるゲートを正面から撮影できる位置に、ビデオカメラを設置し、出てくる全個体を撮影した。今年度は、撮影動画から屋外に出てくる個体を、飼育担当者と協力して個体識別し、その順列を社会ネットワーク生成アルゴリズム (Koda et al. 2020, PlosOne; Toyoda et al. 2023, Primates) にて分析するための準備を進めている。また本種は、屋外展示場の外縁を反時計回りに個体が秩序だてて移動をすることが日常的に観察されている。そこで、ヒヒの群れにおける調節された反時計回りの動きが、どのようなメカニズムで生じているかも検討している。データは昨年度に収集済みのため、現在は動画データから個体を自動でトラッキングするためのシステムを構築中である。

2023010

牛田一成（中部大学）
キツネザル類の腸内細菌研究

日本モンキーセンターで飼育されているワオキツネザル、クロキツネザル、ブラウンキツネザル、クロシロエリマキキツネザルの 4 種を対象として、各種の糞便から分離される乳酸菌の種構成および機能を比較した。排泄直後の糞便を嫌気条件の希釈液に採取し、乳酸菌分離用培地に塗抹後、37℃、嫌気条件下で 48 時間培養を行った。得られた分離株の 16S rRNA 遺伝子を用いた系統解析により、細菌種を同定したところ、キツネザル 4 種 7 個体より 27 種の腸内細菌の分離に成功した。クロキツネザル、シロクロエリマキキツネザル、ワオキツネザルの 3 種から分離された同一のビフィズス菌種を用いて、糖分解試験を行い、宿主の違いにおける糖分解機能の比較を行った。本研究成果はプリマーテス研究会で発表し、優秀ポスター発表賞を受賞した。

2023011

MACINTOSH Andrew（京都大学）
Behavioral Analytics for Animal Welfare in Zoo-housed Primates（飼育下霊長類の動物福祉に関する行動分析研究）

This study aimed to evaluate how various enclosure characteristics impact the behavior and welfare of mandrills (*Mandrillus sphinx*) at the Japan Monkey Centre, using behavioral diversity as a key indicator of welfare. From April to June 2023, we conducted 146 focal sessions observing 12 mandrills in six different enclosures. Behavioral diversity was calculated using Shannon's diversity index, and generalized linear mixed models were employed to analyze the data. Our results indicated that mandrills in enclosures with leaf litter substrates showed significantly higher behavioral diversity and more foraging behavior. Conversely, older mandrills exhibited reduced behavioral diversity, possibly due to age-related mobility issues. This suggests that naturalistic enclosure elements, such as leaf litter, can significantly enhance the behavioral welfare of mandrills by promoting more species-typical behaviors. We recommend incorporating leaf litter substrates in mandrill enclosures to promote natural foraging behaviors and improve overall welfare. Our findings also highlight the importance of considering age-related mobility constraints when assessing behavioral diversity, as it can provide insights into the specific needs of older animals. Updates are available on our website, www.zoentropy.net, and we are in the process of preparing a manuscript to be submitted to a zoo-focused scientific journal in 2024.

2023012

中村千晶（日本歯科大学）
ボルネオオランウータン (*Pongo pygmaeus*) の比較病理学的組織解析

ヒトの口腔粘膜では、癌の前駆状態として上皮層形態や細胞表現型の変化が重要で、経年的な異型変化の蓄積が口腔扁平上皮癌（口腔癌）の発症につながる。これまでの調査で、飼育下オランウータンでは、ヒトに類似した口腔内環境を示すことがわかってきた。今回の研究期間では、ボルネオオランウータンの舌組織を対象として、ヒト口腔癌の好発部位である側縁部粘膜の組織観察と病理診断用抗体による免疫染色を行った。結果、オランウータン舌粘膜組織の構成細胞に目立った異型変化は認められなかったが、ヒト口腔粘膜上皮の表現型マーカーであるサイトケラチン分子 (CK13, CK17) について発現を確認でき、特にヒトとの違いとして基底細胞層での CK17 発現所見が得られた（2023 年 10 月 21 日；SAGA25@ 秋田県立大学にて発表）。引き続き飼育個体の健康管理、病理診断精度向上を目指した組織標本の収集・データベース化を進める。

2023013

Laura Buck (Liverpool John Moores University)
A non-human primate model for Neanderthal / *Homo sapiens* hybridisation

In June-July 2023 I collected surface scan data of pelvis and crania from 7 Taiwanese macaque (*Macaca cyclopis*)

skeletons curated at the JMC. These virtual data are part of a project investigating skeletons from hybrids between Taiwanese macaques and Japanese macaques (*M. fuscata*). This non-human primate research is part of a wider project aiming to model hybridisation in hominin taxa. To examine the effects of hybridisation, it is necessary to characterise the shape of the full-bred taxa and the JMC *M. cyclopis* are necessary for that full-bred sample. To date, the pelvic bone scans have been virtually rearticulated and they, and the crania, have been digitised to collect shape data. The first presentation these data is planned for the European Society of Human Evolution conference in Zagreb, in September 2024 (abstract submitted). The presentation compares the pattern of admixture expression in pelvic shape between the *M. cyclopis* x *M. fuscata* hybrids and a sample of Indian x Chinese *M. mulatta* hybrids published as Buck et al., 2021 (Journal of Human Evolution). Following the conference, a journal article will be submitted.

2023014

小嶋匠（京都大学）

ヒトとマカクにおける骨迷路形態形成の分化

内耳（骨迷路）は聴覚・平衡覚と関係している器官であり、霊長類を含め哺乳類一般においてその形態の種間変異には機能差と系統情報が反映されているとされている。しかし、そうした相違が形成過程でどのような要因から生じてくるかは十分に理解されていない。ヒトの内耳の形態形成は出生時には完了しているが、その形態形成過程にほかの霊長類種と異なる特徴が存在するかを分析した。マカクの液浸胎児標本をCTとMRIで撮影し、解剖学的特徴点の空間座標値を用いて内耳と頭蓋の形態を既存のヒト胎児データと比較した。その結果、ヒトとマカクの両方で第二トリメスター後半終了までに蝸牛および半規管のサイズ成長が完了すること、またサイズ成長終了から出生前にかけて半規管が相互に離れていくこと、錐体内で内耳の前方への旋回が起こることを明らかにした。前方旋回については、ヒトでその程度が著しいことを認めた。

2023015

西村剛（京都大学）

霊長類における舌骨喉頭の器官形態に関する研究

日本モンキーセンターで死亡したフクロテナガザル1体から摘出した喉頭の新鮮試料を用いて、それに気流を与えて声帯振動を起こす吹鳴実験を行い、その振動特性を、ハイスピードカメラや声門電図 (EGG) 等により解析した。その声帯/声帯膜振動は、これまでの他のテナガザルのものとは異なることが示唆された。その運動生理学的差異は、両者の喉頭の解剖学的特徴の差異を反映している可能性がある。声帯モデルや数値シミュレーション解析を通じて、その解剖生理学的基盤を明らかにしていく予定である。

2023016

松村秀一（岐阜大学）

オナガザルの尻尾の長さに関わる遺伝子に関する研究

霊長類の尻尾の長短には生息域の気候や樹上性の強さなどが影響していると言われているが、長さの違いを生み出

す遺伝学的メカニズムはよくわかっていなかった。最近、ヒトや類人猿の尻尾衰退は、TBXT 遺伝子のイントロン6への約300塩基の挿入によって起きたと報告された (Xiaら、2024)。本研究では、日本モンキーセンターで飼育されているオナガザル科12種の糞を採取し、TBXT 遺伝子のイントロンの長さを調べた。さらに、ゲノムデータベースに登録されていた狭鼻猿類全23種のデータと合わせて、尻尾の相対的な長さとのイントロンの長さの間に関連があるかについて、系統関係を考慮した比較法を用いて調べた。しかし、既に報告されているもの以外の関連は見いだせなかった。ヒツジなどで報告されているように、TBXT 遺伝子のエキソンにおける変異が尻尾の長さに影響している可能性はある。

2023017

Nicholas Justyn (Swansea University)

霊長類の幼児体毛：形態と機能

ほとんどの脊椎動物は、幼児の色は目立たずカモフラージュする役割を果たすが、鳥類の一部では目立つ幼児色をもつ種があり、研究が進められている。霊長類でもルトンやコロブスでは目立つ幼児色をもつが、研究は進んでいない。本研究では、1) 幼児の体毛が、親の体毛や自然の背景に対して、同種の個体や捕食者にとっての目立ちやすさにとどのような影響を与えるか、2) 発達に伴って、幼児の見かけが異なる受け手に対して変化するか、3) 性別によって成体の色が異なる種について、幼児が時間の経過とともにどのようにオス、あるいはメスの体色に近づくか、を理解することを目的としている。まずは、さまざまな種の霊長類を対象に、乳幼児の発達過程を撮影した写真からなるデータベースを構築することを目標としている。2023年度中は、撮影対象とできるような乳幼児個体がほとんど園内にいなかったため、2024年度から Raquel Costa 氏を中心となり、写真およびビデオの撮影を本格的に開始する予定である。

2023018

平崎鋭矢（京都大学）

真猿類における胸腰椎形態の変異

胸椎と腰椎の形態はロコモーションへの機能適応を反映する部位のひとつであるが、比較的研究が為されている腰椎に比べ、胸椎に関する知見は少ない。本研究の全体構想は、胸腰椎を通じて示される形態学的変異パターンを、多様なポジショナル行動を示す現生霊長類において調べ、ロコモーションや姿勢との関係を考察することであった。本課題では、他の研究機関・博物館等では資料が十分に得られないクモザル類のデータを取得した。材料は、ジェフロイクモザル3頭の胸腰椎の乾燥骨標本各18個で、それらをひとつずつ光学的・非接触的にスキャンし、stl形式の3Dデジタルモデルを作成した。スキャン後は、作成したモデルを用いて幾何学的形態計測法による分析を行った。その結果、体幹非水平型の類人猿とクモザル科では、体幹水平型の霊長類に比べ、胸椎と腰椎の間の形態学的分化が、相対サイズと形状の両面でより顕著であることが明らかになった。

2023019

Dean Arcega (University of the Philippines Diliman)
Testing the Evolutionary Shape Hypothesis: using 3D shape analyses to investigate the relationship between vertebral shape, spinal osteoarthritis, and bipedalism

*採択後、本年度実施せず

2023020

立河龍利 (日本大学)
霊長目ヒト上科の皮膚マイコバイームを構成する *Malassezia* 属の宿主特異性

Malassezia 属は温血動物の皮膚に常在する脂質要求性担子菌酵母である。本属を構成する 18 菌種のうち 12 菌種はヒトから、6 菌種はヒト以外の動物から主に分離されており、本属には宿主特異性がある可能性がある。霊長目に常在する *Malassezia* 属に関する知見の殆どはヒトに関するものであり、ヒトの皮膚への適応進化の過程を明らかにするためにはヒト以外の霊長目を対象とした皮膚マイコバイーム調査が不可欠である。今年度は *Malassezia* 属の検出方法を確立することを目指し、シロテナガザルとニシゴリラ (冷凍遺体) の体表より採取した皮膚スワブから CHROMagar™ *Malassezia* を用いた分離培養を試みた。分離菌株の種同定は rRNA ITS 領域の塩基配列を決定することで行なった。その結果、*Malassezia* 属ではない 7 菌種の酵母が同定された。この調査から検出精度の向上には体表からではなく脂質に富む本属が生育しやすい基質を採取する必要があると考えられた。そこで次年度は、20 ~ 50% が脂質成分と言われている耳垢に絞り調査を行う。

2023021

酒井朋子 (慶應大学)
マルチスピーシーズ霊長類脳画像の知識型データ共有エコシステムの構築：データ駆動型脳科学を推進する共創型国際研究基盤

本研究の目的は、霊長類脳標本画像リポジトリの拡張と、日本モンキーセンター (JMC) の霊長類脳標本コレクションを核とした知識型データ共有エコシステムの構築である。2023 年度の実績は以下の通りである。第一に、JMC を中心とした 30 個体の霊長類脳標本コレクションを対象に、京都大学脳機能総合研究センターの 7 テスラのヒト用高磁場磁気共鳴画像 (MRI) 装置を用いて、3 次元の脳解剖画像と拡散強調画像の撮像を行った。第二に、ジョンズ・ホプキンス大学医学部放射線科の大石健一教授の指導のもと、霊長類の脳画像解析の最適化を検討した。第三に、脳科学 DX 実践型オンラインオープンセミナーを開催し、さまざまな分野の学生や研究者が最先端の脳アトラスとデータベース構築技術について学び、データ駆動型脳科学やオープンサイエンスに関する議論を深めた。この国際共創は霊長類脳イメージング研究の新境地を開拓する上で非常に有意義であった。

2023022

Audrey Mi-Young Choi (New York University)
Intraspecific morphological variation and divergence in fascicularis-group macaques

For my doctoral thesis in biological anthropology at New York University, I am researching subspecific morphological variation in the skulls of four macaque species: *Macaca fascicularis* (カニクイザル), *M. mulatta* (アカゲザル), *M. fuscata* (ニホンザル), and *M. cyclopis* (タイワンザル). I spent one week at the Japan Monkey Center collecting data from the Captive Primate Collection using a handheld 3D surface scanner. Focusing primarily on wild-caught specimens of known geographic origin, I scanned approximately 100 skulls from all four species. Virtual models of all skulls will be produced from these scans and used for 3D geometric morphometric analyses to search for patterns of differentiation in size and shape across populations of these species. I greatly appreciated the opportunity to access JMC's extensive resources and cooperate with Japanese primate researchers.

2023023

今村公紀 (京都大学)
霊長類 iPS 細胞の作製と発生進化研究

本研究では、iPS 細胞をツールとした霊長類進化および種特異性の発生進化の研究基盤として、日本モンキーセンターにて飼養されている霊長類個体の iPS 細胞の作製を行い、iPS 細胞の霊長類種・個体のバリエーションを増やすことを目的としている。2023 年度には、いただいたテナガザル類 (シロテナガザル、フクロテナガザル、ボウシテナガザル) の皮膚片から線維芽細胞の初代培養を行い、凍結細胞ストックを作製・保存した。さらに、初代培養細胞に SRV ベクターを用いて初期化因子を導入することで、テナガザル iPS 細胞を樹立することに成功した。これらの成果については、第 39 回日本霊長類学会大会、日本動物学会第 94 回大会シンポジウムなどにて発表を行った。今後も各種霊長類の組織試料から初代培養細胞と iPS 細胞の作製・保存に取り組み、霊長類 iPS 細胞を活用した発生進化研究に活用していく。

2023024

平井理愛 (大阪府立天王寺高等学校)
プランクトンと水質の関係

リスザルの池、リスザルの池、Wao ランド、モンキーバレイ、モンキースクランブル、ヒヒの城、マダガスカル館の各飼育環境における水を同時に採取し、DO、COD、 $\text{PO}_4^{3-}\text{-P}$ 、pH の水質測定と培養による水中の原生生物の観察を行った。特に、モンキーバレイと Wao ランドの水は前者が DO: 9.99 ppm, COD: 5 ppm, pH: 7、後者が DO: 11.2 ppm, COD: 10 ppm, pH: 5 と同じ屋外の飼育水であっても水質が異なることが示唆された。原生生物の観察においては、リスザルの池においてオキシトリカの仲間 (*Oxytricha* sp.) が特徴的であった。

本研究の成果は第 5 回動物園水族館大学シンポジウム、第 48 回日本藻類学会において発表を行っている。

2023025

Ivo Jacobs (Lund University)

ヤクシマザルのたき火利用に関する研究

ヒト以外の動物における火に対する行動を調べるため、「たき火にあたるサル」として知られる日本モンキーセンターのヤクシマザルが火周辺でおこなう行動を調べることを目的として連携研究を継続しておこなった。モンキーバレイの約 130 頭のヤクシマザルを対象として、Raquel Costa 氏と Andre Goncalves 氏が、たき火あり／コントロール（たき火なし）の計 26 日、10:00～15:30 に、展望デッキからビデオによる行動記録をおこなった。前年度までの予備観察の結果、想定された 14 の行動カテゴリー中 12 行動が観察されており、さらに火中の木材の上に腰掛けたり、火のついた枝を取り出したりする行動も観察された。また、池の中やフェンス外側の餌をとる道具使用だけでなく、毛を歯間フロスにするという道具使用も観察された。これらの結果について英語論文として発表するため、Ivo Jacobs が主導し、Kata Horváth 氏が中心となって、ビデオデータの分析と、論文執筆の準備を進めている。

10. 連携研究に伴う標本の貸し出し

(1) 2022013

申請者：Laura Buck (Liverpool John Moores University)

題目：A non-human primate model for Neanderthal / *Homo sapiens* hybridization

貸出：タイワンザル 骨格標本 7 点

期間：2023 年 7 月 11 日～7 月 28 日

(2) 2023014

申請者：小嶋匠（京都大学）

題目：ヒトとマカクにおける骨迷路形態形成の分化

貸出①：ニホンザル全身液浸標本 5 点

期間：2023 年 7 月 28 日～9 月 22 日

貸出②：ニホンザル、ヤクシマザル、カニクイザル
全身液浸標本 12 点

期間：2023 年 9 月 30 日～2024 年 3 月 1 日

貸出③：ニホンザル、ヤクシマザル、カニクイザル
全身液浸標本 13 点

期間：2023 年 12 月 12 日～2024 年 3 月 1 日

貸出④：ニホンザル、カニクイザル全身液浸標本 7 点

期間：2024 年 3 月 11 日～3 月 27 日

(3) 2023015

申請者：西村剛（京都大学）

題目：霊長類における舌骨喉頭の器官形態に関する研究

貸出：フクロテナガザル喉頭部組織

期間：2023 年 7 月 6 日～

(4) 2023018

申請者：平崎鋭矢（京都大学）

題目：真猿類における胸腰椎形態の変異

貸出：ジェフロイクモザル 骨格標本 3 点

期間：2023 年 10 月 13 日～2023 年 12 月 19 日

(5) 2024021

申請者：酒井朋子（慶應大学）

題目：マルチスピーシーズ霊長類脳画像の知識型データ
共有エコシステムの構築：データ駆動型脳科学を
推進する共創型国際研究基盤

貸出①：シロテナガザル他 脳液浸標本 10 点

期間：2024 年 1 月 8 日～2024 年 3 月 12 日

貸出②：マンドリル他 脳液浸標本 10 点

期間：2024 年 2 月 21 日～2024 年 3 月 27 日

11. 日本モンキーセンター屋久島研修所

2020 年 7 月より運用開始

所在地：鹿児島県屋久島町永田

利用目的：屋久島での調査研究・教育・研修・実習

セミナー・ワークショップ・シンポジウム等の開催

利用料金： 宿泊有り 1,000 円 / 泊 / 人

宿泊無し 半日 300 円 / 人

1 日 500 円 / 人

12. 野外調査

(1) 青森県下北半島

2023 年 10 月 23 日～10 月 25 日

赤見理恵

(2) 笹ヶ峰（妙高高原）

2024 年 1 月 29 日～2 月 2 日

赤見理恵

2024 年 1 月 30 日～2 月 2 日

星野智紀

(3) 白山（ニホンザル調査隊への参加）

2024 年 2 月 20 日～2 月 25 日

赤見理恵

13. 海外研修

(1) イギリス

日程：2023 年 8 月 30 日～9 月 9 日

訪問先：エディンバラ動物園，ロンドン動物園，
ロンドン自然史博物館，チェスター動物園，
トワイクロス動物園，エデンプロジェクト，
ペイントン動物園

赤見理恵，阪倉若菜，奥村文彦，廣澤麻里

(2) アメリカ合衆国

日程：2023 年 9 月 11 日～9 月 20 日

訪問先：スミソニアン国立動物園，国立自然史博物館，
フィラデルフィア動物園，ブロンクス動物園，
アメリカ自然史博物館，セントラルパーク動物園，
ヘンリードリー動物園

高野智，新宅勇太，辻内裕美，川崎千穂

(3) ヨーロッパ

日程：2023 年 9 月 14 日～9 月 29 日

訪問先：コペンハーゲン動物園（デンマーク）、
ラナース熱帯動物園（デンマーク）、
ハーゲンベック動物園（ドイツ）、
ベルリン動物園（ドイツ）、
ティアパークベルリン（ドイツ）、
ライプチヒ動物園（ドイツ）、
プラハ動物園（チェコ）、
ニュルンベルク動物園（ドイツ）、
ヘラブルン動物園（ドイツ）、
チューリッヒ動物園（スイス）、
バイオパーク・バレンシア（スペイン）

綿貫宏史朗，田中ちぐさ，阿野隆平，
武田康祐，高田晃行，奥川みらい

14. その他

(1) 研究活動ミーティング

日程：2023 年 7 月 3 日

(2) 職員向けセミナーの開催

日程：2023 年 7 月 13 日

講師：遠藤勇介（昭和産業株式会社）

内容：オリゴ糖と腸内細菌

(2) 保全活動

1. コンゴ民主共和国 Mbali 地域におけるボノボ保全

2. ギニア共和国 野生チンパンジー保全のための 「緑の回廊」への支援事業

期間：2017 年 4 月～

(1) 京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科との 共同研究に基づく保全活動

期間：2023 年 4 月～2028 年 3 月

3. ガボン共和国 ムカラバ-ドゥドゥ国立公園における ニシローランドゴリラ保全

期間：2017 年 8 月～

4. スローロリス保全センターの運営

(1) 飼育個体の福祉向上・飼育環境改善

(2) 連携研究等による研究の推進

(3) ウェブページの公開

https://sites.google.com/view/jmc-fr5/SLCC_Home

(3) 環境教育並びに社会普及活動

1. 学習利用

(1) 団体入園者数

団体区分	2023 年度		2019 年度比 (コロナ禍前)	
	件数	人数	件数	人数
幼稚園・保育園	36	3,201	72.0%	60.3%
小学校	77	5,700	101.3%	92.3%
中学校	10	1,229	100.0%	112.1%
高等学校	6	805	54.5%	142.2%
大学・短大・専門学校	32	885	114.3%	88.0%
特別支援・養護学校	2	54	66.7%	101.9%
福祉・介護施設	10	142	44.0%	20.4%
一般・その他	33	619	106.5%	102.5%
合計	206	12,635	88.0%	81.5%

2 新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが 5 類感染症となったこともあり、2023 年度の団体利用は 2022 年度よりも増加したが、全体としてはコロナ禍前の水準には戻っていない。とくに団体区分のうち幼稚園・保育園と福祉・介護施設の回復が遅れていることが見て取れる。

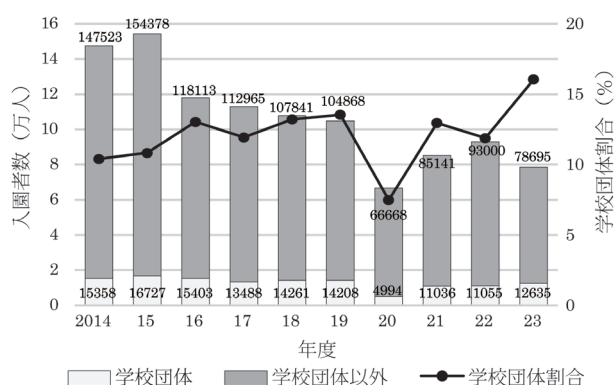
(2) 教育プログラム利用状況

利用団体数： 169 件・10,408 名

	2023 年度	2019 年度比
レクチャー	140	83.3%
スポットガイド団体利用	125	74.0%
キュレーター等によるガイドツアー	12	30.8%
行動観察実習	16	114.3%
標本を用いた骨学実習	10	76.9%
骨パズル	1	50.0%
ロコモーション観察ワークシート	6	66.7%
バックヤード見学	5	71.4%
「知ったことを伝えよう」ワークシート	12	—
紙芝居	1	33.3%
事前学習教材	26	108.3%
その他	3	42.9%
合計	357	78.1%

また、公益法人化以降の、入園者全体に占める学校団体(団体区分のうち福祉・介護施設と一般・その他を除いたもの)の人数および構成比の推移を以下に示す。

入園者数中における学校団体が占める割合の推移



2020 年のコロナ禍の落ち込みは激しいが、学校団体の人数は総入園者数の増減に比べると安定して推移している。教育プログラムを利用する学校団体のリピート率の高さが貢献していると考えられる。

(3) 犬山市と連携した授業づくり

- ① 小学校全校児童 1 日モンキーデー
犬山北小学校 529 名 2023 年 5 月 10 日
- ② 小学校 4 年生 モンキーワーク
理科「わたしたちの体と運動」に関連したプログラム
池野小学校 4 年生 25 名 2023 年 5 月 24 日
栗栖小学校 4 年生 3 名 5 月 24 日
今井小学校 3・4 年生 8 名 5 月 24 日
東小学校 4 年生 63 名 6 月 7 日
羽黒小学校 4 年生 76 名 6 月 7 日
城東小学校 4 年生 121 名 6 月 21 日
桑田小学校 4 年生 74 名 6 月 21 日
犬山南小学校 4 年生 71 名 6 月 28 日
犬山西小学校 4 年生 80 名 6 月 28 日
- ③ 中学校 モンキーワーク
南部中学校 1 年生 148 名 2023 年 5 月 23 日
東部中学校 1 年生 108 名 9 月 7 日
城東中学校 1 年生 188 名 10 月 5 日
城東中学校 3 年生 163 名 10 月 16 日
犬山中学校 3 年生 224 名 10 月 19 日

(4) 名古屋経済大学 体験型プロジェクト (XI)

- 「犬山学・日本モンキーセンター」
- 第 1 回 ガイダンス・日本モンキーセンターとは
(場所:名古屋経済大学)
2023 年 4 月 11 日 高野智
 - 第 2 回 霊長類学入門・事前学習(場所:名古屋経済大学)
2023 年 4 月 18 日 高野智
 - 第 3 回 霊長類の多様性(1)(場所:日本モンキーセンター)
2023 年 4 月 25 日 高野智
 - 第 4 回 霊長類の多様性(2)(場所:日本モンキーセンター)
2023 年 5 月 9 日 高野智
 - 第 5 回 霊長類行動観察入門(1)
(場所:日本モンキーセンター)
2023 年 5 月 16 日 赤見理恵
 - 第 6 回 霊長類行動観察入門(2)
(場所:日本モンキーセンター)
2023 年 5 月 23 日 赤見理恵
 - 第 7 回 霊長類学の最前線(1)
(場所:日本モンキーセンター)
2023 年 5 月 30 日 川上文人(中部大学)
 - 第 8 回 動物の進化を学ぶ(1)
(場所:日本モンキーセンター)
2023 年 6 月 6 日 高野智
 - 第 9 回 動物の進化を学ぶ(2)
(場所:日本モンキーセンター)
2023 年 6 月 13 日 高野智
 - 第 10 回 霊長類学の最前線(2)
(場所:日本モンキーセンター)
2023 年 6 月 20 日 西村剛(京都大学)
 - 第 11 回 環境問題と霊長類(場所:日本モンキーセンター)
2023 年 6 月 27 日 新宅勇太

第12回 博物館としての動物園

(場所：日本モンキーセンター)

2023年7月4日 綿貫宏史朗

第13回 期末課題制作(1)(場所：日本モンキーセンター)

2023年8月18日 高野智

第14回 期末課題制作(2)(場所：名古屋経済大学)

2023年8月21日 高野智

第15回 期末課題発表(場所：名古屋経済大学)

2023年8月22日 高野智

(5) 科学教育における高等学校、中学校等との継続的な連携

① 愛知県立明和高等学校

1) MC ガイダンス「行動観察」

日程：2023年4月20日

対象：1年生生徒 359名

内容：講演「霊長類を研究する：ラボからフィールドまで」

(林美里)

レクチャー「動物園でもできる！動物の行動観察入門」(赤見理恵)

(場所：犬山市民文化会館)

ワークシート学習(場所：日本モンキーセンター)

観察を踏まえて2023年5月19日に発表会を実施。林と赤見が参加して講評をおこなった。

2) 研究活動

日程：随時

内容：生徒若干名が総合的な探究の時間ないし生物部の活動として来園し、園内の動物を対照に研究活動を実施した。キュレーターの指導のもとで研究をまとめ、第68回プリマーテス研究会で2件のポスター発表をおこなった。

② 南山高等学校・中学校女子部「科学研究実践活動

霊長類学入門」

日程：随時

生徒有志が1年を通して来園し、研究活動を実施。第68回プリマーテス研究会や日本霊長類学会大会などで発表をおこなった。

③ 多治見西高等学校附属中学校2年生「動物学研修」

内容：アウトリーチでの講義と骨パズル

(2023年10月31日)

世界サル類動物園における実習

(2023年11月22日)

④ 武庫川女子大学附属中学校2年生「サイエンスツアー」

日程：2023年8月7日

内容：東海地方の数カ所の施設を訪問するツアーの訪問先のひとつとして来園。レクチャーと実習を組み合わせたプログラムを実施。

2. 教育普及活動の充実につながる各種ツールの開発

(1) 学校団体向け「学習利用の手引き」

3. 教員研修会の誘致

(1) 愛知県科学教育研究会

日程：2023年8月24日

対象：学校教員66名

内容：動物園教育ワークショップ

(小学4年生「モンキーワーク」体験)、

博学連携事例紹介 高野智、赤見理恵

(2) 愛科研丹葉支部教員研修会

日程：2023年12月9日

対象：学校教員9名

内容：常設展示ガイドツアー、博学連携事例紹介

高野智

4. アウトリーチ活動

(1) 教育活動の実践における職員の講師派遣

① 愛知教育大学

日程：2023年5月11日(オンラインで実施)

対象：義務教育理科・高校理科

学部1年生・留学生118名

内容：行動観察実習の事前指導

赤見理恵

② 金城学院大学

日程：2023年5月18日(オンラインで実施)

対象：現代子ども教育学科1年生 104名

内容：人間科学基礎演習「霊長類の行動観察入門」

赤見理恵

③ 愛知県立足助高等学校

日程：2023年6月1日(オンラインで実施)

対象：生徒47名

内容：愛知県総合教育センターと連携したレクチャー、オンライン園内ガイド 高野智、赤見理恵

④ 日本学術振興会 サイエンス・ダイアログ

日程：2023年12月18日

場所：静岡県立袋井高等学校

対象：2年生40名

内容：講演 "Tourist Interactions with Gorillas: Impacts on Behavior and Conservation"

Raquel Costa

⑤ 犬山市立楽田小学校

日程：2024年3月5日

対象：5年生 80名

内容：理科授業「人の誕生、サルの誕生と人の誕生の違い」

赤見理恵

(2) 職員の派遣

① 京都市動物園 野生動物学のすすめ

日程：2023年4月8日～4月9日

場所：京都市動物園(京都府京都市)

内容：ブース出展、活動紹介レクチャー

新宅勇太、綿貫宏史朗

② 熱田神宮 緑陰教室
日程：2023 年 7 月 27 日
場所：熱田神宮宝物館（愛知県名古屋市）
内容：講演「サルの話」 赤見理恵

③ 澤田酒造 酒蔵開放
場所：澤田酒造（愛知県常滑市）
内容：ブース出展
日程：2023 年 9 月 2 日～9 月 3 日
高野智、綿貫宏史朗、江藤彩子、
宗像大和、今井由香
日程：2024 年 2 月 24 日～2 月 25 日
新宅勇太、江藤彩子、今井由香

④ 犬山産業振興祭
日程：2023 年 10 月 14 日
場所：犬山市民文化会館（愛知県犬山市）
内容：ブース出展 赤見理恵

⑤ なごや生物多様性センターまつり
日程：2023 年 10 月 28 日
場所：なごや生物多様性センター（愛知県名古屋市）
内容：ブース出展 新宅勇太

⑥ 令和 5 年度自然史学会連合講演会
日程：2023 年 11 月 18 日
場所：名古屋大学博物館（愛知県名古屋市）
内容：体験教室出展 赤見理恵、新宅勇太

⑦ 日本機械学会東海支部シニア会
日程：2024 年 1 月 20 日
内容：講演 赤見理恵

⑧ 犬山市各務原市ご当地じまんまつり
日程：2024 年 2 月 17 日～2 月 18 日
場所：オアシスパーク（岐阜県各務原市）
内容：ブース出展 新宅勇太、阪倉若菜

(3) 地元、近隣の学校訪問（誘致・広報活動）
犬山市を中心に、出前授業等の機会も利用して誘致の
呼びかけ
愛知県・岐阜県・三重県の小中高校へのダイレクト
メール発送

(4) 社会貢献

① 日本霊長類学会 保全・福祉担当理事 林美里
② 日本子ども学会 理事 林美里
③ あいちサイエンスフェスティバル 2023 実行委員 高野智
④ 愛知県尾張北部地域生態系ネットワーク協議会 委員 高野智
⑤ 名古屋経済大学犬山学研究センター 客員教授 高野智
⑥ 日本霊長類学会 代議員 赤見理恵
⑦ 日本動物園水族館教育研究会 運営委員 赤見理恵
⑧ 特定非営利活動法人屋久島いきもの調査隊 監事 赤見理恵
⑨ 日本哺乳類学会 標本・分類群名検討委員会 委員 新宅勇太

⑩ NPO 法人市民 ZOO ネットワーク 理事 綿貫宏史朗
⑪ 日本野生動物医学会 評議員 綿貫宏史朗
⑫ 日本野生動物医学会 広報委員 綿貫宏史朗
⑬ 日本野生動物医学会 野生動物保全・福祉委員 綿貫宏史朗

⑭ 神戸どうぶつ王国 生物多様性保全担当顧問 綿貫宏史朗

⑮ 日本動物園水族館協会 生物多様性委員会保全戦略部員（神戸どうぶつ王国顧問として） 綿貫宏史朗

⑯ 札幌市市民動物園会議認定動物園支援事業部会 委員 綿貫宏史朗

⑰ 一般社団法人野生生物生息域外保全センター 理事 綿貫宏史朗

⑱ 日本霊長類学会 編集幹事 豊田有

⑲ Open Meeting for Portuguese Primatology 2nd Edition, Primate Cognition Research Group, Conference committees Raquel Costa

5. 特別展・特集展示の開催

(1) 特別展「Primates in Forests ～磯野宏夫が描く霊長類のいる森～」

会期：2023 年 3 月 18 日～5 月 28 日

会場：ビジターセンター 特別展示室

協力：エメラルドフォレスト

主担当：江藤彩子

(2) 特別展「サルだけじゃない知られざるコレクション」

会期：2023 年 7 月 15 日～2024 年 1 月 28 日

会場：ビジターセンター 特別展示室

主担当：新宅勇太

(3) 特別展「音声展 ―サルたちの会話をのぞいてみよう―

会期：2024 年 3 月 16 日～開催中

会場：ビジターセンター 特別展示室

監修：西村剛（京都大学ヒト行動進化研究センター）

主担当：高野智

(4) 民俗資料展示 「日本モンキーセンター所蔵 民俗資料 猿二郎コレクション」

会期：2017 年 10 月 13 日～開催中

場所：木之下城伝承館 堀部邸

協力：特定非営利活動法人 古代瀬波の里・文化遺産ネットワーク

6. 他の博物館等への展示協力

(1) 沖縄県立博物館・美術館

特別展「海を越える人々（後期） 旧石器時代の人類 ―海を越えた最初の人々―

内容：P-S-0269 チンパンジーなど剥製標本 3 点の貸出

期間：2023 年 11 月 9 日～2024 年 2 月 22 日

（会期：2023 年 12 月 12 日～2024 年 2 月 12 日）

(2) 国立科学博物館

特別展「大哺乳類展 わけてつなげて大行進」

内容：P-S-0258 ボルネオオランウータンなど剥製標本 2 点、Pr3684 テングザル頭骨標本の貸出

期間：2024 年 3 月 6 日～

（会期：2024 年 3 月 16 日～6 月 16 日）

7. 2023 年度モンキーキャンパス

主催：公益財団法人日本モンキーセンター
共催：京都大学霊長類学・ワイルドライフサイエンス・
リーディング大学院
受講費：12,000 円（全 6 回分）
（ただし 2022 年 4 月 1 日時点で 20 才以下の
受講者は 9,000 円、友の会年会費は別途）
方式：ビジターセンターホールでの会場受講のみ
録画した講義の見逃し配信を実施
受講者数：74 名

プログラム：

- 第 1 回 2023 年 6 月 4 日
講師：中川尚史（京都大学大学院理学研究科）
「知性の基盤としての寛容性：
サル学からのアプローチ」
- 第 2 回 2023 年 7 月 2 日
講師：高井正成（京都大学総合博物館）
「霊長類の起源：サルはいつ、どこで
生まれたのか？」
- 第 3 回 2023 年 8 月 6 日
講師：篠田謙一（国立科学博物館）
「ゲノムで読む人類の起源と日本人の成り立ち」
- 第 4 回 2023 年 9 月 10 日
講師：江戸家猫八（演芸家）
「気づきを築く面白さ」
- 第 5 回 2023 年 10 月 1 日
講師：松浦直毅
（相山女学園大学人間関係学部）
「アフリカ熱帯林における人と類人猿の
共存関係を探る」
- 第 6 回 2023 年 11 月 5 日
講師：長谷川眞理子
（総合研究大学院大学名誉教授）
「サルとイヌとヒト：社会性の進化」

8. モンキーキャンパスサークル活動の実施

モンキーキャンパス受講者をメンバーとして活動
募集型サークル
①資料サークル（担当キュレーター：高野、新宅）
②行動観察サークル（担当キュレーター：赤見、綿貫）
自主活動型サークル
①畑サークル
②エンリッチメントサークル

9. モンキーキャンパス屋久島研修ツアー

日程：2023 年 12 月 9 日～12 月 12 日
場所：鹿児島県屋久島
講師：湯本貴和（ナチュラリスト／京都大学名誉教授）
参加者：7 名
引率：赤見理恵、堀川晴喜

10. モンキー日曜サロンの開催

主催：公益財団法人日本モンキーセンター
京都大学霊長類学・ワイルドライフサイエンス・
リーディング大学院
提供：京都大学霊長類学・ワイルドライフサイエンス・
リーディング大学院
＊ Zoom でのオンライン配信も併用して開催

- 第 77 回
日程：2023 年 5 月 21 日
演題：「野生動物の腸内細菌
～食べ物と腸内細菌の関係～」
講師：土田さやか（中部大学応用生物学部）
- 第 78 回
日程：2023 年 7 月 16 日
演題：「リベリアのパラで野生チンパンジーを追う」
講師：大橋岳（中部大学人間力創成教育院）
- 第 79 回
日程：2023 年 8 月 20 日
演題：「オランウータンと共に生きる
～森の賢人が失われる前に～」
講師：黒澤拓斗（TNR 日本動物福祉病院）
- 第 80 回
日程：2023 年 9 月 17 日
演題：「レッサースローロリスの飼育管理における
動物福祉への配慮」
講師：ホスエ・アレハンドロ
（京都大学ヒト行動進化研究センター）
- 第 81 回
日程：2023 年 11 月 19 日
演題：「アフリカに長期調査地を立ち上げる」
講師：竹ノ下祐二（中部学院大学）
- 第 82 回
日程：2023 年 12 月 3 日
演題：「サルはなぜ遊ぶ？遊び心の進化を探る」
講師：壹岐朔巳（京都大学ヒト行動進化研究センター）

11. 写生大会の開催

- (1) 第 67 回日本モンキーセンター写生大会 優秀作品展の開催
期間：2022 年 7 月 23 日～2023 年 7 月 17 日
場所：ビジターセンター内企画展示室
- (2) 第 68 回日本モンキーセンター写生大会の開催
後援：文部科学省、愛知県、愛知県教育委員会、
岐阜県教育委員会、犬山市、犬山市教育委員会、
京都大学霊長類学・ワイルドライフサイエンス・
リーディング大学院
募集期間：2023 年 4 月 1 日～5 月 31 日
応募点数：200 点
審査会：2023 年 6 月 14 日
入選点数：42 点（特別賞 12 点、特選 10 点、入選 20 点）

表彰式：2023 年 7 月 22 日
場所：ビジターセンターホール
参加者：受賞者およびその家族、60 名

- (3) 第 68 回日本モンキーセンター写生大会優秀作品展の開催
期間：2023 年 7 月 22 日～開催中
場所：ビジターセンター内企画展示室

12. ミュージアムトーク

＊友の会会員向けに Zoom でのオンライン配信も併用

- 第 51 回「オナガザル科:霊長類最大のグループを見わたす」
2023 年 4 月 23 日 高野智
- 第 52 回「センサーカメラが捉えた犬山の野生動物
～モニタリングサイト 1000 里地調査 15 年の記録」
2023 年 5 月 14 日 赤見理恵
- 第 53 回「ヨーロッパの動物園に見る世界の動物園の歴史と
これから」
2023 年 6 月 25 日 綿貫宏史朗
- 第 54 回「哺乳類の進化の歴史～霊長類に近いグループは？」
2023 年 7 月 23 日 新宅勇太
- 第 55 回「骨くらべ:サル以外の動物とくらべてわかる
サルの特徴」
2023 年 8 月 20 日 高野智
- 第 56 回「フィールドワーカーと学ぶ霊長類の記録
写真の撮り方」
2023 年 11 月 12 日 豊田有
- 第 57 回「“ 竜の骨 ” から知る、人類が “ 立つ ” ことの歴史」
2024 年 1 月 7 日 高野智
- 第 58 回「身近なところに “ 竜 ” ?? 東海地方の
“ 土竜 ” の話」
2024 年 1 月 7 日 新宅勇太
- 第 59 回「2 月 14 日は世界ボノボの日 これまでの
ボノボ調査から」
2024 年 2 月 11 日 新宅勇太
- 第 60 回「ヨーロッパの動物園で見た、霊長類の混合展示」
2024 年 2 月 18 日 綿貫宏史朗
- 第 61 回「ワイルドライフマネジメント×獣医師
～ニホンザル管理の視点から考える野生動物～」
2024 年 3 月 17 日 近藤竜明

13. オンライン講座の開講

(1) 霊長類学基礎講座 2023

(全 6 回、2022 年度に第 1 回～第 4 回を実施)
方式: Zoom によるオンライン配信 (2 週間の見逃し配信)
定員: 各回 90 名
料金: 各回 800 円 (18 歳以下 500 円)

- 第 5 回「霊長類の生態」
2023 年 4 月 8 日 赤見理恵
- 第 6 回「霊長類の環境適応と多様性」
2023 年 5 月 13 日 高野智
- オンライン交流会
2023 年 5 月 20 日

(2) 霊長類学基礎講座 2024

方式: Zoom によるオンライン配信 (2 週間の見逃し配信)
定員: 各回 90 名
料金: 各回 800 円 (18 歳以下 500 円)
全 6 回 4000 円 (18 歳未満 2500 円)

- 第 1 回「霊長類学入門」
2024 年 1 月 20 日 高野智
- 第 2 回「霊長類の多様性生物学」
2024 年 2 月 10 日 新宅勇太

第 3 回「霊長類のコミュニケーションと発達」

2024 年 3 月 2 日 林美里

第 4 回「霊長類の社会」

2024 年 3 月 23 日 綿貫宏史朗
(第 5 回・第 6 回は 2024 年度内に開講)

14. 動物園イベント

(1) 通年イベント

- ① オンラインガイド
休園日、YouTube でガイドをライブ配信 (15 分程度)
2023 年度 計 122 回開催
- ② 園内ガイド 計 263 回開催
- ③ スタンプラリー
園内 7 か所にスタンプを設置、オリジナルイラストの
台紙を有料配布 (年 4 回更新)
春季: パタスモンキー
夏季: 世界ゴリラの日
秋季: 世界キツネザルの日
冬季: 世界野生生物の日
- ④ クイズラリー
園内各所にオリジナルクイズを設置
年 4 回更新
- ⑤ 月刊『さるしり!』
各担当施設において、月毎のテーマに合わせて紹介
園内 10 か所に設置
4 月: この施設、ここは見逃せない!
5 月: この動物、ここがスゴイ!
6 月: 雨のときの観察ポイント!
7 月: 泳げる? 泳げない?
8 月: この個体に注目!
9 月: 繁殖の季節
10 月: これを食べています
11 月: この行動がすごい!
12 月: 寒いときはこれ!
1 月: こんな研究がアツい!
2 月: 群れのかたち
3 月: 昼寝のしかた

(2) 定期開催イベント

- ① バックヤード見学会
日程: 2023 年 5 月 13 日、5 月 25 日、6 月 3 日、
6 月 5 日 (雨天中止)、7 月 1 日
- ② スローロリス保全センター見学ツアー
日程: 2023 年 7 月 17 日、8 月 11 日、9 月 18 日、
10 月 9 日、11 月 26 日、12 月 10 日、
2024 年 1 月 21 日、2 月 11 日、3 月 3 日
- ③ ちょびっと飼育員体験～おやつをつくろう!
日程: 2023 年 9 月 16 日、10 月 8 日、12 月 3 日、
2024 年 3 月 16 日、3 月 22 日
(モンキーバレイ)
2023 年 9 月 23 日、10 月 8 日、11 月 12 日、
11 月 18 日、2024 年 2 月 18 日、3 月 21 日
(ヒビの城)
2023 年 10 月 7 日、2024 年 3 月 10 日
(アジア館)
2023 年 10 月 29 日、12 月 9 日 (南米館)
2023 年 11 月 4 日、2024 年 2 月 3 日
(Wao ランド)

④ ちょびっと飼育員体験～個体をみわけよう！

日程：2023 年 9 月 3 日、11 月 18 日、
2024 年 2 月 24 日（アジア館）
2023 年 10 月 14 日、12 月 16 日、
2024 年 3 月 30 日（Wao ランド）

(3) ガイドツアー

① Dr.T と巡るサル学深掘りガイドツアー

日程：2023 年 11 月 3 日、2024 年 2 月 12 日

高野智

② 動物園の“裏側”から見る霊長類の社会
（新アフリカ館）

日程：2023 年 11 月 23 日

赤見理恵

③ 動物園の“裏側”から見る身近な野生動物

（ニホンザルの丘、園内トラップカメラの記録映像）

日程：2023 年 12 月 31 日、2024 年 1 月 28 日

赤見理恵

(4) 飼育員がつくったサルの図鑑 かならず会いたく

なっちゃう 56 のなかまたち 刊行記念キャンペーン

期間：2023 年 4 月 1 日～4 月 23 日

内容：ワークシートによるクイズラリーを実施

クリアでオリジナルキーホルダーをプレゼント

共催：㈱くもん出版

(5) 国際マカク週間

① 園内ガイド 国際マカク週間 Ver.

日程：2023 年 5 月 1 日～5 月 7 日

② なぞとき！マカクイズ！

日程：2023 年 5 月 1 日～5 月 29 日

内容：園内にオリジナルの謎解きラリーを設置

③ 限定オンラインショップ

期間：2023 年 5 月 1 日～5 月 31 日

プラットフォーム：SUZURI および BASE

(6) お盆期間イベント

① 森の工作室

日時：2023 年 8 月 11 日～8 月 16 日、26 日、27 日

14:00～16:00

場所：ビジターセンター

② ちょびっと飼育員体験

日程：2023 年 8 月 12 日、8 月 15 日（ワオキツネザル）

8 月 13 日、8 月 14 日（チベットモンキー）

(7) 世界ゴリラの日

① 園内ガイド世界ゴリラの日 Ver.

日程：2023 年 9 月 24 日

② 世界ゴリラの日特別缶バッジ販売（限定 48 個）

販売期間：2023 年 9 月 24 日～

③ ケータイ for コンゴ

NPO 法人テラ・ルネッサンスのプロジェクトに協働

回収期間：2023 年 9 月 16 日～12 月 24 日

回収場所：アフリカセンター屋内観覧通路

(8) 世界キツネザルの日

① なぞとキツネザル

2017 年の世界キツネザルフェスティバルで開催した
オリジナル謎解きのリバイバル

期間：2023 年 9 月 30 日～12 月 3 日

② ○×クイズ

内容：世界キツネザルの日にちなんだクイズ大会

日程：2023 年 10 月 22 日

場所：Wao ランド前

(9) 世界ニホンザルの日

① 園内ガイド世界ニホンザルの日 Ver.

日程：2023 年 12 月 3 日

場所：アジア館

② ちょびっと飼育員体験～おやつをつくろう！

世界ニホンザルの日 Ver.

日程：2023 年 12 月 3 日

場所：モンキーバレイ

(10) 冬の風物詩 たき火にあたるサル

期間：2023 年 12 月 22 日（冬至）および

2023 年 12 月 23 日～2024 年 1 月 28 日の

土・日・祝

（焼きイモは 12 月 22 日および

1 月 1 日～1 月 8 日の開催日に実施、

園内ガイドを同時開催）

時間：11:30～14:00

(11) 年末年始イベント

① 縁起物「奇跡のみかん」の配布

日程：2024 年 1 月 1 日～1 月 3 日

場所：アフリカセンター

10:00 より各日先着 30 個を配布

② モンキーセンターからのお年玉♪

末尾「36」「8936」の年賀葉書持参者にプレゼント

受付期間：2024 年 1 月 1 日～2 月 29 日

③ サルおせち

内容：飼育員作成の「サルおせち」をふるまう

園内ガイド：

2024 年 1 月 1 日

アフリカセンター ニシゴリラ

1 月 2 日 Wao ランド ワオキツネザル

1 月 3 日 ヒヒの城 アヌビスヒヒ

1 月 4 日 リスザルの島 ボリビアリスザル

1 月 5 日 モンキースクランブル

ジェフロイクモザル

1 月 6 日 アフリカ館

1 月 7 日 アジア館

1 月 8 日 南米館ホール

Web 配信：

1 月 1 日 南米館中型（X）

1 月 2 日 新アフリカ館（飼育の部屋）

1 月 3 日 アフリカセンター（X）

1 月 4 日 バックヤード（YouTube プレミア配信）

1 月 5 日 ニホンザルの丘 YouTube プレミア配信）

1 月 6 日 Wao ランド（YouTube プレミア配信）

1 月 7 日 モンキーバレイ（YouTube ライブ配信）

1 月 8 日 くすのきの森（X）

(12) 猿 JOY！感謝祭 2024

日程：2024 年 3 月 20 日～3 月 24 日

① ありがとう動画

配信日：2024 年 3 月 20 日

方式：YouTube プレミア配信

- ② 裏側ツアー
日程：2024 年 3 月 20 日
開催場所：病院、標本庫、ニホンザルの丘、
新アフリカ館原野と森の家、
アフリカセンター（予備室、調理室）
- ③ ティータイム交流会
日程：2024 年 3 月 20 日
場所：無料休憩所
- ④ 犬山朝市の出店
日程：2024 年 3 月 20 日～3 月 23 日
場所：くすのきの森前
- ⑤ ロングラン LIVE 配信
配信日：2024 年 3 月 21 日（全 8 回の配信）
- ⑥ 個体識別体験
日程：2024 年 3 月 21 日、3 月 22 日
内容：飼育員の指導による個体識別レクチャー
対象種：21 日ノドジロオマキザル・ワオキツネザル
22 日バーバリーマカク・トクモンキー
- ⑦ 飼育員と一緒におやつをつくろう！
日程：2024 年 3 月 21 日、3 月 22 日
対象種：21 日アヌビスヒビ、22 日ヤクシマザル
- ⑧ VS 飼育員
日程：2024 年 3 月 23 日
場所：ビジターセンター企画展示室
- ⑨ 『動物園の避難訓練』 上映会
日程：2024 年 3 月 23 日
場所：ビジターセンター内ホール
内容：黒田菜月氏の映像作品の特別上映
（東京ピエンナーレ 2023 出品作品）
- ⑩ サロン交流会
日程：2024 年 3 月 23 日
場所：楽猿
- ⑪ クリエーターズマーケット「猿日～EN-niche～」
日程：2024 年 3 月 23 日
場所：無料休憩所
出展数：8 組
- ⑫ プチ甲子猿
日時：2024 年 3 月 24 日
場所：ビジターセンター内ホール
YouTube にてライブ配信を実施
- ⑬ 友の会会員限定 BINGO 大会
日程：2024 年 3 月 24 日
- ⑭ 限定オンラインショップ
期間：2024 年 3 月 1 日～3 月 31 日
プラットフォーム：SUZURI

(13) 特定日開催

- ① 新アフリカ館『原野と森の家』オープニングセレモニー
日時：2023 年 4 月 1 日
場所：新アフリカ館前
来賓：俳優・日本モンキーセンター親善大使
竹下景子氏
犬山市立犬山中学校 校長 勝村偉公朗氏
日本モンキーパーク 所長 小島智弘氏
株式会社シンエイライフ 社長 田中孝昌氏
澤田酒造株式会社 社長 澤田薫氏

- ② 生息地から生配信！～タイのベニガオザル～
日時：2023 年 9 月 15 日
内容：リサーチフェロー豊田有がタイの調査地から
YouTube で配信
- ③ ウキウキ猿 joy フェスティバル 2023
日時：2023 年 10 月 8 日
場所：園内各所
出店数：36
- ④ 動物慰霊祭
日程：2023 年 10 月 17 日
備考：10 月 14 日～17 日の間、慰霊祭のお供え物を募集
- ⑤ NMB48 水田詩織さん 1 日猿長就任記念イベント
「サル沼にもっとハマっちゃおう！」
日程：2023 年 10 月 21 日
場所：ビジターセンターホール
内容：1 日猿長就任式、
1 日飼育員体験ムービーオーディオコメンタリー
など
- ⑥ 澤田酒造まつり 2023 秋 @ 日本モンキーセンター
日程：2023 年 11 月 18 日
場所：けやき広場周辺
出店数：8（澤田酒造含む）
- ⑦ 冬の特別ガイドツアー（英語）
日程：2023 年 12 月 22 日～12 月 24 日
※参加者集まらず不催行
- ⑧ ザルバースデー（チベットモンキーザルバの誕生日会）
日程：2024 年 3 月 19 日
内容：講演会（オンラインでも配信）、
誕生日プレート製作、
アジア館バックヤードガイド、
限定オンラインショップ（SUZURI）など
講演会登壇者：豊田有、小川秀司（中京大学）

(14) 1 日フィールドワーク体験

- 日程：第 1 回 2023 年 7 月 25 日（補講 7 月 29 日）
参加者：18 名
第 2 回 2023 年 8 月 1 日（補講 8 月 5 日）
参加者：17 名
対象：小学校 3 年生～中学校 3 年生
定員 24 名（最少催行人数 12 名）
内容：レクチャー・行動観察・石器作り
カメラトラップ設置
参加費：10,000 円
備考：名古屋 ECO 動物海洋専門学校の学生 20 名が
参加し、プログラムを実施、また運営を補助

15. ホームページの充実

- (1) 日本語サイト <https://www.j-monkey.jp/>
Web サイトの更新件数：258 件
（サポーター専用ページを除く）
主な更新：トップページ写真、ニュース
Web 霊長類図鑑 等
- (2) 外国語サイト
（英）<https://www.j-monkey.jp/lng/en/index.html>
- (3) 寄附・支猿サイト <https://sites.google.com/view/jmc-fr>

(4) スローロリス保全センターサイト
https://sites.google.com/view/jmc-fr5/SLCC_Home

16. メールマガジン「新 JMC 通信」の発行

2018 年 4 月より不定期配信に変更

2023 年度配信数 22 回

霊長類学基礎講座 開催！／飼育員がつくったサル
の図鑑 刊行記念キャンペーン開催中！

2023 年 4 月 7 日

ニシゴリラのタロウが 50 歳の誕生日を迎えます！

4 月 15 日

ニシゴリラのタロウ 50 歳特別講演会開催します！

4 月 21 日

霊長類学基礎講座 2023 5/13 最終回です！

5 月 12 日

モンキーキャンパス受付 5/21 までです！

5 月 19 日

1 日フィールドワーク体験 今年も開催します！

6 月 9 日

ミュージアムトーク 6/25(日) 開催します！

6 月 23 日

講演会「白黒つけよう！ベニガオザルの知られざる
魅力に迫る！！」開催！

7 月 12 日

夏休みのモンキーセンターはイベント盛りだくさん！

8 月 10 日

9/24(日) は世界ゴリラの日

9 月 22 日

10/15(日) 友の会のつどいを開催します

10 月 12 日

NMB48 水田詩織さん 1 日猿長就任イベント

「サル沼にもっとハマっちゃおう！」開催！

10 月 19 日

11/12(日) ミュージアムトーク開催します

11 月 10 日

澤田酒造まつり 2023 秋@日本モンキーセンター

11/18(土) 開催！

11 月 16 日

12/3(日) は世界ニホンザルの日！

12 月 1 日

冬の風物詩「たき火にあたるサル」はじまります！

12 月 21 日

霊長類学基礎講座 2024 申込受付中です！！

2024 年 1 月 14 日

今季の「たき火にあたるサル」は 1/28(日) で終了です

1 月 26 日

霊長類学基礎講座 2024 明日 2/10(土) に開催します！

2 月 9 日

ザルバースデー！！、猿 JOY！感謝祭 今年も

開催します！

3 月 8 日

特別展「音声展－サルたちの会話をのぞいてみよう－」

オープンしました！

3 月 16 日

クラウドファンディングに挑戦します！！

3 月 29 日

17. ブログ「飼育の部屋」

<https://www.j-monkey.jp/jmckeeper/>

2023 年度投稿数 302 件

(うち 190 件はオンラインサロン限定記事)

18. Facebook を通じた情報発信

<https://www.facebook.com/japanmonkeycentre/>

投稿数：11 件

フォロワー数：3,581 (2024 年 3 月 31 日時点)

19. X (旧 Twitter) を通じた情報発信

日本語版

https://twitter.com/j_monkeycentre

投稿数：1,510 件

フォロワー数：40,043 (2024 年 3 月 31 日時点)

①「〇〇の日」ポスト

関係する国際デー、記念日などにあわせた記事を

2023 年 5 月 2～8 日 国際マカク週間

5 月 22 日 国際生物多様性の日

7 月 14 日 世界チンパンジーの日

9 月 13 日 国際スローロリスの日

9 月 24 日 世界ゴリラの日

10 月 24 日 国際テナガザルの日

10 月 28 日 世界キツネザルの日

12 月 3 日 世界ニホンザルの日

2024 年 3 月 3 日 世界野生生物の日

英語版

<https://twitter.com/JpnMonkeyCentre>

投稿数：5 件

フォロワー数：623 (2024 年 3 月 31 日時点)

20. YouTube の配信 (動画・スライドショー)

公式チャンネル

2023 年度新規公開動画：21 本

(うち 7 本はショート動画)

動物園イベント関連動画

飼育職員撮影の動物動画

水田詩織氏 (NMB46) とのコラボ動画

ライブ配信：136 回 (うち 7 本はアーカイブを公開)

フォロワー数：6,000 (2024 年 3 月 31 日時点)

21. Instagram からの配信

<https://www.instagram.com/jpnmonkeycentre/>

2023 年度新規投稿：98 件 (うち動画 18 件)

フォロワー数：6,948 (2024 年 3 月 31 日時点)

22. マスメディアへの情報提供

(1) プレスリリース

ニシゴリラのタロウが 50 歳になります！

2023 年 4 月 14 日

「Wao ランド」リニューアルオープン！

9 月 21 日

NMB48 水田詩織さん 1 日猿長就任記念イベント開催に

ついて

9 月 29 日

10/17(火) 動物慰霊祭を執りおこないます

澤田酒造まつり 2023 秋@日本モンキーセンターを

開催します！

11 月 16 日

12 月 3 日は「世界ニホンザルの日」です！

11 月 29 日

冬の風物詩「たき火にあたるサル」今年も開催します

12 月 6 日

2024 年お正月イベントのお知らせ

12 月 21 日

「猿 JOY! 感謝祭」開催のお知らせ

2024 年 3 月 4 日

公益財団法人日本モンキーセンター 附属世界サル類

動物園 新園長に下村実氏が就任します

3 月 27 日

クラウドファンディング「動物たちのくらしをまもり、

未来へつなぐ！」実施のお知らせ

3 月 29 日

(2) 新聞記事掲載 18 件

(3) テレビ 35 件

① CCNet 「おうちで猿 JOY どうぶつえん」

#43 霊長類のコどもたち

2023 年 4 月 16 日初回放送

#44 霊長類について学ぼう

5 月 16 日初回放送

#45 2 年目飼育員奮闘記

6 月 16 日初回放送

#46 マントヒヒ

7 月 16 日初回放送

#47 図鑑を持って園内を楽しもう

8 月 16 日初回放送

#48 敬老の日特集

9 月 16 日初回放送

#49 ゴールデンマンガベイ

10 月 16 日初回放送

#50 日本モンキーセンターの歴史に迫る！！

11 月 16 日初回放送

#51 ベニガオザル

12 月 16 日初回放送

#52 霊長類の研究者

2024 年 1 月 16 日初回放送

#53 アカオザル

2 月 16 日初回放送

#54 動物たちのお引っ越し

3 月 16 日初回放送

② NHK「ザ・バックヤード 知の迷宮の裏側探訪」

2023 年 9 月 23 日初回放送

③ その他出演

NHK BS1「ヒューマニエンス “友情” 集団で

生きるための発明」

山極寿一

2023 年 5 月 8 日初回放送

TBS「サンデーモーニング」コメンテータ

山極寿一

5 月 28 日、8 月 13 日

NHK「ヒューマンエイジ 人間の時代 第 2 集

戦争 なぜ殺し合うのか」コメンテータ

山極寿一

8 月 15 日初回放送

KKB 鹿児島放送「山極さんと歩く屋久島 世界遺産

登録 30 年記念番組」

山極寿一

11 月 19 日

NHK「はなしちゃお！性と生の学問」

林美里

2024 年 2 月 9 日初回放送

(4) ラジオ 0 件

(5) 雑誌等掲載 17 件

(6) Web サイト 4 件

(7) 書籍への情報提供 1 件

(8) その他

① ナショナル ジオグラフィック「PHOTO ARK」

ジョエル・サートレイ氏の撮影協力

2023 年 8 月 22 日

※確認できたもののみ

(4) 図書及び学術誌の刊行

1. 英文学術雑誌「PRIMATES」の発行

PRIMATES 編集委員会 (2024 年 3 月 31 日時点)

Editor-in Chief

河村正二 (東京大学)

Vice Editors-in-Chief

James R. Anderson (京都大学)

平田聡 (京都大学)

Associate Editors

Kim Bard (University of Portsmouth, イギリス)

Augustin Basabose

(Centre de Recherche en Sciences Naturelles, コンゴ民主共和国)

Fred Bercovitch (アメリカ)

Júlio César Bicca-Marques

(Pontifical Catholic University of Rio Grande do Sul, ブラジル)

Warren Brockelman (Mahidol University, タイ)

Susana Carvalho (University of Oxford, イギリス)

藤田志歩 (鹿児島大学)

郷康広 (兵庫県立大学)

Cyril. C Grueter (The University of Western Australia, オーストラリア)

半谷吾郎 (京都大学)

林美里 (中部学院大学, 日本モンキーセンター)

Eckhard Heymann (German Primate Center, ドイツ)

Catherine Hobaiter (University of St Andrews, イギリス)

Gottfried Hohmann

(Max Planck Institute for Evolutionary Anthropology, ドイツ)

Michael A. Huffman (京都大学)

村山美穂 (京都大学)

Patrícia Izar (University of São Paulo, ブラジル)

香田啓貴 (東京大学)

河野礼子 (慶應義塾大学)

Kathelijne Koops (University of Zurich, スイス)

杵掛展之 (総合研究大学院大学)

Phyllis Lee (University of Stirling, イギリス)

Baoguo Li (Northwest University, 中国)

松田一希 (京都大学)

松平一成 (琉球大学)

中川尚史 (京都大学)

中村美知夫 (京都大学)

中村紳一郎 (麻布大学)

中務真人 (京都大学)

西村剛 (京都大学)

小川秀司 (中京大学)

荻原直道 (東京大学)

Martha Robbins

(Max Planck Institute for Evolutionary Anthropology, ドイツ)

佐藤 宏樹 (京都大学)

David S. Sprague (農業・食品産業技術総合研究機構)

Karen Strier (University of Wisconsin, Madison, アメリカ)

杉浦秀紀 (京都大学)

Bernard Thierry (Centre National de la Recherche Scientifique, フランス)

Peter Ungar (University of Arkansas, アメリカ)

山本真也 (京都大学)

山梨裕美 (京都市動物園)

Advisory Board

Matilda Brindle (University College London, イギリス)
Josep Call (University of St. Andrews, イギリス)
Mukesh Chalise (Tribhuvan University, ネパール)
Laurence Culot (Sao Paulo State University, ブラジル)
Pedro Dias (Instituto de Neuroetología, メキシコ)
江成広斗 (山形大学)
Pengfei Fan (Sun Yat-Sen University, 中国)
Renata Gonçalves Ferreira
(Federal University of Rio Grande do Norte, ブラジル)
Songtao Guo (Northwest University, 中国)
早川卓志 (北海道大学)
平崎鋭矢 (京都大学)
五百部裕 (梶山女学園大学)
今井啓雄 (京都大学)
井上英治 (東邦大学)
勝野吏子 (大阪大学)
Andreas Koenig (Stony Brook University, アメリカ)
Amanda Korstjens (Bournemouth University, イギリス)
Jean-Baptiste Leca (University of Lethbridge, カナダ)
Andrew MacIntosh (京都大学)
Bonaventura Majolo (University of Lincoln, イギリス)
Charmalie Nahallage (University of Sri Jayewardenepura, スリランカ)
Luciana Oklander
(Consejo Nacional de Investigaciones Científicas y Técnicas, アルゼンチン)
大谷洋介 (大阪大学)
Elisabetta Palagi (University of Pisa, イタリア)
Ryne A. Palombit (Rutgers University, アメリカ)
Annika Paukner (Nottingham Trent University, イギリス)
Jonah Ratsimbazafy
(Study Group and Research of Primates (GERP), マダガスカル)
Ulrich Reichard (Southern Illinois University, アメリカ)
齋藤慈子 (上智大学)
Michael Schillaci (University of Toronto, カナダ)
Robert Seyfarth (University of Pennsylvania, アメリカ)
下岡ゆき子 (帝京科学大学)
David Smith (University of California, Davis, アメリカ)
Joseph Soltis (Disney's Animal Kingdom, アメリカ)
Cedric Sueur (University of Strasbourg, フランス)
高井正成 (京都大学)
竹ノ下佑二 (中部学院大学)
田中正之 (京都市動物園)
辻大和 (石巻専修大学)
David Watts (Yale University, アメリカ)
山田一憲 (大阪大学)
山極壽一 (総合地球環境学研究所)
山越言 (京都大学)
Anne Yoder (Duke University, アメリカ)

Editorial Assistant

新宅勇太 (京都大学, 日本モンキーセンター)

CONTENTS

Volume 64 Number 3, May 2023

Editorial

Bercovitch FB: Conservation and evolution: Inbreeding, small populations, and sex differences in life history. pp. 277-283.

Review Article "Primate Tales: Memoirs from leaders in primatology"

Takahara Y: My studies of primates: Sex, affinity, and competition. pp. 285-303.

Review Article

Rasec-Silva A, Bertassoni A, De Marco Júnior P: Capuchin monkey (*Sapajus* spp.) diet: current knowledge, gaps, and future directions. pp. 305-317.

News and Perspectives

Lameira AR, Perlman M: Great apes reach momentary altered mental states by spinning. pp. 319-323.

Original Article

Freyman E, Huffman MA, Muhumuza G, Gideon MM, Zuberbühler K, Hobaiter C: Friends in high places: Interspecific grooming between chimpanzees and primate prey species in Budongo Forest. pp. 325-337.

Fotang C, Bröring U, Roos C, Dutton P, Tédonzong LRD, Willie J, Angwafo TE, Yuh YG, Schierack P, Birkhofer K: Mapping suitable habitat for Nigeria–Cameroon chimpanzees in Kom-Wum Forest Reserve, North-Western Cameroon. pp. 339-350.

Toyoda A, Maruhashi T, Malaivijitnond S, Matsudaira K, Arai Z, Matsuda I, Koda H: Macaque progressions: passing order during single-file movements reflects the social structure of a wild stump-tailed macaque group. pp. 351-359.

Nautiyal H, Tanaka H, Huffman MA: Anti-predator strategies of adult male Central Himalayan Langurs (*Semnopithecus schistaceus*) in response to domestic dogs in a human-dominated landscape. pp. 361-379.

Pottie S, Bello R, Shanee S: Geophagy in large-headed capuchin monkeys (*Sapajus apella macrocephalus*) in the Reserva Nacional Tambopata, Peru. pp. 381-387.

Volume 64, Number 4, July 2023

Editorial

Thierry B: The deductive, inductive, and comparative approaches: What drives primate studies. pp. 89-406.

Review Article "Primate Tales: Memoirs from leaders in primatology"

Strum SC: Confessions of a baboon watcher: from inside to outside the paradigm. pp. 393-406.

News and Perspectives

Gazagne E, Gray RJ, Ratajszczak R, Brotcorne F, Hambuckers A: Unmanned aerial vehicles (UAVs) with thermal infrared (TIR) sensors are effective for monitoring and counting threatened Vietnamese primates. pp. 407-413.

Colas-Rosas PF, Rezende C, Silva LP, de Melo FR: First record of the southern murequi (*Brachyteles arachnoides*) in the state of Minas Gerais, Brazil. pp. 335-342.

Calmette T, Meunier H: Revisiting the mark test for mirror self-recognition. pp. 421-427.

Original Article

- Hasan MU, Widayati KA, Tsuji Y, Rianti P: Feeding ecology of free-ranging long-tailed macaques in East Java, Indonesia: Relationship with human food availability. pp. 429-438.
- Broche N, Mouri K, Suzumura T, Huffman MA: Measuring short-term changes in stress-associated salivary analytes in free-ranging Japanese macaques (*Macaca fuscata*). pp. 439-449.
- Novak TE, Bailey NP, Stevison LS: Genetic characterization of *Macaca arctoides*: A highlight of key genes and pathways. pp. 451-462.

Volume 64, Number 5, September 2023

Editorial

- Bicca-Marques JC: Little things, big consequences. pp. 463-468.

News and Perspectives

- Wu XM, Zhang J, Chen SW, Sun B, Xia DP: Behavioral adaptation in an adoptive free-ranging female Tibetan macaque. pp. 469-474.
- Casetta G, Nolfo AP, Palagi E: Record of thanatology and cannibalism in drills (*Mandrillus leucophaeus*). pp. 475-481.

Original Article

- Kopsch NT, Geissmann T: A cooperation experiment with white-handed gibbons (*Hylobates lar*). pp. 483-492.

Correction

- Kopsch NT, Geissmann T: Correction: A cooperation experiment with white-handed gibbons (*Hylobates lar*). p. 493.

Original Article

- Joyce MM, Teichroeb JA, Kaigaishi Y, Stewart BM, Yamada K, Turner SE: No food left behind: foraging route choices among free-ranging Japanese macaques (*Macaca fuscata*) in a multi-destination array at the Awajishima Monkey Center, Japan. pp. 495-511.
- Ibrahim H, Bekele A, Fashing PJ, Nguyen N, Yazezew D, Moges A, Venkataraman VV, Mekonnen A: Feeding ecology of a highland population of hamadryas baboons (*Papio hamadryas*) at Borena-Sayint National Park, northern Ethiopia. pp. 513-526.
- Gottstein M, Morris AL, Heer K, Heymann EW: Feeding ecology of monk sakis (*Pithecia monachus*) in a seasonally flooded forest in western Amazonia. pp. 527-537.
- Schino G, Cherubini C, Quarantotti BP, Di Giovanni M: Precursors and aftermath of severe targeted aggression in captive cotton-top tamarins. pp. 539-547.
- Spadacenta S, Dicke PW & Thier P: A prosocial function of head-gaze aversion and head-cocking in common marmosets. pp. 535-546.

Book Review

- McGrew WC: Walking with Gorillas: The Journey of an African Wildlife Vet, by Dr Gladys Kalema-Zikusoka. pp. 549-550.

Volume 64, Number 6, November 2023

Editorial

- Nakamichi M: Non-human primate birth and human birth. pp. 551-556.
- Nakamichi M: The *Primates* 2023 Most-Cited Paper Award. p. 557.

Review Article "Primate Tales: Memoirs from leaders in primatology"

- Thierry B: Studying the Tonkean macaques of Strasbourg, a tale full of sound and fury. pp. 559-572.

News and Perspectives

- Kaigaishi Y, Yamamoto S: A report of stillbirth and subsequent maternal cannibalism observed in a free-ranging group of Japanese macaques at Awajishima, Japan. pp. 573-578.

Correction

- kaigaishi Y, Yamamoto S: Correction: A report of stillbirth and subsequent maternal cannibalism observed in a free-ranging group of Japanese macaques at Awajishima, Japan. pp. 579-580.

News and Perspectives

- Colmonero-Costeira I, Sá RM, Djaló ML, Cunha N, Cunha J, Minhós T, Russo IRM, Bruford MW, Costa S, Ferreira da Silva MJ: Notes on the conservation threats to the western lesser spot-nosed monkey (*Cercopithecus petaurista buettikoferi*) in the Bijagós Archipelago (Guinea-Bissau, West Africa), Japan. pp. 581-587.
- Yang B, Anderson JR, Gou NN, Luo J, Hong B, Fu WW, Chen YF, Wang WF, Cao BJ, Chen SY, Wang KF, Li BG: Leopard predation on wild Sichuan snub-nosed monkeys. pp. 589-594.
- Medeiros JF, Aguirre AdAR, Pessoa FAC: Inaccurate recording of *Mansonella perstans* in free-ranging primates outside its endemic area in Brazil? pp. 595-597.

Original Article

- Drummond-Clarke RC, Fryns C, Stewart FA, Piel AK: SA case of intercommunity lethal aggression by chimpanzees in an open and dry landscape, Issa Valley, western Tanzania. pp. 599-608.
- Chapman CA, Angedakin S, Butynski TM, Gogarten JF, Mitani JC, Struhsaker TT: Primate population dynamics in Ngogo, Kibale National Park, Uganda, over nearly five decades. pp. 609-620.
- Batist CH, Razafindraibe MN, Randriamanantena F, Baden AL: Bioacoustic characterization of the black-and-white ruffed lemur (*Varecia variegata*) vocal repertoire. pp. 621-635.

Correction

- McGrew WC: Correction: Walking with Gorillas: The Journey of an African Wildlife Vet, by Dr Gladys Kalema-Zikusoka. p. 637.

Acknowledgements pp. 639-640.

Volume 65, Number 1, January 2024

Cover Illustration

- Kawamura S, Matsuda I, de Lima IA, Robbins MM: Cover illustration of *Primates* vol. 65 (2024). pp. 1-3.

Editorial

- Nakamichi M: The *Primates* 2023 Social Impact Award. p. 5.
- Kawamura S: Through cross-disciplinary collaboration. pp. 7-13.

News and Perspectives

- Hu W, Wang H, Li X, Jiang X: New records of the white-cheeked macaque provide range extension for the endangered primate in Gaoligong Mountains. pp. 15-19.
- Kifle Z: Migration of a harem in search of a new leader following the loss of the former adult male leader from a one-male unit of geladas (*Theropithecus gelada*). pp. 21-24.
- de Lima IA, Bicca-Marques JC: Opportunistic meat-eating by urban folivorous-frugivorous monkeys. pp. 25-32.
- Bezanson M, Cortés-Ortiz L, Bicca-Marques JC, Boonratana R, Carvalho S, Cords M, de la Torre S, Hobaiter C, Humle T, Izar P, Lynch JW, Matsuzawa T, Setchell JM, Zikusoka GK, Strier KB: News and Perspectives: Words matter in primatology. pp. 33-39.

Original Article

- Baker SA, Stewart FA, Piel AK: A case of suspected chimpanzee scavenging in the Issa Valley, Tanzania. pp. 41-48.
- Souza-Alves JP, Hilário RR, Fontes IP, Thomas WW, Barbosa MRV: Direct links between resource availability and activity budget better reveal ecological patterns of endangered Coimbra-Filho's titi monkey. pp. 49-59.
- Lousa TT, Mendes FDC: Disputes over provisioned resources are no more intense between groups than within groups in free-ranging *Sapajus libidinosus*. pp. 61-68.

Volume 65, Number 2, March 2024

Editorial

- Hirata S: Treatment of hepatitis in ex-biomedical chimpanzees at a Japanese sanctuary thanks to support from the general public. pp. 69-73.

News and Perspectives

- Roura-Torres B, Amblard-Rambert P, Lepou P, Kappeler PM, Charpentier MJE: Stillbirth of a mandrill (*Mandrillus sphinx*) in the wild: perinatal behaviors and delivery sequences. pp. 75-80.

Original Article

- Ekström AG, Edlund J: Sketches of chimpanzee (*Pan troglodytes*) hoo's: vowels by any other name? pp. 81-88.
- Tomonaga M, Tanaka Y, Sakai M: May the force be with you: exploring force discrimination in chimpanzees using the force-feedback device. pp. 89-101.
- Hanzawa M, Morimitsu Y, Owusu EH, Suu-Ire RD, Nakagawa N: Rushing for "burned" food: Why and how does a group of patas monkeys (*Erythrocebus patas*) reach freshly burned areas? pp. 103-113.
- Silveira P, Valler ÍW, Hirano ZMB, Dada AN, Laska M, Salazar LTH: Food preferences and nutrient composition in captive Southern brown howler monkeys, *Alouatta guariba clamitans*. pp. 115-124.
- Martinez de Zorzi V, Shancee S, Oklander LI: Fragmented forest affects the southern black-horned capuchin (*Sapajus nigritus cucullatus*) in the Argentinean Atlantic Forest. pp. 125-133.

Correction

- Chapman CA, Angedakin S, Butynski TM, Gogarten JF, Mitani JC, Struhsaker TT: Correction: Primate population dynamics in Ngogo, Kibale National Park, Uganda, over nearly five decades. pp. 135-136.
- Baker SA, Stewart FA, Piel AK: Correction: A case of suspected chimpanzee scavenging in the Issa Valley, Tanzania. p. 137.

2. 和文誌「モンキー」の発行

モンキー編集委員会（2024年3月31日現在）

編集長

林美里（中部学院大学、日本モンキーセンター）

編集委員

赤見理恵（日本モンキーセンター）

伊谷原一（京都大学、日本モンキーセンター）

今井由香（日本モンキーセンター）

江藤彩子（日本モンキーセンター）

川上文人（中部大学）

齋藤亜矢（京都芸術大学）

新宅勇太（京都大学、日本モンキーセンター）

高野智（日本モンキーセンター）

田和優子（多摩動物公園）

早川卓志（北海道大学）

平田加奈子（京都大学）

平田聡（京都大学）

松田一希（京都大学）

山梨裕美（京都市動物園）

湯本貴和（ナチュラリスト）

綿貫宏史朗（京都大学、日本モンキーセンター）

協賛団体

天野エンザイム株式会社

大学等賛助団体

名古屋 ECO 動物海洋専門学校

支援団体

株式会社フェイスワン

株式会社三和化学研究所

協力

京都大学霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院

中部大学創発学術院

京都芸術大学文明哲学研究所

京都大学野生動物研究センター

中部学院大学

京都市動物園

バックナンバーの公開：

<https://www.j-monkey.jp/lng/jmonkey/index.html>

目次

8巻1号（2023年6月1日発行）

表紙写真 タンタルスモンキー（撮影：中川尚史）

特集グラビア アフリカのサバンナにくらす野生動物たち

2-3

連載「ぼくはこうしてゴリラになった」第26回

ミケノ山の登攀と広域調査： 山極壽一

4-5

連載「今日も OSARU 日和」第16回

Congratulations!： 竹下景子

6-7

連載「生態学者が往く」第22回

鹿児島・屋久島の旅（後編）： 湯本貴和

8-9

連載「タイ王国を巡る」第5回

モンキースクールとココナッツモンキー：

豊田有

10-11

連載「大型類人猿探訪」第29回

ゴリラがつなぐ人々： 林美里

12-13

連載「ワイワイワイルドライフ」第5回

3年ぶりのフィールドへ： 松田一希

14-15

連載「自然と芸術」第26回

ウルシの話： 三田村有芳

16-17

連載「動物園・水族館だより」第20回

「野生動物学のすすめ」～生きものでつながる仲間たち～：

田中正之

18-19

連載「環境教育実践」第28回

丹波篠山市の野生動物をめぐる環境教育

「獣がい対策実践塾」： 清野未恵子

20-21

サバンナのサル： 中川尚史	22-23	連載「生態学者が往く」第 24 回	
日本モンキーセンターだより		兵庫・豊岡の旅： 湯本貴和	64-65
新アフリカ館ができるまで〈中編〉： 綿貫宏史朗	24-25	連載「タイ王国を巡る」第 7 回	
世界の霊長類第 9 回		マレーシア・バコ国立公園&キナバタンガン川流域の	
アビシニアコロプス： 赤見理恵	26	野生霊長類： 豊田有	66-67
収蔵資料めぐり第 9 回		連載「大型類人猿探訪」第 31 回	
Pr. 2158 ニホンザル（個体名：バッカス）：		変わるもの、変わらないもの： 林美里	68-69
高野智	27	連載「ワイワイワイルドライフ」第 7 回	
雑誌モンキーのご案内・団体協賛制度のご案内	28	保全遺伝学のゲノム革命： 佐藤悠	70-71
ニュース・編集後記	裏表紙裏	連載「自然と芸術」第 28 回	
		江戸のカミワザ： 戸坂明日香	72-73
8 巻 2 号（2023 年 9 月 1 日発行）		連載「動物園・水族館だより」第 22 回	
表紙写真 アカオザル（撮影：武田康祐）		動物の食事を動物園で考える： 星野智	74-75
特集グラビア グエノン ～アフリカのカラフルなサルたち～	30-31	連載「環境教育実践」第 30 回	
連載「ぼくはこうしてゴリラになった」第 27 回		淡路島の野猿公苑と「やさしい」ニホンザル：	
ゴリラは何もしない、でも見つめ合う：		山田一憲	76-77
山極壽一	32-33	マイペースな森の人をおいかけて〈前編〉：	
連載「今日も OSARU 日和」第 17 回		田島知之	78-79
世界チンパンジーの日に思う、森の隣人と私たちの未来：		日本モンキーセンターだより	
竹下景子	34-35	飼育員がつくったサルの図鑑 かならず会いたくなっちゃう	
連載「生態学者が往く」第 23 回		56 のなかまたち： 阿野隆平	80-81
沖縄・やんばるの旅： 湯本貴和	36-37	世界の霊長類第 11 回	
連載「タイ王国を巡る」第 6 回		フィリピンメガネザル： 綿貫宏史朗	82
夜行性霊長類・スローロリスの意外な素顔を目撃した話：		収蔵資料めぐり第 11 回	
豊田有	38-39	Pr.2531 ヤクシマザルの妊娠子宮： 高野智	83
連載「大型類人猿探訪」第 30 回		雑誌モンキーのご案内・団体協賛制度のご案内	84
大型類人猿を眺めて： 林美里	40-41	ニュース・編集後記	裏表紙裏
連載「ワイワイワイルドライフ」第 6 回			
野生アジアゾウ研究の展望： 山本真也	42-43	8 巻 4 号（2024 年 3 月 1 日発行）	
連載「自然と芸術」第 27 回		表紙 ブロンクス動物園のニシゴリラ（撮影：高野智）	
自分を磨くアトリエとしての大学： 酒井敏	44-45	特集グラビア 海外動物園研修	85-91
連載「動物園・水族館だより」第 21 回		連載「ぼくはこうしてゴリラになった」第 29 回	
単独飼育から群れ飼育へ、美都と若ゾウの群れづくり：		オスたちの恋愛劇： 山極壽一	92-93
山梨裕美	46-47	連載「今日も OSARU 日和」第 19 回	
連載「環境教育実践」第 29 回		たき火にあたるサルの現場に潜入： 竹下景子	94-95
教育資源としての「獣害／獣がい」の可能性		連載「生態学者が往く」第 25 回	
丹波篠山市の取り組み事例から： 鈴木克哉	48-49	石川・能登の旅： 湯本貴和	96-97
ウガンダの森の“混ざる”サルたち： 北山遼	50-51	連載「タイ王国を巡る」第 8 回	
日本モンキーセンターだより		“幻”のサルを求めて Kaeng Krachan 国立公園へ〈前編〉：	
新アフリカ館ができるまで〈後編〉： 綿貫宏史朗	52-53	豊田有	98-99
世界の霊長類第 10 回		連載「大型類人猿探訪」第 32 回	
チンパンジー： 綿貫宏史朗	54	言葉と嘘： 林美里	100-101
収蔵資料めぐり第 10 回		連載「ワイワイワイルドライフ」第 8 回	
eb-3345 エンちゃん： 新宅勇太	55	野生動物保全と地域住民の持続的狩猟の両立を考える：	
雑誌モンキーのご案内・団体協賛制度のご案内	56	徳山奈帆子	102-103
ニュース・編集後記	裏表紙裏	連載「自然と芸術」第 29 回	
		藍のはなし： 梅崎由起子	104-105
8 巻 3 号（2023 年 12 月 1 日発行）		連載「動物園・水族館だより」第 23 回	
表紙 ニホンザル（撮影：山田一憲）		京都市野生鳥獣救護センターにおける救護事業：	
特集グラビア JMC 職員が撮影した野猿公苑のサルたち	58-59	土佐 祐輔	106-107
連載「ぼくはこうしてゴリラになった」第 28 回		マイペースな森の人をおいかけて〈後編〉：	
パティ、おまえていったい？： 山極壽一	60-61	田島知之	108-109
連載「今日も OSARU 日和」第 18 回		世界の霊長類第 12 回	
旅立つ命、授かる命： 竹下景子	62-63	アカゲザル： 赤見理恵	110
		収蔵資料めぐり第 12 回	
		eb-1458 犬山の弾き猿： 新宅勇太	111
		雑誌モンキーのご案内・団体協賛制度のご案内	112
		ニュース・お知らせ・編集後記	裏表紙裏

(5) 標本等の資試料の収集・管理及び展示

1. 骨格・液浸・剥製・毛皮標本

(1) 標本点数

学名	和名	骨格	臓器 液浸	脳 液浸	全身 液浸	剥製	毛皮・ 仮剥製
Cheirogaleidae	コビトキツネザル科	4	7	7	1	4	0
<i>Microcebus murinus</i>	ハイイロネズミキツネザル	4	7	7	1	4	0
Lemuridae	キツネザル科	71	74	58	73	9	8
<i>Eulemur fulvus</i>	ブラウンキツネザル	1	1	1	2	0	1
<i>Eulemur macaco</i>	クロキツネザル	7	9	7	8	0	1
<i>Eulemur mongoz</i>	マンゲースキツネザル	6	7	4	0	3	2
<i>Lemur catta</i>	ワオキツネザル	39	37	29	35	4	4
<i>Varecia variegata</i>	クロシロエリマキキツネザル	17	20	17	28	2	0
Lemuridae sp.		1	0	0	0	0	0
Galagidae	ガラゴ科	33	41	25	23	7	6
<i>Galago senegalensis</i>	ショウガラゴ	26	29	21	17	4	5
<i>Galagoides demidoff</i>	コビトガラゴ	0	2	0	0	0	0
<i>Otolemur crassicaudatus</i>	オオガラゴ	6	9	4	6	3	1
Galagidae sp.		1	1	0	0	0	0
Lorisidae	ロリス科	74	88	65	35	9	14
<i>Loris tardigradus</i>	スレンダーロリス	7	9	6	1	3	0
<i>Nycticebus bengalensis</i>	ベンガルスローロリス	1	3	3	0	0	0
<i>Nycticebus coucang</i>	スンダスローロリス	41	32	13	4	3	3
<i>Nycticebus pygmaeus</i>	レッサースローロリス	18	34	34	28	0	9
<i>Perodicticus potto</i>	ポト	6	10	9	2	3	2
Lorisidae sp.		1	0	0	0	0	0
Tarsiidae	メガネザル科	2	5	5	2	3	4
<i>Tarsius syrichta</i>	フィリピンメガネザル	2	5	5	2	3	4
Callitrichidae	マーモセット科	663	649	557	371	46	49
<i>Callimico goeldii</i>	ゲルディモンキー	15	18	13	13	2	3
<i>Callithrix geoffroyi</i>	シロガオマーモセット	30	39	35	11	3	4
<i>Callithrix jacchus</i>	コモンマーモセット	140	117	92	66	2	8
<i>Callithrix penicillata</i>	クロミミマーモセット	43	52	51	38	2	8
<i>Calithrix</i> sp.		5	0	0	0	0	0
<i>Mico argentata</i>	シルバーマーモセット	25	27	19	4	3	2
<i>Mico humeralifera</i>	サンタレムマーモセット	9	14	14	17	0	1
<i>Cebuella pygmaea</i>	ピグミーマーモセット	84	93	86	78	7	11
<i>Leontopithecus rosalia</i>	ゴールデンライオンタマリン	17	16	9	6	7	3
<i>Saguinus bicolor</i>	フタイロタマリン	2	2	2	0	1	0
<i>Saguinus fuscicollis</i>	セマダラタマリン	7	5	1	3	1	0
<i>Saguinus geoffroyi</i>	ジェフロイタマリン	11	11	10	0	1	0
<i>Saguinus imperator</i>	エンペラータマリン	5	6	5	6	2	0
<i>Saguinus labiatus</i>	ムネアカタマリン	35	36	31	18	3	1
<i>Saguinus leucopus</i>	シロテタマリン	8	9	6	0	3	0
<i>Saguinus midas</i>	アカテタマリン	14	15	15	6	2	0
<i>Saguinus mystax</i>	クチヒゲタマリン	30	33	31	23	2	2
<i>Saguinus nigricollis</i>	クロクビタマリン	62	53	47	22	1	0
<i>Saguinus oedipus</i>	ワタボウシタマリン	102	94	81	51	2	4
<i>Saguinus weddelli</i>	ウェッデルタマリン	11	9	9	9	2	2
<i>Saguinus</i> sp.		8	0	0	0	0	0
Aotidae	ヨザル科	74	75	44	43	5	11
<i>Aotus</i> sp.	ヨザル	74	75	44	43	5	11
Cebidae	オマキザル科	145	130	108	85	7	9
<i>Sapajus apella</i>	フサオマキザル	19	19	12	23	2	0
<i>Cebus albifrons</i>	シロガオオマキザル	9	9	10	8	1	1
<i>Cebus capucinus</i>	ノドジロオマキザル	10	12	16	9	1	1

学名	和名	骨格	臓器 液浸	脳 液浸	全身 液浸	剥製	毛皮・ 仮剥製
<i>Cubus olivaceus</i>	ナキガオオマキザル	1	2	1	5	0	0
<i>Cebus</i> sp.		4	0	0	0	0	0
<i>Saimiri boliviensis</i>	ボリビアリスザル	8	11	10	14	0	5
<i>Saimiri sciureus</i>	コモンリスザル	89	77	59	26	3	2
<i>Cebidae</i> sp.		5	0	0	0	0	0
Atelidae	クモザル科	92	96	64	49	18	12
<i>Alouatta caraya</i>	クロホエザル	11	12	12	1	4	0
<i>Alouatta guariba</i>	カッシュクホエザル	1	1	1	0	2	0
<i>Alouatta seniculus</i>	アカホエザル	5	2	2	1	0	0
<i>Alouatta</i> sp.		6	1	1	0	0	0
<i>Ateles belzebuth</i>	ケナガクモザル	3	10	5	2	2	0
<i>Ateles geoffroyi</i>	ジェフロイクモザル	22	34	23	32	4	4
<i>Ateles paniscus</i>	クロクモザル	12	17	8	0	3	1
<i>Ateles</i> sp.		14	0	0	0	0	0
<i>Lagothrix lagotricha</i>	フンボルトウーリーモンキー	13	17	10	12	3	6
<i>Lagothrix cana</i>	ハイイロウーリーモンキー	4	2	2	1	0	1
<i>Lagothrix</i> sp.		1	0	0	0	0	0
Pitheciidae	サキ科	37	36	33	16	15	1
<i>Callicebus cupreus</i>	ドウイロティティ	2	1	2	0	2	0
<i>Callicebus donacophilus</i>	ボリビアハイイロティティ	5	5	4	0	2	1
<i>Callicebus moloch</i>	ダスキーティティ	13	13	14	8	2	0
<i>Callicebus torquatus</i>	エリマキティティ	1	1	0	0	0	0
<i>Callicebus</i> sp.		2	1	1	0	1	0
<i>Cacajao calvus rubicundus</i>	アカウアカリ	3	2	1	0	2	0
<i>Chiropotes satanas</i>	クロヒゲサキ	2	0	0	0	0	0
<i>Chiropotes chiropotes</i>	ヒゲサキ	0	1	0	0	0	0
<i>Pithecia monachus</i>	モンクサキ	5	6	5	0	4	0
<i>Pithecia pithecia</i>	シロガオサキ	4	6	6	8	2	0
Cercopithecidae	オナガザル科	2941	2049	1551	799	92	151
<i>Macaca arctoides</i>	ベニガオザル	11	13	8	5	0	0
<i>Macaca assamensis</i>	アッサムモンキー	5	6	4	1	0	0
<i>Macaca cyclopis</i>	タイワンザル	67	65	53	26	2	3
<i>Macaca fascicularis</i>	カニクイザル	673	305	195	123	1	71
<i>Macaca fuscata fuscata</i>	ニホンザル	705	527	401	187	11	18
<i>Macaca fuscata yakui</i>	ヤクシマザル	443	339	244	126	3	2
<i>Macaca fuscata</i>	(ニホンザル)	10	1	1	0	0	0
<i>Macaca maura</i>	ムーアモンキー	9	11	5	1	1	0
<i>Macaca mulatta</i>	アカゲザル	145	118	109	17	0	0
<i>Macaca nemestrina</i>	ミナミブタオザル	38	37	34	24	1	0
<i>Macaca nigra</i>	クロザル	9	7	7	0	0	0
<i>Macaca ochreata brunescens</i>	ブーツマカク	2	0	0	0	0	0
<i>Macaca radiata</i>	ボンネットモンキー	65	60	42	38	2	3
<i>Macaca silenus</i>	シシオザル	12	14	14	8	2	0
<i>Macaca sinica</i>	トクモンキー	16	20	18	13	0	3
<i>Macaca sylvanus</i>	バーバリーマカク	14	18	15	10	2	2
<i>Macaca thibetana</i>	チベットモンキー	6	5	5	1	0	0
<i>Macaca tonkeana</i>	トンケアンモンキー	2	0	0	0	0	0
<i>Macaca hybrid</i>		2	1	0	0	3	0
<i>Macaca</i> sp.		94	0	0	0	0	0
<i>Cercocebus atys</i>	スーティーマンガベイ	5	5	3	2	1	1
<i>Cercocebus lunulatus</i>	シロカンムリマンガベイ	7	9	8	5	2	1
<i>Cercocebus agilis</i>	アジルマンガベイ	2	1	2	0	0	0
<i>Cercocebus chrysogaster</i>	ゴールデンマンガベイ	2	4	4	1	0	0
<i>Cercocebus torquatus torquatus</i>	シロエリマンガベイ	4	5	2	1	1	0
<i>Cercocebus hybrid</i>		2	1	2	0	0	0
<i>Cercocebus</i> sp.		3	0	0	0	0	0

学名	和名	骨格	臓器 液浸	脳 液浸	全身 液浸	剥製	毛皮・ 仮剥製
<i>Lophocebus albigena</i>	ホオジロマンガベイ	2	2	1	0	2	0
<i>Mandrillus leucophaeus</i>	ドリル	13	12	3	5	3	1
<i>Mandrillus sphinx</i>	マンドリル	18	13	11	16	1	0
<i>Papio anubis</i>	アヌビスヒヒ	63	48	39	62	1	1
<i>Papio cynocephalus</i>	キイロヒヒ	17	15	6	0	0	0
<i>Papio hamadryas</i>	マントヒヒ	6	4	5	16	0	1
<i>Papio papio</i>	ギニアヒヒ	6	7	7	0	0	0
<i>Papio sp.</i>		15	0	0	0	0	1
<i>Theropithecus gelada</i>	ゲラダヒヒ	5	5	2	2	1	0
<i>Allenopithecus nigroviridis</i>	アレンモンキー	1	1	1	1	1	0
<i>Cercopithecus albogularis</i>	サイクスモンキー	8	10	9	1	2	1
<i>Cercopithecus ascanius</i>	アカオザル	10	9	7	0	0	1
<i>Cercopithecus ascanius schmidt</i>	シュミットグエノン	5	4	4	0	1	0
<i>Cercopithecus cephus</i>	クチヒゲグエノン	5	6	4	0	1	0
<i>Cercopithecus diana</i>	ダイアナモンキー	2	3	2	0	1	0
<i>Cercopithecus doggetti</i>	シルバークグエノン	2	1	0	0	1	0
<i>Cercopithecus hamlyni</i>	フクロウグエノン	1	3	2	0	2	1
<i>Cercopithecus lhoesti</i>	ロエストグエノン	4	5	5	1	1	0
<i>Cercopithecus mitis</i>	ブルーモンキー	2	2	1	0	0	1
<i>Cercopithecus mona</i>	モナモンキー	12	13	9	10	1	1
<i>Cercopithecus neglectus</i>	ブラッサグエノン	14	15	12	3	1	2
<i>Cercopithecus petaurista buettikoferi</i>	バツティコファークグエノン	10	11	7	3	1	2
<i>Cercopithecus sp.</i>		3	1	1	0	0	1
<i>Chlorocebus aethiops</i>	サバンナモンキー	16	13	10	5	4	1
<i>Chlorocebus cynosuros</i>	マルブラウクモンキー	2	3	3	0	0	0
<i>Chlorocebus pygerythrus</i>	ベルベットモンキー	2	0	0	0	0	0
<i>Miopithecus talapoin</i>	タラポアン	14	14	12	2	4	1
<i>Miopithecus ogouensis</i>	キタタラポアン	0	1	1	0	0	0
<i>Erythrocebus patas</i>	パタスモンキー	125	81	67	21	2	5
<i>Cercopithecinae sp.</i>		21	0	0	0	0	0
<i>Colobus angolensis</i>	アンゴラコロブス	15	23	22	5	3	0
<i>Colobus guereza</i>	アビシニアコロブス	16	25	24	4	2	6
<i>Colobus polykomos</i>	キングコロブス	6	1	0	0	0	1
<i>Piliocolobus badius</i>	ニシアカコロブス	3	3	0	0	3	1
<i>Presbytis melalophos</i>	クロカンムリリーフモンキー	0	1	1	0	0	0
<i>Semnopithecus entellus</i>	ハヌマンラングール	51	54	39	17	4	11
<i>Trachypithecus cristatus</i>	シルバールトン	25	29	29	27	2	1
<i>Trachypithecus francoisi</i>	フランソワルトン	13	10	10	5	3	2
<i>Trachypithecus obscurus</i>	ダスキールトン	11	10	7	0	1	1
<i>Trachypithecus pileatus</i>	ボウシラングール	6	7	4	2	3	0
<i>Trachypithecus vetulus</i>	カオムラサキラングール	3	3	2	0	1	1
<i>Trachypithecus vetulus vetulus</i>	ニシカオムラサキラングール	1	1	0	0	1	1
<i>Presbytis sp.</i>		4	0	0	0	0	0
<i>Nasalis larvatus</i>	テングザル	6	7	6	2	5	1
<i>Pygathrix nemaeus</i>	アカアシドゥ克蘭グール	1	0	0	0	1	0
<i>Colobinae sp.</i>		1	1	0	0	0	0
<i>Cercopithecidae sp.</i>		22	0	0	0	0	0
Hylobatidae	テナガザル科	85	51	39	9	12	17
<i>Hylobates agilis</i>	アジルテナガザル	11	9	6	2	2	0
<i>Hylobates klossii</i>	クロステナガザル	2	2	0	0	0	0
<i>Hylobates lar</i>	シロテナガザル	42	18	15	1	4	2
<i>Hylobates moloch</i>	ワウワウテナガザル	3	4	3	2	1	0
<i>Hylobates pileatus</i>	ボウシテナガザル	5	1	0	0	1	2
<i>Hylobates (moloch + lar)</i>		1	1	1	0	0	0
<i>Hylobates sp.</i>		8	0	0	0	0	13

学名	和名	骨格	臓器 液浸	脳 液浸	全身 液浸	剥製	毛皮・ 仮剥製
<i>Hoolock hoolock</i>	フーロックテナガザル	2	2	2	0	0	0
<i>Nomascus concolor</i>	カンムリテナガザル	3	2	4	0	1	0
<i>Symphalangus syndactylus</i>	フクロテナガザル	8	12	8	4	3	0
Hominidae	ヒト科	28	30	19	10	16	1
<i>Pongo pygmaeus</i>	ボルネオオランウータン	8	6	3	1	3	1
<i>Pan troglodytes</i>	チンパンジー	12	19	11	9	5	0
<i>Gorilla gorilla gorilla</i>	ニシローランドゴリラ	6	3	3	0	6	0
<i>Gorilla beringei graueri</i>	ヒガシローランドゴリラ	2	2	2	0	2	0
Primates 科不明	霊長目 科不明	1	0	0	0	0	0
misc. Primates		1	0	0	0	0	0
Scandentia	登木目	24	21	10	2	5	5
<i>Dendrogale melanura</i>	ミナミホソオツパイ	1	0	0	0	0	0
<i>Tupaia belangeri</i>	キタツパイ	10	13	8	2	1	5
<i>Tupaia gracilis</i>	ホソツパイ	1	0	0	0	0	0
<i>Tupaia minor</i>	ショウツパイ	1	0	0	0	0	0
Tupaiaidae sp.		10	8	2	0	4	0
<i>Ptilocercus lowii</i>	ハネオツパイ	1	0	0	0	0	0
Other mammals	その他の哺乳類	234	27	0	48	2	9
Artiodactyla	偶蹄目	81	0	0	2	1	1
Carnivora	食肉目	71	0	0	0	1	3
Chiroptera	翼手目	1	0	0	0	0	0
Diprodontia	双前歯目	18	0	0	0	0	0
Dermoptera	皮翼目	1	0	0	0	0	0
Lagomorpha	兔形目	10	12	0	0	0	0
Perissodactyla	奇蹄目	4	0	0	0	0	0
Pilosa	有毛目	1	0	0	0	0	0
Rodentia	齧歯目	37	15	0	42	0	2
Eulipotyphla	真無盲腸目	10	0	0	4	0	3
Others	その他	29	2	0	16	7	4
Aves	鳥類	21	0	0	0	6	4
Reptilia	爬虫類	8	1	0	10	1	0
Amphibian	両生類	0	0	0	2	0	0
Actinopterygii	硬骨魚類	0	1	0	4	0	0
霊長類 計		4250	3331	2575	1516	243	283
霊長類以外 計		287	50	10	66	14	18
総計		4537	3381	2585	1582	257	301
2023 年度 収集数		40	51	24	59	0	10

2. 寄生虫標本

宿主		寄生虫			
学名	和名	線虫	条虫	吸虫	その他
Cheirogaleidae	コビトキツネザル科	0	1	0	0
<i>Microcebus murinus</i>	ハイイロネズミキツネザル	0	1	0	0
Galagidae	ガラゴ科	5	3	0	1
<i>Galago senegalensis</i>	ショウガラゴ	2	1	0	0
<i>Otolemur crassicaudatus</i>	オオガラゴ	3	2	0	1
Lorisidae	ロリス科	9	5	1	1
<i>Loris tardigradus</i>	スレンダーロリス	3	0	0	0
<i>Nycticebus coucang</i>	スンドスローロリス	6	4	1	1
<i>Nycticebus pygmaeus</i>	レッサースローロリス	0	1	0	0
Tarsiidae	メガネザル科	0	1	0	0
<i>Tarsius syrichta</i>	フィリピンメガネザル	0	1	0	0
Callitrichidae	マーモセット科	93	2	1	6
<i>Callimico goeldii</i>	ゲルディモンキー	0	1	0	0
<i>Mico argentata</i>	シルバーマーモセット	4	0	0	1
<i>Callithrix geoffroyi</i>	シロガオマーモセット	3	0	0	0
<i>Callithrix jacchus</i>	コモンマーモセット	45	0	0	1
<i>Cebuella pygmaea</i>	ピグミーマーモセット	2	0	0	0
<i>Leontopithecus rosalia</i>	ゴールデンライオンタマリン	0	0	0	2
<i>Saguinus fuscicollis</i>	サドルバックタマリン	1	0	0	0
<i>Saguinus labiatus</i>	ムネアカタマリン	2	0	0	0
<i>Saguinus leucopus</i>	シロテタマリン	1	0	0	0
<i>Saguinus midas</i>	アカテタマリン	2	0	0	1
<i>Saguinus mystax</i>	クチヒゲタマリン	9	0	0	0
<i>Saguinus nigricollis</i>	クロクビタマリン	20	1	1	0
<i>Saguinus oedipus</i>	ワタボウシタマリン	4	0	0	1
Cebidae	オマキザル科	15	3	0	0
<i>Cebus capucinus</i>	ノドジロオマキザル	0	1	0	0
<i>Saimiri sciureus</i>	コモンリスザル	15	2	0	0
Aotidae	ヨザル科	1	0	0	0
<i>Aotus</i> sp.	ヨザル	1	0	0	0
Atelidae	クモザル科	11	3	0	1
<i>Alouatta caraya</i>	クロホエザル	0	2	0	0
<i>Alouatta</i> sp.		0	1	0	0
<i>Ateles geoffroyi</i>	ジェフロイクモザル	1	0	0	0
<i>Ateles paniscus</i>	クロクモザル	8	0	0	1
<i>Lagothrix lagotricha</i>	フンボルトウーリーモンキー	2	0	0	0
Pitheciidae	サキ科	2	2	0	0
<i>Callicebus cupreus</i>	ドウイロティティ	1	0	0	0
<i>Callicebus moloch</i>	ダスキーティティ	0	2	0	0
<i>Pithecia monachus</i>	モンクサキ	1	0	0	0
Cercopithecidae	オナガザル科	243	14	11	8
<i>Macaca cyclopis</i>	タイワンザル	5	1	0	0
<i>Macaca fascicularis</i>	カニクイザル	51	1	8	3
<i>Macaca fuscata fuscata</i>	ニホンザル	76	7	0	0
<i>Macaca fuscata yakui</i>	ヤクシマザル	33	2	0	0
<i>Macaca maura</i>	ムーアモンキー	2	0	0	0
<i>Macaca mulatta</i>	アカゲザル	26	1	0	2
<i>Macaca nemestrina</i>	ブタオザル	1	0	0	1
<i>Macaca radiata</i>	ボンネットモンキー	2	0	0	0
<i>Macaca sylvanus</i>	バーバリーマカク	1	0	0	0
<i>Macaca thibetana</i>	チベットモンキー	1	0	0	0
<i>Macaca hybrid</i>		1	0	0	0
<i>Mandrillus sphinx</i>	マンドリル	1	0	0	0
<i>Papio anubis</i>	アヌビスヒヒ	1	0	0	0

宿主		寄生虫			
学名	和名	線虫	条虫	吸虫	その他
<i>Papio cynocephalus</i>	キイロヒヒ	6	1	0	0
<i>Papio hamadryas</i>	マントヒヒ	1	0	0	0
<i>Papio papio</i>	ギニアヒヒ	1	0	0	0
<i>Cercopithecus albogularis</i>	サイクスモンキー	1	0	0	0
<i>Cercopithecus ascanius</i>	アカオザル	0	1	0	0
<i>Cercopithecus mitis</i>	ブルーモンキー	1	0	0	0
<i>Cercopithecus mona</i>	モナモンキー	1	0	0	0
<i>Chlorocebus aethiops</i>	サバンナモンキー	1	0	0	0
<i>Miopithecus talapoin</i>	タラポアン	2	0	0	0
<i>Erythrocebus patas</i>	パタスザル	24	0	1	0
<i>Colobus guereza</i>	アビシニアコロブス	0	0	1	0
<i>Piliocolobus badius</i>	ニシアカコロブス	1	0	0	0
<i>Semnopithecus entellus</i>	ハヌマンランゲール	2	0	0	2
<i>Trachypithecus francoisi</i>	フランソワルトン	0	0	1	0
<i>Trachypithecus obscurus</i>	ダスキールトン	1	0	0	0
Hylobatidae	テナガザル科	8	2	0	0
<i>Hylobates agilis</i>	アジルテナガザル	1	0	0	0
<i>Hylobates lar</i>	シロテナガザル	3	2	0	0
<i>Hoolock hoolock</i>	フーロックテナガザル	1	0	0	0
<i>Symphalangus syndactylus</i>	フクロテナガザル	3	0	0	0
Hominidae	ヒト科	15	0	0	0
<i>Pan troglodytes</i>	チンパンジー	15	0	0	0
Scandentia	登木目	4	0	0	0
Tupaiaidae sp.		4	0	0	0
Others	その他	1	0	0	1
Aves	鳥類	1	0	0	1
霊長類 計		402	36	13	17
総計		407	36	13	18
2023 年度 収集数		0	0	0	0

3. 複製資料

標本番号	学名	性別・部位等
KNM-CA 380	<i>Micropithecus clarki</i>	下顎骨
KNM-SO 700	<i>Rangwapithecus gordonii</i>	上顎骨
KNM-RU 1850	<i>Dendropithecus macinnesi</i>	上下顎骨
KNM-RU 2087	<i>Proconsul nyanzae</i>	下顎骨
KNM-RU 7290	<i>Proconsul heseloni</i>	頭骨
KNM-SO 396	<i>Proconsul major</i>	下顎骨
KNM-FT 46	<i>Kenyapithecus wickeri</i>	上顎骨片と犬歯
KNM-KP 29281, 29283, 28285B, 28285A	<i>Australopithecus anamensis</i>	上下顎, 脛骨
KNM-WT 40000	<i>Kenyanthropus platyops</i>	頭骨
KNM-WT 17000	<i>Paranthropus aethiopicus</i>	頭骨
KNM-ER 406	<i>Paranthropus boisei</i>	頭骨
KNM-ER 729	<i>Paranthropus boisei</i>	下顎骨
KNM-CA 732	<i>Paranthropus boisei</i>	頭骨
KNM-ER 999	<i>Homo habilis</i>	大腿骨
KNM-ER 1470	<i>Homo rudolfensis</i>	頭骨
KNM-ER 1472	<i>Homo habilis</i>	右大腿骨
KNM-CA 1802	<i>Homo habilis</i>	下顎骨
KNM-ER 1813	<i>Homo habilis</i>	頭骨
KNM-ER 3733	<i>Homo ergaster</i>	頭骨
KNM-WT 15000	<i>Homo ergaster</i>	全身骨格
KNM-WT 16999	<i>Afropithecus turkanensis</i>	頭骨
OH-2	<i>Australopithecus afarensis</i>	下顎骨
OH-5	<i>Paranthropus boisei</i>	頭骨
OH-7	<i>Homo habilis</i>	下顎骨
OH-8	<i>Homo habilis</i>	足骨
OH-13	<i>Homo habilis</i>	上下顎骨
OH-24	<i>Homo habilis</i>	頭骨
WN-64 (Peninj-160)	<i>Paranthropus boisei</i>	下顎骨
SK 48	<i>Paranthropus robustus</i>	頭骨
STS 5	<i>Australopithecus africanus</i>	頭骨
Taung Child	<i>Australopithecus africanus</i>	頭骨
Peking Man	<i>Homo erectus</i>	頭骨
Sangiran 17	<i>Homo erectus</i>	頭骨
Kabwe Skull	<i>Homo heidelbergensis</i>	頭骨
La Ferrassie 1	<i>Homo neanderthalensis</i>	頭骨
LB-1	<i>Homo floresiensis</i>	頭骨
CGM 40237	<i>Aegyptopithecus zeuxis</i>	頭骨
PIN 3381-236	<i>Parapresbytis eohuman</i>	下顎骨
GSP 15000	<i>Sivapithecus indicus</i>	頭骨
<i>A. afarensis</i> 復元頭蓋	<i>Australopithecus afarensis</i>	頭骨
Zos 50	<i>Gorilla gorilla</i>	オスの頭骨
Zos 53	<i>Pan troglodytes</i>	オスの頭骨
SH-10	<i>Homo sapiens</i>	男性の頭骨
JMC-Re-1	<i>Homo sapiens</i>	男性の全身骨格
JMC-Re-2	<i>Pan troglodytes</i>	オスの全身骨格
JMC-Re-3	<i>Homo sapiens</i>	アジア人男性の頭骨
JMC-Re-4	<i>Pan troglodytes</i>	オスの頭骨
JMC-Re-5	<i>Gorilla gorilla</i>	オスの頭骨
JMC-Re-6	<i>Homo sapiens</i>	女性の頭骨、骨盤、右上腕骨、右大腿骨
JMC-Re-7	<i>Homo sapiens</i>	子供（5歳）の頭骨、骨盤、右上腕骨、右大腿骨
JMC-Re-8	<i>Panthera leo</i>	頭骨
JMC-Re-9	<i>Daubentonia madagascariensis</i>	頭骨
JMC-Re-10	<i>Daubentonia madagascariensis</i>	右前肢

標本番号	学名	性別・部位等
JMC-Re-11	<i>Tarsius</i> sp.	頭骨
JMC-Re-12	<i>Cynocephalus volans</i>	頭骨
JMC-Re-13	<i>Castor canadensis</i>	頭骨
JMC-Re-14	<i>Phascolarctos cinereus</i>	頭骨
JMC-Re-15	<i>Homo sapiens</i>	胎児頭骨
JMC-Re-16	<i>Pan troglodytes</i>	胎児頭骨
JMC-Re-17	<i>Pan troglodytes</i>	骨盤

2023 年度収集数 0 点

4. 分野別民俗資料点数 (猿二郎コレクション)

分類番号	種別	点数
00		
050	逐次刊行物	16
070	和書	29
090	古書	17
200		
288.9	旗	1
300		
336.94	暖簾、看板	20
337.31	金貨	3
337.32	銀貨	4
337.33	補助貨幣（銅貨など）	1
337.4	紙幣	2
348.6	タバコ関係	31
375.9	教科書	8
380	風俗、習慣、民俗	37
383.3	アクセサリー、マスコット、根付	146
383.55	髪飾、小間物 （くし、こうがい、かんざし）	3
383.9	居住、民具	5
386	祭礼	2
387	信仰、民間信仰と迷信	45
387.1	絵馬	200
400		
458	岩石	11
470	植物	13
474.8	菌類	7
489.9	霊長類	1
499.88	薬用動物	1
500		
524	天井	1
524.86	出入口（窓、戸）	3
535.2	時計	2
545.28	電灯支持具、照明	4
545.5	灯具（行燈、提灯、ランプ）	4
573.38	タイル	6
576.4	蠟燭	1
581	金属製品	7
581.1	鋳物製品	32
581.7	刃物類（スプーン、 フォーク、ナイフ、鉄）	6
583	木製品	13
583.92	竹製品	3
583.94	蔓製品（藤、籐、あけび）	3
583.96	藁製品	2

分類番号	種別	点数
583.97	縄製品	1
586.27	綿製品（たおる、てぬぐい）	14
586.37	麻製品	4
586.78	織機	1
588.38	飴菓子	5
588.39	雑菓子	5
588.55	果実酒（容器）	17
589.211	和服	7
589.215	子供服、T シャツ	2
589.224	ネクタイ	5
589.225	ハンカチ	7
589.23	靴下、足袋	4
589.24	マフラー、ネックチーフ	2
589.253	靴、スリッパ	1
589.27	ハンドバック、袋物（財布）	21
589.28	ボタン、タイピン、カフス	9
589.3	傘、扇、団扇	19
589.4	洋傘	1
589.49	杖、ステッキ	1
589.5	ブラシ	1
589.7	文房具、運動具、貯金箱	102
594.1	モール	4
596.5	厨房具、食器	59
597	住居、家具、調度	38
597.2	カーテン、簾、タペストリー	16
597.7	床飾、インテリア	2
599.8	絵本	3
600		
629.61	灯籠	9
674.7	宣伝広告用印刷物、新聞、PR 誌、 シール、チラシ、案内状、シオリ	219
674.71	千社札	44
674.72	ポスター	164
674.73	カレンダー	24
675.18	包装、ラベル、容器	39
675.181	マッチラベル	274
688.5	観光みやげ物	219
693.8	切手、葉書、スタンプ	275
699.67	ラジオ、テレビ、演劇、娯楽	1
700		
711.9	仮面（郷土玩具を除く）	15
713	木彫	285
714	石彫	85
717	粘土彫刻、テラコッタ、蠟、石鹼	7

分類番号	種別	点数
718.4	石仏、仏像	5
720	絵画	37
721.2	大和絵、絵巻物	36
721.3	水墨画	10
721.6	写生画	15
721.7	文人画、南画、俳画、色紙	81
721.8	浮世絵、錦絵、大津絵	49
724.8	ガラス絵	1
726.58	絵葉書	125
726.7	児童画	1
726.8	影絵（シュリエット）	1
728.8	書跡	9
729.3	墨	4
729.5	硯	8
729.6	文鎮	9
729.7	水差し	5
733	木版画、版木	22
739.1	印章材料	10
745	陽画（写真）	47
751.3	陶磁器（皿、絵皿）	455
751.31	灰皿	20
751.32	徳利、杯	17
751.33	急須、湯呑	17
751.4	埴輪、古瓦	16
751.5	ガラス工芸	20
751.9	プラスチック	45
752	漆工芸	3
753.7	刺繍	11
753.8	染物	2
754	木工芸	95
754.7	竹工芸	36
754.9	紙工芸（折り紙、せん紙、ペーパークラフト）	38
755.4	牙角細工	21

分類番号	種別	点数
755.5	革細工	3
755.6	貝細工	6
756.14	鍍金	78
756.6	刀剣、鐔	14
756.7	甲冑	1
759	人形、玩具	340
759.9	郷土玩具、郷土人形	19
759.91	土人形、土笛、土面	541
759.92	首人形	13
759.93	土鈴、陶鈴、鈴	164
759.94	張り子	99
759.95	凧	5
759.96	張り子面、土面子	159
759.97	紙塑	5
759.98	練り物	6
759.99	木、竹、その他	159
774	歌舞伎	2
777.1	人形浄瑠璃	6
777.8	影絵芝居、ギニョール、マリオネット	30
791.5	茶器、菓子器	23
792.6	香合、香炉	16
793.5	花器	7
900		
909.3	童話	10
000	未分類	1
合計		5,678 点

2023 年度新規登録数 0 点

5. 音響・映像資料

2024 年 3 月 31 日現在、42 点の映像資料、および以下の映像機器が登録されている。

ビデオデッキ		液晶プロジェクター	
SONY VHS SLV-F6	1	東芝 TLP781J	1
カラービデオカメラ		EPSON EMP1710	1
SONY CCD-G5	1	EPSON EH-TW5200	1 (PWS)
デジタルビデオカメラ		CD/DVD プレーヤー / レコーダー	
Panasonic NV-GS50	1	SONY DVP-NS53P	1
SONY DCR-PC5	1	Panasonic DVD-S39	1
SONY DCR-HC62	1	Victor SR-DVM700	1
デジタルハイビジョンビデオカメラ		CCD-001	1
Panasonic HDC-HS100	2	テレビモニター	
8mm 映写機		TOSHIBA REGZA 37C7000	1
エルモ E80	1	By D:sign d:4222GJV3	1
16mm 映写機		Panasonic VIERA TH-37TX50	1
BELL & HOWELL	1	I・O Data LCD-MF223FBR-T	1 (PWS)
スライドプロジェクター		Panasonic TH-42AS600	1 (PWS)
ファミリーキャビン	1		
Master Lux	1		
オーバーヘッドプロジェクター	1		

6. 図書資料

2023 年度に受け入れた資料は、次のとおりである。

図書	24 点
定期刊行物（雑誌類等）	376 点

2024 年 3 月 31 日現在、保有する登録図書資料（製本分を含む）は、次のとおりである。

和書	6,110 点
洋書	3,745 点
計	9,855 点

逐次刊行物を受贈した機関は次のとおりである。

〈一般および研究関係等〉

Springer	環境省自然環境局生物多様性センター	東京農業大学学術情報通信課程	日本霊長類学会
愛銀教育文化財団	京都大学生態学研究センター	名古屋経済大学地域連携センター	ニューサイエンス社
愛知学院大学歯学会	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科	名古屋国際センター	農林水産省動物検疫所
愛知県教育委員会	京都民報社	なごや生物多様性センター	藤原ナチュラルヒストリー振興財団
石川県白山自然保護センター	京大民報社	なごや生物多様性保全活動協議会	ペット未病研究会
一般社団法人実践倫理宏正会	國學院大學博物館学研究室	成田山名古屋別院大聖寺	ボルネオ保全トラスト・ジャパン
犬山市	国立感染症研究所	南山考古文化人類学研究会	三重県林業研究所
岩手大学農学部付属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター	市民 ZOO ネットワーク	日本写真著作協会	宮城のサル調査会
岩波書店	全日本写真連盟	日本人類学会	明治大学学芸員養成課程
栄研化学株式会社	田原市文化遺産地域活性化実行委員会	日本生物多様性情報イニシアチブ	野生生物保全論研究会
大阪自然環境保全協会	中部科学技術センター	日本動物愛護協会	野生動物保護管理事務所
神奈川大学日本常民文化研究所	同志社大学博物館学芸員課程	日本動物心理学会	山階鳥類研究所
川村学園女子大学			

〈博物館等〉

愛知県陶磁美術館	大町山岳博物館	国立科学博物館	名古屋市博物館
秋吉台科学博物館	岡崎市美術博物館	国立民族学博物館	奈良県立民俗博物館
熱田神宮宝物館	崋山会	たばこと塩の博物館	日本博物館協会
石川県白山自然保護センター	春日井市道風記念館	田原市博物館	平塚市博物館
一宮市博物館	神奈川県立生命の星・地球博物館	千葉県立中央博物館	福井市自然史博物館
犬山城白帝文庫	蟹江町歴史民俗資料館	徳島県立博物館	鳳来寺山自然科学博物館
茨城県自然博物館	刈谷市歴史博物館	栃木県立博物館	北海道博物館
岩手県立博物館	岐阜県博物館	鳥取県立博物館	みのかも文化の森
江戸東京博物館	京都大学総合博物館	富山市科学博物館	山口県立山口博物館
大阪歴史博物館	群馬県立自然史博物館	豊田市郷土資料館	和歌山県立自然博物館
大府市歴史民俗資料館	こうちミュージアムネットワーク	豊橋市美術博物館	

〈動物園・水族館等〉

秋田市大森山動物園	伊丹市昆虫館	こどもどうぶつえん	のとじま水族館
アクアマリンふくしま	岡崎市東公園動物園・岡崎市動物総合センター	札幌市円山動物園	浜松市動物園
アクアワールド茨城県大洗水族館	おびひろ動物園	世界淡水魚園水族館アクア・トトぎふ	日立市かみね動物園
旭川市旭山動物園	葛西臨海水族園	東京動物園協会	広島市みどり生きもの協会
熱川バナナワニ園熱帯動植物友の会	鴨川シーワールド	鳥羽水族館	福山市立動物園
いしかわ動物園	高知県立のいち動物公園	名古屋港水族館	碧南海浜水族館
			横浜市緑の協会

(6) 霊長類の福祉に配慮した動物園の設置及び経営

1. 飼育動物一覧（2024年3月31日現在）

(1) 霊長類

種名	学名	合計	オス	メス	不明
ワオキツネザル	<i>Lemur catta</i>	48	18	30	0
クロシロエリマキキツネザル	<i>Varecia variegata</i>	1	0	1	0
クロキツネザル	<i>Eulemur macaco</i>	2	1	1	0
ブラウンキツネザル	<i>Eulemur fulvus</i>	1	0	1	0
レッサースローロリス	<i>Nycticebus pygmaeus</i>	4	2	2	0
ポト	<i>Perodicticus potto</i>	2	1	1	0
コモンマーモセット	<i>Callithrix jacchus</i>	4	4	0	0
クロミミマーモセット	<i>Callithrix penicillata</i>	9	7	2	0
アカテタマリン	<i>Saguinus midas</i>	6	4	2	0
ムネアカタマリン	<i>Saguinus labiatus</i>	1	0	1	0
ワタボウシタマリン	<i>Saguinus oedipus</i>	5	3	2	0
ヨザル	<i>Aotus spp.</i>	10	4	6	0
シロガオサキ	<i>Pithecia pithecia</i>	1	1	0	0
ヒゲサキ	<i>Chiropotes chiropotes</i>	2	1	1	0
ノドジロオマキザル	<i>Cebus capucinus</i>	5	2	3	0
シロガオオマキザル	<i>Cebus albifrons</i>	4	2	2	0
フサオマキザル	<i>Sapajus apella</i>	22	12	10	0
ボリビアリスザル	<i>Saimiri boliviensis</i>	22	14	8	0
コロンビアクロクモザル	<i>Ateles fuscipes</i>	2	0	2	0
ペルークロクモザル	<i>Ateles chamek</i>	1	1	0	0
クモザル（種間交雑）	<i>Ateles hybrid</i>	6	4	2	0
ジェフロイクモザル	<i>Ateles geoffroyi</i>	6	2	4	0
ハイイロウーリーモンキー	<i>Lagothrix cana</i>	2	2	0	0
バーバリーマカク	<i>Macaca sylvanus</i>	17	8	9	0
トクモンキー	<i>Macaca sinica</i>	23	8	15	0
ボンネットモンキー	<i>Macaca radiata</i>	13	4	9	0
シシオザル	<i>Macaca silenus</i>	9	3	6	0
ミナミブタオザル	<i>Macaca nemestrina</i>	7	3	4	0
カニクイザル	<i>Macaca fascicularis</i>	73	31	42	0
アカゲザル	<i>Macaca mulatta</i>	3	0	3	0
タイワンザル	<i>Macaca cyclopis</i>	1	1	0	0
チベットモンキー	<i>Macaca thibetana</i>	5	1	4	0
ニホンザル	<i>Macaca fuscata fuscata</i>	116	57	59	0
ヤクシマザル	<i>Macaca fuscata yakui</i>	141	75	66	0
ゴールデンマンガベイ	<i>Cercocebus chrysogaster</i>	1	1	0	0
アヌビスヒヒ	<i>Papio anubis</i>	80	32	48	0
マントヒヒ	<i>Papio hamadryas</i>	6	3	3	0
マンドリル	<i>Mandrillus sphinx</i>	9	4	5	0
サイクスモンキー	<i>Cercopithecus alboglaris</i>	1	0	1	0
ブラッサグエノン	<i>Cercopithecus neglectus</i>	1	1	0	0
アカオザル	<i>Cercopithecus ascanius</i>	4	0	4	0
ショウハナジログエノン	<i>Cercopithecus petaurista</i>	1	0	1	0
ベルベットモンキー	<i>Chlorocebus pygerythrus</i>	6	1	5	0
キタタラポアン	<i>Miopithecus ogouensis</i>	2	1	1	0
パタスモンキー	<i>Erythrocebus patas</i>	6	2	4	0

種名	学名	合計	オス	メス	不明
フランソワルトン	<i>Trachypithecus francoisi</i>	2	1	1	0
アビシニアコロブス	<i>Colobus guereza</i>	3	1	2	0
アンゴラコロブス	<i>Colobus angolensis</i>	1	1	0	0
シロテテナガザル	<i>Hylobates lar</i>	4	3	1	0
ボウシテナガザル	<i>Hylobates pileatus</i>	4	3	1	0
ミュラーテナガザル	<i>Hylobates muelleri</i>	1	0	1	0
フクロテナガザル	<i>Symphalangus syndactylus</i>	8	4	4	0
ニシゴリラ	<i>Gorilla gorilla gorilla</i>	1	1	0	0
チンパンジー	<i>Pan troglodytes</i>	8	5	3	0
計		723	340	383	0

(2) その他動物

種名	学名	合計	オス	メス	不明
イヌ	<i>Canis familiaris</i>	1	0	1	0
シバヤギ	<i>Capra hircus</i>	1	1	0	0
チリアンコモン	<i>Grammostola rosea</i>	1	0	0	1
総 計		3	1	1	1

2. ブリーディングローン動物一覧（2024年3月31日現在）

(1) 貸付動物

種名	個体数	出園日 / 出生日	現飼育施設
ハイロウリーモンキー <i>Lagothrix cana</i>	オス 1	1999年2月18日 (横浜市立よこはま動物園で出生)	横浜市立よこはま動物園
シシオザル <i>Macaca silenus</i>	オス 1	1999年9月3日 (長野市茶臼山動物園で出生)	天王寺動物園
ブラッザゲエノン <i>Cercopithecus neglectus</i>	オス 1	2003年5月4日 (広島市安佐動物公園にて出生)	広島市安佐動物公園
シシオザル <i>Macaca silenus</i>	メス 1	2005年11月12日 (出園)	東武動物公園
ブラッザゲエノン <i>Cercopithecus neglectus</i>	メス 1	2006年5月22日 (広島市安佐動物公園にて出生)	神戸市立王子動物園
ワオキツネザル <i>Lemur catta</i>	オス 2 メス 2	2014年7月23日 (出園)	旭川市旭山動物園
ワオキツネザル <i>Lemur catta</i>	オス 6 メス 2	2014年10月21日 (出園)	神戸どうぶつ王国
ワオキツネザル <i>Lemur catta</i>	メス 2	2014年10月21日 (出園) (神戸どうぶつ王国から移動)	那須どうぶつ王国
ブラッザゲエノン <i>Cercopithecus neglectus</i>	メス 1	2014年10月23日 (神戸市立王子動物園にて出生)	神戸市立王子動物園
ワオキツネザル <i>Lemur catta</i>	オス 2	2014年11月16日 (出園)	熊本市動植物園
マンドリル <i>Mandrillus sphinx</i>	オス 1	2014年11月27日 (出園)	鹿児島市平川動物公園
ボリビアリスザル <i>Saimiri boliviensis</i>	メス 1	2014年11月27日 (出園)	鹿児島市平川動物公園
フサオマキザル <i>Sapajus apella</i>	メス 2	2014年11月27日 (出園)	鹿児島市平川動物公園
アビシニアコロブス <i>Colobus guereza</i>	メス 1	2014年11月27日 (出園)	鹿児島市平川動物公園
マンドリル <i>Mandrillus sphinx</i>	メス 1	2015年6月23日 (出園)	おびひろ動物園
マンドリル <i>Mandrillus sphinx</i>	オス 1	2015年6月23日 (出園)	札幌市円山動物園
ワオキツネザル <i>Lemur catta</i>	メス 1	2015年6月29日 (熊本市動植物園にて出生)	熊本市動植物園
ワオキツネザル <i>Lemur catta</i>	オス 10	2015年10月19日 (出園)	NIFREL
マンドリル <i>Mandrillus sphinx</i>	メス 1	2015年11月24日 (出園)	浜松市動物園
ワオキツネザル <i>Lemur catta</i>	オス 1	2016年3月12日 (旭川市旭山動物園にて出生)	旭川市旭山動物園
ワオキツネザル <i>Lemur catta</i>	オス 2	2016年3月16日 (熊本市動植物園にて出生)	熊本市動植物園
アカテタマリン <i>Saguinus midas</i>	オス 1	2016年3月29日 (出園)	市川市動植物園
ワオキツネザル <i>Lemur catta</i>	オス 1	2016年4月5日 (神戸どうぶつ王国にて出生)	神戸どうぶつ王国

種名	個体数	出園日 / 出生日	現飼育施設
ワオキツネザル <i>Lemur catta</i>	メス 1	2016 年 4 月 5 日 (神戸どうぶつ王国にて出生)	那須どうぶつ王国
ワオキツネザル <i>Lemur catta</i>	オス 1	2016 年 6 月 6 日 (熊本市動植物園にて出生)	熊本市動植物園
シロテテナガザル <i>Hylobates lar</i>	オス 1	2016 年 6 月 30 日 (出園)	伊豆シャボテン動物公園
ヨザル <i>Aotus trivirgatus</i>	オス 1	2016 年 6 月 30 日 (出園)	伊豆シャボテン動物公園
コモンマーモセット <i>Callithrix jacchus</i>	オス 1	2016 年 9 月 10 日 (出園)	東京都恩賜上野動物園
	メス 1		
ヨザル <i>Aotus trivirgatus</i>	メス 1	2016 年 9 月 10 日 (出園)	東京都恩賜上野動物園
ワオキツネザル <i>Lemur catta</i>	メス 1	2016 年 10 月 8 日 (神戸どうぶつ王国にて出生)	那須どうぶつ王国
ワオキツネザル <i>Lemur catta</i>	オス 1	2017 年 4 月 3 日 (神戸どうぶつ王国にて出生)	神戸どうぶつ王国
ワオキツネザル <i>Lemur catta</i>	オス 1	2018 年 3 月 15 日 (神戸どうぶつ王国にて出生)	神戸どうぶつ王国
ワオキツネザル <i>Lemur catta</i>	メス 1	2018 年 3 月 15 日 (神戸どうぶつ王国にて出生)	那須どうぶつ王国
ボリビアリスザル <i>Saimiri boliviensis</i>	メス 1	2018 年 3 月 16 日 (出園)	豊橋総合動植物公園
ワオキツネザル <i>Lemur catta</i>	オス 1	2018 年 4 月 14 日 (神戸どうぶつ王国にて出生)	神戸どうぶつ王国
マンドリル <i>Mandrillus sphinx</i>	オス 1	2018 年 8 月 19 日 (浜松市動物園にて出生)	浜松市動物園
ワオキツネザル <i>Lemur catta</i>	オス 4	2019 年 1 月 16 日 (出園)	富士自然動物公園
アカタマリン <i>Saguinus midas</i>	オス 1	2019 年 1 月 31 日 (出園)	伊豆シャボテン動物公園
コモンマーモセット <i>Callithrix jacchus</i>	メス 1	2019 年 3 月 20 日 (出園)	川崎市夢見ヶ崎動物公園
フクロテナガザル <i>Symphalangus syndactylus</i>	オス 1	2019 年 11 月 10 日 (出園)	鹿児島市平川動物公園
パタスモンキー <i>Erythrocebus patas</i>	オス 1	2020 年 5 月 26 日 (出園)	千葉市動物公園
ハイイロウーリーモンキー <i>Lagothrix cana</i>	メス 2	2020 年 10 月 27 日 (出園)	横浜市立よこはま動物園
フクロテナガザル <i>Symphalangus syndactylus</i>	オス 1	2020 年 10 月 27 日 (出園)	秋田市大森山動物園
ボウシテナガザル <i>Hylobates pileatus</i>	メス 1	2021 年 1 月 13 日 (横浜市立よこはま動物園にて出生)	横浜市立よこはま動物園
シロテテナガザル <i>Hylobates lar</i>	オス 1	2021 年 3 月 27 日 (出園)	福岡市動植物園
シロテテナガザル <i>Hylobates lar</i>	メス 1	2021 年 12 月 9 日 (伊豆シャボテン動物公園にて出生)	伊豆シャボテン動物公園
クロシロエリマキツネザル <i>Varecia variegata</i>	メス 1	2022 年 11 月 25 日 (出園)	仙台市八木山動物公園
ワタボウシタマリン <i>Saguinus oedipus</i>	メス 1	2023 年 4 月 12 日 (出園)	いしかわ動物園
マンドリル <i>Mandrillus sphinx</i>	メス 1	2023 年 5 月 30 日 (出園)	宮崎市フェニックス自然動物園
マンドリル <i>Mandrillus sphinx</i>	オス 1	2023 年 6 月 5 日 (出園)	おびひろ動物園
ワタボウシタマリン <i>Saguinus oedipus</i>	オス 1	2023 年 6 月 13 日 (出園)	浜松市動物園
	メス 1		
マンドリル <i>Mandrillus sphinx</i>	オス 1	2024 年 2 月 27 日 (出園)	静岡市立日本平動物園
	メス 1		
ワタボウシタマリン <i>Saguinus oedipus</i>	メス 1	2024 年 3 月 28 日 (出園)	東京都恩賜上野動物園

(2) 借受動物

種名	個体数	来園日 / 出生日	来園元
ボウシテナガザル <i>Hylobates pileatus</i>	オス 1	1994 年 5 月 19 日 (来園)	横浜市立野毛山動物園 (帰属は横浜市立よこはま動物園)
シロガオサキ <i>Pithecia pithecia</i>	オス 1	2006 年 3 月 17 日 (来園)	静岡市立日本平動物園
コロンビアクロクモザル <i>Ateles fuscipes</i>	メス 1	2010 年 12 月 16 日 (来園)	愛媛県立とべ動物園
クロシロエリマキツネザル <i>Varecia variegata</i>	メス 1	2011 年 4 月 30 日 (出生)	JMC 生まれ (帰属は静岡市立日本平動物園)
チンパンジー <i>Pan troglodytes</i>	メス 1	2013 年 6 月 6 日 (来園)	豊橋総合動植物公園
フランソワルトン <i>Trachypithecus francoisi</i>	メス 1	2016 年 4 月 22 日 (出生)	JMC 生まれ (帰属は鯖江市西山動物園)
クロキツネザル <i>Eulemur macaco</i>	オス 1	2017 年 11 月 8 日 (来園)	浜松市動物園
フランソワルトン <i>Trachypithecus francoisi</i>	オス 1	2022 年 11 月 22 日 (来園)	横浜市立よこはま動物園
マンドリル <i>Mandrillus sphinx</i>	メス 1	2023 年 11 月 28 日 (来園)	日立市かみね動物園

3. 動物の異動

(1) 出園

① 霊長類

無償譲渡 1 種 2 頭

内訳：伊豆アニマルキングダム

ブリーディングローン 2 種 8 頭

内訳：いしかわ動物園

浜松市動物園

東京都恩賜上野動物園

宮崎市フェニックス自然動物園

おびひろ動物園

静岡市立日本平動物園

コモンマーモセット *Callithrix jacchus*

オス 1 頭, メス 1 頭

ワタボウシタマリン *Saguinus oedipus*

メス 1 頭

ワタボウシタマリン *Saguinus oedipus*

オス 1 頭, メス 1 頭

ワタボウシタマリン *Saguinus oedipus*

メス 1 頭

マンドリル *Mandrillus sphinx*

メス 1 頭

マンドリル *Mandrillus sphinx*

オス 1 頭

マンドリル *Mandrillus sphinx*

オス 1 頭, メス 1 頭

(2) 来園

① 霊長類

ブリーディングローン 1 種 1 頭

内訳：日立市かみね動物園

マンドリル *Mandrillus sphinx*

メス 1 頭

(3) 出産（現存・死亡は 2024 年 3 月 31 日現在）

種名	学名	出産	現存	死亡	流産	備考
クロミミマーモセット	<i>Callithrix penicillata</i>	2	0	2	0	自然哺育
ジェフロイクモザル	<i>Ateles geoffroyi</i>	1	0	1	0	自然哺育
ヤクシマザル	<i>Macaca fuscata yakui</i>	6	3	3	0	自然哺育
フランソワルトン	<i>Trachypitecus francoisi</i>	1	0	1	0	人工哺育
計 4 種 10 頭		10	3	7	0	

(4) 死亡

① 霊長類

種名	学名	死亡
ワオキツネザル	<i>Lemur catta</i>	2
レッサースローロリス	<i>Nycticebus pygmaeus</i>	2
ポト	<i>Perodicticus potto</i>	1
ショウガラゴ	<i>Galago senegalensis</i>	1
クロミミマーモセット	<i>Callithrix penicillata</i>	2
アカテタマリン	<i>Saguinus midas</i>	1
シロガオオマキザル	<i>Cebus albifrons</i>	1
ジェフロイクモザル	<i>Ateles geoffroyi</i>	1
ニホンザル	<i>Macaca fuscata fuscata</i>	2
ヤクシマザル	<i>Macaca fuscata yakui</i>	8
カニクイザル	<i>Macaca fascicularis</i>	5
クチヒゲグエノン	<i>Cercopithecus cephus</i>	1
ブラッザグエノン	<i>Cercopithecus neglectus</i>	1
ベルベットモンキー	<i>Chlorocebus pygerythrus</i>	1
キタタラポアン	<i>Miopithecus ogouensis</i>	1
フランソワルトン	<i>Trachypitecus francoisi</i>	1
フクロテナガザル	<i>Symphalangus syndactylus</i>	1
計 17 種		32

4. 高齢動物（年齢は 2024 年 3 月 31 日現在）

種 名	個体名	性別	年齢	摘 要
ヨザル <i>Aotus</i> sp.	ザザ	メス	33	1990/6/7 生
フサオマキザル <i>Sapajus apella</i>	トム	オス	31	1992/4/4 生
コロンビアクロクモザル <i>Ateles fuscipes</i>	プカルバ	メス	39	1985/3/22 生
コロンビアクロクモザル <i>Ateles fuscipes</i>	オバケ	メス	49 以上	1974/6/27 来園
ジェフロイクモザル <i>Ateles geoffroyi</i>	レイコ	メス	38	1985/4/5 生
ジェフロイクモザル <i>Ateles geoffroyi</i>	チロ	メス	32	1991/7/21 生
クモザル（種間交雑） <i>Ateles hybrid</i>	エマ	メス	33	1990/11/14 生
バーバリーマカク <i>Macaca sylvanus</i>	リン	メス	32 以上	1991/12/19 来園
バーバリーマカク <i>Macaca sylvanus</i>	チェン	メス	32 以上	1991/12/19 来園
シシオザル <i>Macaca silenus</i>	ドウ	メス	34 以上	1989/6/22 来園
ミナミブタオザル <i>Macaca nemestrina</i>	ルイ	オス	33 以上	1991/3/19 来園
ミナミブタオザル <i>Macaca nemestrina</i>	マリー	メス	33 以上	1991/3/19 来園

種 名	個体名	性別	年齢	摘 要
カニクイザル <i>Macaca fascicularis</i>	モズク	メス	39	1985/3/19 生
カニクイザル <i>Macaca fascicularis</i>	ツムギ	メス	37	1986/4/13 生
カニクイザル <i>Macaca fascicularis</i>	モン	メス	35	1988/7/16 生
カニクイザル <i>Macaca fascicularis</i>	モルゴ	オス	33	1990/4/24 生
カニクイザル <i>Macaca fascicularis</i>	モンペ	メス	32	1992/4/23 生
カニクイザル <i>Macaca fascicularis</i>	モナリザ	メス	31	1992/6/23 生
ヤクシマザル <i>Macaca fuscata yakui</i>	タイマイ	オス	32	1991/6/9 生
ヤクシマザル <i>Macaca fuscata yakui</i>	ヒマワリ	メス	30	1993/5/25 生
アヌビスヒビ <i>Papio anubis</i>	ゾヘ	メス	33	1990/9/5 生
アヌビスヒビ <i>Papio anubis</i>	ナレル	メス	32	1990/9/5 生
ゴールデンマンガベイ <i>Cercocebus chrysogaster</i>	リート	オス	33	1990/11/27 生
ボウシテナガザル <i>Hylobates pileatus</i>	ドント	オス	推定 56	1969 年推定 2 歳で日本平へ入園 1994/5/19 来園
ミュラーテナガザル <i>Hylobates muellerii</i>	クリケット	メス	41 以上	1982/8/11 来園
ニシゴリラ <i>Gorilla gorilla</i>	タロウ	オス	50	1973/4/20 生
チンパンジー <i>Pan troglodytes</i>	フジコ	メス	推定 53	1971 年出生と推定 1983/6/13 来園
チンパンジー <i>Pan troglodytes</i>	アキラ	オス	推定 43	1980 年出生と推定 1987/7/2 来園

5. 獣医療

(1) 年間診療件数

入院	189 件	退院	185 件
麻酔	233 件	外科手術	98 件
歯科処置	9 件	抜糸	83 件
補液・注射	793 件	避妊処置（インプラント）	39 件
外用薬塗布	51 件	避妊処置（インプロバック）	37 件
マイクロチップ挿入	3 件	洗浄・消毒	93 件
検便	105 件	マイクロチップ確認	102 件
X 線検査	58 件	検尿	11 件
エコー検査	66 件	血液検査	42 件
薬処方	1,675 件		
		総診察数	3,171 件

6. 動物の給餌量（園全体、購入分のみ、2024 年 3 月 31 日現在）

品 目	週間給餌量	品 目	週間給餌量	品 目	週間給餌量	品 目	週間給餌量
白菜	35.0kg	トマト	38.5kg	リンゴ	231.7kg	パン	24 斤
生ニンジン	248.8kg	生サツマイモ	511.9kg	バナナ	235.6kg	卵	287 個
蒸ニンジン	162.2kg	蒸サツマイモ	184.8kg	ミカン	53.9kg	コオロギ	700 匹
						固形飼料	150kg

カットフルーツ・カット野菜

品 目	週間給餌量	品 目	週間給餌量
パイン（芯）	560kg	外葉	670kg
リンゴ（芯）	80kg	カボチャ	20kg
		ゴボウ	20kg

7. 月別入場人員数

入園区分	有料		無料	合計	前年比	開園 日数	休園日
	一般	団体					
2023 年 4 月	5,494	611	1,212	7,317	94.1%	22 日	火曜・水曜
5 月	8,299	1,249	1,512	11,060	70.9%	23 日	火曜・水曜（5/2・5/3 は開園）
6 月	3,333	986	978	5,297	85.8%	22 日	火曜・水曜
7 月	1,871	151	825	2,847	88.0%	17 日	火曜・水曜・7/3-7・7/10-14
8 月	2,435	115	662	3,212	63.6%	22 日	火曜・水曜（8/16 は開園、8/15 は台風のため臨時休園）
9 月	2,836	852	818	4,506	76.3%	18 日	火曜・水曜・9/4-8・9/11-13
10 月	5,189	2,921	1,776	9,886	76.3%	27 日	火曜（10/17 は開園）
11 月	5,922	2,726	1,483	10,131	102.8%	26 日	火曜
12 月	4,210	546	1,032	5,788	99.5%	23 日	火曜・水曜
2024 年 1 月	4,884	44	895	5,823	78.0%	14 日	1/9-12・1/15-19・1/22-26・1/29-31
2 月	3,973	172	887	5,032	108.3%	14 日	2/1-2・2/5-9・2/13-16・2/20-21・2/27-28
3 月	5,610	849	1,337	7,796	91.3%	25 日	火曜・水曜（3/20・3/27 は開園）
合計	54,056	11,222	13,417	78,695	84.6%	253 日	

（参考）過去の年間入場者数の推移（2013 年度までの数値は遊園地日本モンキーパークとの総計）

年度	入場人員	年度	入場人員	年度	入場人員	年度	入場人員
2003 年	711,889	2008 年	725,870	2013 年	548,045	2018 年	107,841
2004 年	776,068	2009 年	604,306	2014 年	147,523	2019 年	104,868
2005 年	594,590	2010 年	595,391	2015 年	154,378	2020 年	66,668
2006 年	734,906	2011 年	560,920	2016 年	118,113	2021 年	85,141
2007 年	773,256	2012 年	562,465	2017 年	112,965	2022 年	93,000

8. 入園料改定

2023 年 4 月 1 日より附属世界サル類動物園の入園料ならびに友の会の会費を改定

入園料

区分	旧料金	新料金
大人（高校生以上）	800 円	→ 1,200 円
小中学生	400 円	→ 500 円
幼児（3 才以上）	300 円	→ 300 円（変更なし）

友の会会費

区分	旧料金	新料金
大人（高校生以上）	3,000 円	→ 4,000 円
小中学生	2,000 円	→ 2,000 円（変更なし）
幼児（3 才以上）	1,500 円	→ 1,500 円（変更なし）

9. 土地・主な施設および設備の一覧と変動

〈土地〉 (2024 年 3 月 31 日現在)

地区名	面積 (m ²)
官林地区	173,480.04
栗栖地区	6,153.62
小野洞地区	759,061.22

〈施設・設備〉 (2024 年 3 月 31 日現在)

施設名	構 造	面積 (m ²)	建設・変動年
動物園管理事務所	鉄筋コンクリート2階造	565.5	平成15年
飼料調理倉庫	鉄骨造	64.8	平成15年
動物園出改札詰め所	鉄骨造	50.4	平成15年
ビジターセンター	鉄筋コンクリート造	860	平成元年
ベビールーム	ブロック積鉄柱梁組サイドボード張コロニアル葺造	16.24	平成10年
Waoランドmini	ステンレス檻 木造寝室 木造デッキ	35.1	平成21年
マダガスカル館	鉄筋コンクリート造 (建物)	193	平成13年
	芝張り、硝子、電気柵 (島)	235	
アフリカ館	鉄骨ブロック造	446	昭和39年
南米館	鉄筋コンクリート2階造	480	昭和41年
南米館用バコティンヒーター室	上屋鉄骨組ルーフデッキ葺 サイディングボード張りスレート葺造	9.25	平成10年
ボイラー室と変電室 (旧モンキーアパート関係)	鉄骨ブロック造	49	昭和38年
アジア館	鉄筋コンクリート造	375	昭和53年
Waoランド	木造 ブロック積 水張り 電柵併用	1,000	令和5年
アフリカセンター	鉄筋コンクリート造	2,240	昭和55年
トイレ (アフリカセンター)	鉄筋コンクリート造	60	令和6年
障害者用トイレ (アフリカセンター前)	鉄筋ALC張切板葺	10.2	令和6年
セミナーハウス白帝	鉄筋コンクリート平屋建造	261	昭和39年
駐車場			平成15年
屋外収容棟	鉄骨金網張り造	129.6	平成9年
収容棟	ルーフデッキ葺造	71.28	平成9年
診療および資料棟	ブロック積鉄柱梁組サイディングボード張 ルーフデッキ葺造	217.74	平成9年
検疫棟	ルーフデッキ葺造	91.08	平成9年
標本作成棟	ルーフデッキ葺造	18.5	平成9年
資材倉庫	プレハブ造	17	平成9年
焼却炉	プレハブ造	7.3	平成27年
ニホンザルの丘	放養式フェンス、電気柵造	1,647	平成23年
ヒヒの城	放養式鉄筋コンクリート造	415	平成15年
モンキーバレイ	放養式フェンス電気柵造	3,321.7	平成9年
エコドーム寝室	鉄筋コンクリート造	45	平成3年
休憩所 (エコドーム横)	鉄筋組ルーフデッキ葺造	85.8	平成3年
リスザルの島	鉄筋コンクリート水張り造	1,507	令和4年
テナガ・クモザルの島	鉄筋コンクリート石積水張造一部電柵併用	1,500	平成9年
ギボンハウス	鉄筋強度度セメント中空押出整形張 ALC葺シート防水SOS メッシュ張造2棟	164.4 ×2棟	平成6年
無料休憩所	鉄骨2階造	166.87	昭和55年
くすのきの森	透水式路面工法 トレーラーハウス カーポート付デッキ 軽量鉄骨造休憩室	568	平成27年
トイレ (くすのきの森横)	鉄筋コンクリートコロニアル葺造	36	平成28年
営繕小屋	鉄骨造	36	平成30年
ビジターセンター裏スタッフ詰所	プレハブ造	20	令和2年
おでかけタマリン	鉄骨造		令和2年
バックヤードおひさまエリア	鉄骨金網張り造		令和3年
新アフリカ館 原野と森の家	鉄骨造	2,860	令和4年
トイレ (Waoランド横)	鉄骨造	40.6	令和5年

10. 施設配置図



- | | | |
|----------------|--------------|--------------------|
| 1 管理事務所 | 18 セミナーハウス白帝 | 36 エコドーム |
| 2 飼料倉庫 | 19 駐車場 | 37 リスザルの島 |
| 3 資材倉庫 | 20 倉庫 | 38 テナガ・クモザルの島 |
| 4 ガレージ | 21 倉庫 | 39 ギボンハウス 2 |
| 5 ポンプ場 | 22 ポンプ場 | 40 ギボンハウス 1 |
| 6 モニュメント | 23 屋外収容棟 | 41 トイレ |
| 7 動物園正門出札 | 24 収容棟 | 42 楽猿 (レストラン) |
| 8 ビジターセンター | 25 診療棟および資料棟 | 43 無料休憩所 |
| 9 Wao ランド mini | 26 検疫棟 | 44 モンキーバー (軽食) |
| 10 マダガスカル館 | 28 資料作成室 | 45 くすのきの森 |
| 11 アフリカ館 | 30 焼却炉 | 46 トイレ |
| 12 南米館 | 31 猿塚 | 47 宮織小屋 |
| 13 ボイラー室 | 32 ポンプ場 | 48 ビジターセンター裏スタッフ詰所 |
| 14 アジア館 | 33 ニホンザルの丘 | 49 おひさまエリア |
| 15 Wao ランド | 34 ヒビの城 | 50 おでかけタマリン |
| 16 アフリカセンター | 35 駐車場 | 51 新アフリカ館『原野と森の家』 |
| 17 トイレ | | 52 トイレ |

11. 主な施設新設・改修工事

(1) 新アフリカ館 原野と森の家 新井戸掘削工事
期間：2023年3月28日～2023年5月16日
(所沢建築、株式会社中央住設、加藤ポンプ 他)

(2) Wao ランド デッキ改修
期間：2023年8月28日～2023年9月26日
(株式会社安江工務店)

(3) ビジターセンター・南米館キュービクル交換
期間：2023年10月5日～2023年10月24日
(フジサービス株式会社)

(4) 食事処楽猿横・アフリカセンター前トイレ改修
Wao ランド前トイレ新設工事
期間：2023年12月19日～2024年2月9日
(株式会社津田建設)

12. 施設修繕（業者工事）

2023年4月27日

ビジターセンター裏ポンプとアフリカ館
水道管修復（有川設備）

5月8日 バックヤード換気扇交換工事（文化電気）

5月9日 軽トラックタイヤ & ベルト交換修理
(アクセスコーポレーション)

5月12日 バックヤード分包機修理（株式会社ユヤマ）

5月18日 病院の無影灯のデモ機搬入（アトムベッツ）

5月22日 ギボンハウスエアコン交換工事（文化電気）

5月23日 アフリカ館水道工事（有川設備）

5月24日 ワゴン車タイヤ交換
(アクセスコーポレーション)

5月28日 バックヤード病院棟ドア調整（ハウス工房）

5月29日 外周通路危険木伐採（ハウス工房）

6月3日 外周通路危険木伐採（ハウス工房）

6月8日 アフリカセンター屋内運動場照明器具交換
(文化電気)

6月26日 南米館哺育室コンセント・ブレーカー修理
とタイマー交換工事（文化電気）

6月26日 アジア館寝室蛍光灯交換工事（文化電気）

7月5日 モンキーバレイ 櫓用丸太搬入（なんでも屋）

7月6日 Wao ランド 寝室 エアコン修理（文化電気）

7月19日 モンキーバレイ 櫓補強工事（なんでも屋）

7月21日 新アフリカ館給水ポンプ基板交換
(シンエイライフ)

7月25日 バックヤード 収容棟エアコン交換工事
(文化電気)

8月1日 モンキーバレイ 観覧デッキ下

スズメバチの巣撤去（K & K）

8月1日 アフリカ館分電盤交換（文化電気）

8月1日 アフリカセンター予備室照明器具交換工事
(文化電気)

8月18日 アフリカセンター冷蔵庫修理（文化電気）

8月29日～31日、9月4日、0月13日
ビジターセンター横ベビールーム壁・ドア
修復工事（ハウス工房）

8月29日 ニホンザルの丘デッキ下コンセント、

ヒーターのプラグ交換（文化電気）

8月29日 バックヤード収容棟ブレーカー、アフリカ
センター 電話回線ボックス点検（文化電気）

9月5日 ヒヒの城観覧窓ガラス交換（加茂硝子店）

9月6日 アフリカ館蛍光灯交換工事（文化電気）

9月7日 マダガスカル館、南米館の排水升フタ搬入
(溶接工房 H's)

9月11日～14日
アフリカセンター屋外運動場旧花壇撤去
(何でも屋)

9月13日、9月28日
アフリカセンター排水桝フタ納入（溶接工房H's）

9月19日 バックヤード 収容棟蛍光灯交換（文化電気）

9月26日、28日
新アフリカ館 窓アルミ穴埋め工事
(シンエイライフ)

9月27日、10月5日～8日
アジア館 KA 暖房交換工事
(イワタニ東海、渡辺工業)

9月27日 南米館ホールエアコン修理（渡辺工業）

10月11日 ビジターセンターエアコン調整（フジサービス）

10月12日 マダガスカル館 FA 暖房バーナーと基盤を
ヒヒの城へ移設（泉商店）

10月12日 アフリカ館 FA 暖房 V ベルト交換（泉商店）

10月18日 エコドーム インフラ修理工事（文化電気）

10月18日 Wao ランド mini エアコン等修理（文化電気）

10月25日 新アフリカ館アルミサッシ修繕工事
(シンエイライフ)

10月26日 モンキーバレイ 樹木電柵復旧のための
配線整備（文化電気）

11月1日 エコドームホットスポット設置（文化電気）

11月9日 ヒヒの城ポンプとブレーカー交換工事
(有川設備)

11月22日 南米館キュービクル処分トランス回収
(フジサービス)

11月29日 ヒヒの城ポンプ交換（有川設備）

12月4日 無線機修理メンテナンス（株式会社エクセリ）

2024年1月13日
新アフリカ館冷凍冷蔵庫配線修理
(株式会社ホシザキ)

1月23日 事務所前下水マンホール詰まり取り（輪栄工業）

1月27日 アジア館下園内通路坂道の穴アスファルト
舗装（津田建設）

2月3日 ビジター裏外周通路アスファルト舗装
(津田建設)

2月19日、20日
園内トイレ不具合箇所修繕（津田建設）

2月27日 園内トイレ追加工事（津田建設）

2月28日 有害（PCB）トランス回収
(廃棄業者：ダイセキ環境ソリューション)

3月7日～12日
アジア館エアコン取り換え（文化電気）

3月13日 南米館（井水）給水バルブ修理工事、
テナガ舎横の漏水箇所工事（有川設備）

3月15日、19日
外周通路竹撤去（シーキューブ）

3月18日 園外電気メーター交換事前工事（中部電力）

13. 施設修繕（自営作業、溶接など一部のみ）

2023年4月6日

南米館枘かご破損溶接

4月7日 Waoランド観覧デッキ修繕
 5月12日 アフリカ館運動場溶接
 5月18日、6月6日、13日、22日
 モンキーバレイ樹木電柵埋没掘り出し
 6月1日 テナガザル飼育施設シュート溶接
 6月7日～9日、13日、17日
 ギボンハウス屋外シュート作製溶接
 6月8日、20日
 モンキーバレイ排水溝補修
 6月17日、19日、21日、26日、7月15日
 ニホンザルの丘ネトロンシート設置
 6月24日 アフリカセンター運動場コンクリート補修
 6月24日 バックヤード屋外収容等取り付け金具溶接
 6月27日 新アフリカ館屋内展示場シュート溶接補強
 7月6日、11日
 ヒヒの城下スロープコンクリート補修
 7月16日、31日
 ヒヒの城放飼場池掃除
 7月17日 モンキーバレイデッキ下樹木伐採・剪定
 8月6日 エコドーム寝室天井補修
 8月15日 モンキース克蘭ブル池水中電柵補修
 8月16日、22日
 ビッググループ円板電柵補修
 モンキース克蘭ブル池電柵補修
 8月17日 アフリカセンター屋外運動場壁面
 コンクリート補修
 8月19日 ニホンザルの丘排水桝コンクリート補修
 8月26日 クモザルの島寝室壁面修繕
 8月29日 南米館排水桝破損箇所溶接
 9月7日 モンキーバレイ樹木電柵掘り出し
 9月18日 モンキーバレイ排水管補修
 9月21日 ニホンザルの丘トリカルネット点検・補修
 9月22日、24日
 アフリカ館シュート溶接
 9月22日 アジア館放飼場檻溶接
 9月30日 アフリカセンター屋外運動場土留め
 ブロック工事
 10月1日、2日、11日
 新アフリカ館シュートにボルト溶接
 10月4日 リスザルの島寝室扉補修
 10月19日 夜猿神社撤去
 10月19日、20日
 アフリカ館檻溶接
 10月20日 Waoランド寝室扉補修
 10月24日 エコドーム寝室溶接
 10月25日 モンキーバレイフェンスネット設置補強
 10月26日 アフリカセンター屋外運動場コンクリート
 亀裂補修
 10月26日 モンキーバレイフェンス下部埋め戻し
 10月31日 ギボンハウス溶接
 11月1日 モンキース克蘭ブル池電柵修繕
 11月3日～5日
 エコドーム寝室溶接外れ補修
 11月8日、20日
 ニホンザルの丘ネトロンシート補修
 11月9日 新アフリカ館金具作製溶接
 11月9日、10日
 アフリカ館 FA 暖房温度センサー配線補修
 11月14日 クモザルの島電柵補修

11月15日 バックヤード隔離舎ケージ溶接外れ補修
 11月16日 モンキーバレイフェンス補修
 11月25日 マダガスカル館天窗ひび割れ補修
 11月26日 Waoランド mini フェンス溶接
 12月1日 Waoランド前ベンチ鉄骨撤去
 12月1日、8日、10日
 アジア館運動場檻外れ箇所溶接
 12月10日 ニホンザルの丘寝室蝶番溶接
 12月12日 動物病院保温ライト支柱溶接
 12月13日 ニホンザルの丘寝室アングル溶接
 12月29日 南米館排水桝溶接
 2024年1月10日、11日、15日
 ニホンザルの丘デッキ下檻亀甲網張り、
 放飼場フェンス補修
 1月11日 アフリカ館放飼場檻溶接
 1月16日 モンキーバレイ矢板補強
 1月19日 ギボンハウスシュート設置
 1月19日 アジア館放飼場檻溶接
 2月8日 モンキーバレイ放飼場矢板補修
 2月9日 ニホンザルの丘亀甲網張り
 2月11日 アフリカ館折溶接
 2月15日 ニホンザルの丘排水桝蓋作製交換
 2月20日 ニホンザルの丘寝室ケージ丁番溶接
 2月21日 モンキーバレイ側溝修繕
 2月26日 ニホンザルの丘寝室外用アングル溶接
 3月1日、2日、6日、7日
 バックヤード屋外収容棟金具・アングル溶接
 3月2日、5日、12日
 南米館ホール部屋側屋根作製
 3月8日 アジア館放飼場檻溶接
 3月10日 ニホンザルの丘寝室ラッチ破損箇所溶接
 3月13日 ビジターセンター裏通路手すり溶接修繕
 3月17日 アフリカ館 FA 暖房温度センサー補修
 3月29日 ヒヒの城寝室扉溶接
 3月29日 南米館中型通路天井補修

14. 設備点検

2023年4月10日
 貯水槽水質検査（愛知県薬剤師会）
 5月22日 バックヤード焼却炉点検（DAITO）
 6月8日 南米館ガス暖房機点検（渡辺工業）
 6月13日 電気設備点検（中部電気保安協会）
 6月26日 消防設備点検（ALSOK）
 8月2日 バックヤード外部放射線による線量
 当量率測定（テクノ中部）
 10月4日 FA 暖房点検（泉商店）
 10月6日 南米館ガス暖房機点検（渡辺工業）
 12月26日 消防設備点検（ALSOK）
 2024年2月2日
 バックヤード外部放射線による線量
 当量率測定（テクノ中部）
 2月20日 市水貯水槽清掃（輪栄工業）

15. その他諸手続き

(1) 動物愛護管理法関係（愛知県動物愛護センター）

- ① 特定動物飼養・保管増減届出書（2022 年度 1 月～3 月分）の提出 2023 年 4 月
- ② 特定動物飼養・保管許可申請の提出（申請 15 種・廃止 1 種） 2023 年 5 月
- ③ 特定動物飼養・保管増減届出書（2023 年度 4 月～6 月分）の提出 2023 年 7 月
- ④ 特定動物飼養・保管増減届出書（2023 年度 7 月～9 月分）の提出 2023 年 10 月
- ⑤ 特定動物飼養・保管増減届出書（2023 年度 10 月～12 月分）の提出 2024 年 1 月

(2) 外来生物法関係（環境省中部地方環境事務所）

- ① 特定外来生物飼養飼養状況届出書の提出 2023 年 7 月

(3) 感染症法関係（厚生労働省・農林水産省）

- ① 輸入サル飼育施設指定変更届出書の提出 2023 年 5 月

(4) 獣医療法関係（愛知西部家畜保健衛生所尾張支所）

- ① 飼育動物診療施設届出事項変更届の提出 2023 年 7 月

(5) 麻薬及び向精神薬取締法関係（江南保健所）

- ① 麻薬施用者免許申請書の提出 2023 年 7 月
- ② 令和 5 年度麻薬管理者免許・麻薬研究者免許年間麻薬譲渡・譲受届の提出 2023 年 10 月
- ③ 麻薬管理者免許・研究者免許・施用者免許更新申請の提出 2023 年 10 月
- ④ 年間向精神薬輸入・輸出・製造届の提出 2024 年 2 月

(6) 家畜伝染病予防法関係

- （愛知西部家畜保健衛生所尾張支所）
- ① 定期報告書の提出 2024 年 2 月

(8) 研究会、講演会の開催

1. 研究会の開催

(1) 第 68 回プリマーテス研究会の開催

日程：2024 年 2 月 24 日

会場：ビジターセンター

参加者：会場参加 90 名（所員を除く）

内容：口頭発表 13 題

ポスター発表 31 題

発表賞：

優秀ポスター発表賞

坂井田愛理（中部大学）

優秀中高生ポスター発表賞

岩川陽香（大阪府立北野高等学校），中井悠人（関西大倉高等学校）

櫻井美月（南山高等学校女子部）

平井理愛（大阪府立天王寺高等学校）

森純怜（関西大倉高等学校），栗田絢音（関西大倉高等学校），浅井晴香（大阪府立北野高等学校）

プログラム

10:25 開会

10:30 ～ 12:00 口頭発表①

O-1 連携研究成果予報：マカク属の社会性と性的二型の進化に関する形態学的研究

豊田有^{1,2,3,4}，本田剛章⁵，浅見真生⁵，新宅勇太^{2,4}，高野智²，松田一希^{4,6,7}（¹ 日本学術振興会，² 公益財団法人日本モンキーセンター，³ タイ国立霊長類研究センター，⁴ 京都大学野生動物研究センター，⁵ 野生動物保護管理事務所，⁶ 中部大学，⁷ マレーシア国立サバ大学）

O-2 ボルネオオランウータン (*Pongo pygmaeus*) とヒトの喉頭の形態的評価

中村千晶^{1,2}，佐藤巖¹，伊藤正裕¹（¹ 東京医科大学人体構造学分野，² 日本オランウータン・リサーチセンター）

O-3 マルチスピーシーズ霊長類の知識型脳画像データ共有エコプラットフォームの構築：

オープンサイエンスが拓く脳科学の新境界

酒井朋子¹，新宅勇太^{2,3}，守村直子⁴，浦山慎一⁵，岡田知久⁵（¹ 慶應義塾大学医学部生理学教室，² 京都大学野生動物研究センター，³ 公益財団法人日本モンキーセンター，⁴ 滋賀医科大学生理学講座統合臓器生理学部門，⁵ 京都大学大学院医学研究科附属脳機能総合研究センター）

O-4 "Storia Naturale delle Scimie e dei Maki" に描かれた霊長類

新宅勇太^{1,2}（¹ 京都大学野生動物研究センター，² 公益財団法人日本モンキーセンター）

- O-5 住宅地に隣接する森林生態系における哺乳類相と日周性
金原弘武¹, 山梨裕美¹, 久山嬉久雄² (¹京都市動物園生き物・学び・研究センター, ²フィールドソサイエティー)
- O-6 愛知県のニホンカモシカ個体群の系統地理的特徴
川本芳¹, 子安和弘², 曾根啓子³, 伊藤哲治⁴ (¹日本獣医生命科学大学獣医学部, ²愛知学院大学歯学部, ³愛知学院大学歯科資料展示室, ⁴酪農学園大学環境共生学類)
- 13:15 ~ 14:45 ポスター発表
- 15:00 ~ 15:45 口頭発表②
- O-7 Using FACS on facial expressions to understand primate emotion and communication
Catia Correia-Caeiro^{1,2,3}, Keiko Mouri^{1,2,4}, Michael A. Huffman^{1,2,4}, Duncan A. Wilson⁵, Xitong Wang⁵, Takako Miyabe-Nishiwaki^{1,2} (¹Primate Research Institute, Kyoto University, ²Center for the Evolutionary Origins of Human Behavior (EHuB), Kyoto University, ³Human Biology & Primate Cognition, Life Sciences, Institute of Biology, Leipzig University, ⁴Wildlife Research Center, Kyoto University, ⁵Graduate School of Letters, Kyoto University, Japan)
- O-8 Potential motivations for bar hanging behavior in a captive group of Japanese macaques (*Macaca fuscata*)
Josue Alejandro, Takako Miyabe (Kyoto University, Inuyama Campus)
- O-9 The Behavioral Sequences of Mountain Gorillas Under Tourism Pressure – Insights for Tourism Sustainability
Raquel Costa^{1,2,3}, Ângela Brandão³, and Misato Hayashi^{1,4} (¹Japan Monkey Centre, ²Primate Cognition Research Group, Lisbon, Portugal, ³Centro de Filosofia das Ciências da Universidade de Lisboa, ⁴Chubu Gakuin University)
- 16:00 ~ 17:00 口頭発表③
- O-10 欧州 11 園における霊長類の混合展示実施状況について
綿貫宏史朗^{1,2}, 田中ちぐさ¹, 武田康祐¹, 奥川みらい¹, 高田晃行¹, 阿野隆平¹ (¹公益財団法人日本モンキーセンター, ²京都大学野生動物研究センター)
- O-11 学校教育と博物館教育の継続的な関係を探る
～愛知県犬山市における日本モンキーセンターの博学連携の 20 年～
高野智, 赤見理恵, 江藤彩子, 阪倉若菜 (公益財団法人日本モンキーセンター)
- O-12 日本モンキーセンターを活用した教育活動
—中部学院大学「比較認知発達論」における行動観察実習と今後の展望
林美里^{1,2} (¹中部学院大学, ²公益財団法人日本モンキーセンター)
- O-13 4 つの共生論—人と動物との共生を複数の視点から考える—
早川昌志¹, 早川卓志² (¹大阪大学, ²北海道大学)
- 17:00 閉会
- 17:15 懇親会
- ポスター発表
- P-1 新施設へ移動前後のマントヒヒの行動変化
赤見理恵^{1,2}, 鈴木史郎¹, 鷹羽隆平¹, 竹内康江¹ (¹日本モンキーセンター友の会, ²公益財団法人日本モンキーセンター)
- P-2 動物園まるごと iPS 細胞化プロジェクト
今村公紀 (京都大学ヒト行動進化研究センター)
- P-3 アジアゾウの耳振り・尾振りと常同行動の関係、アジアゾウはなぜどのような時に常同行動をするのか
岩川陽香¹, 中井悠人², 村上聡³, 田辺雄亮⁴, 横坂楓, 佐々木伶奈⁵, 山本真也^{6,7}, 徳山奈帆子⁶ (¹大阪府立北野高校, ²関西大倉高等学校, ³京都大学農学部, ⁴京都大学理学部, ⁵大阪大学経済学部, ⁶京都大学野生動物研究センター, ⁷京都大学高等研究院)
- P-4 テナガザルへのアイトラッキング技術の導入
打越万喜子¹, ユリラ^{2,3}, 服部裕子¹ (¹京都大学ヒト行動進化研究センター, ²東京大学総合文化研究科, ³日本学術振興会)
- P-5 年齢の異なる雄キリンの社会的行動の比較および気温・風速と社会的行動の関係性
王嘉瑞¹, 山口隼², 石田仙汰², 山浦悠真¹, 岩井宏平³, 村上聡³, 横坂楓, 池田義知⁴, 田辺雄亮⁵, 池上美鈴⁴, 山本真也⁶, 徳山奈帆子⁶ (¹大阪府立北野高校, ²関西大倉高校, ³京都大学農学部, ⁴京都大学経済学部, ⁵京都大学理学部, ⁶京都大学野生動物研究センター)
- P-6 ヒト用 MRI 装置でのマカク脳標本撮像：内挿型コイルを用いた検討
岡田知久, 浦山慎一 (京都大学大学院医学研究科脳機能総合研究センター)
- P-7 "バックヤード" における単独飼育解消のための同居の取り組みについて
奥川みらい, 奥村文彦, 武田康祐 (公益財団法人日本モンキーセンター)
- P-8 ワオキツネザルの単独飼育個体の解消の取り組みについて
川崎千穂, 阿野隆平, 坂口真悟 (公益財団法人日本モンキーセンター)

- P-9 プイやタイヤを使ったフィーダーの事例紹介 ～オンラインサロンメンバー発案のフィーダーを作製して～
川原宇翔, 荒木謙太, 辻内祐美 (公益財団法人日本モンキーセンター)
- P-10 飼育下のフンボルトペンギンにおける社会的行動
小林亜美¹, 高月美乃里¹, 野村しおり², 村上聡³, 横坂楓, 徳山奈帆子⁴, 山本真也^{4,5} (¹ 関西大倉高等学校, ² 近畿大学農学部, ³ 京都大学農学部, ⁴ 京都大学野生動物研究センター, ⁵ 京都大学高等研究院)
- P-11 絵本におけるプリマーテスの表現について
小宮山みどり (日本モンキーセンター友の会)
- P-12 キツネザル 4 種における腸内細菌の特徴比較
坂井田愛理¹, 橋戸南美¹, 新宅勇太², 土田さやか¹, 牛田一成¹ (¹ 中部大学応用生物学部, ² 公益財団法人日本モンキーセンター)
- P-13 フランソワルトン♂レンの人工哺育報告
浮瀬百々香¹, 坂口真悟¹, 岡部直樹^{1,2} (¹ 公益財団法人日本モンキーセンター, ² 京都大学野生動物研究センター)
- P-14 クロミミマーモセットのペアの出産前後における社会関係の変化
櫻井美月 (南山高等学校女子部)
- P-15 「リスザルの島」の老齢個体の利用場所
鈴木仁喜 (南山中学校女子部)
- P-16 ジェフロイクモザルの尾の使い方について
関舞子 (愛知県立明和高等学校)
- P-17 JMC のクロミミマーモセット繁殖計画と死産事例報告
高田晃行, 坂口真悟 (公益財団法人日本モンキーセンター)
- P-18 欧州の動物園における霊長類の展示事例
武田康祐¹, 田中ちぐさ¹, 阿野隆平¹, 高田晃行¹, 綿貫宏史朗^{1,2} (¹ 公益財団法人日本モンキーセンター, ² 京都大学野生動物研究センター)
- P-19 日本モンキーセンターの 3 種のサルの行動観察
田中莉理子 (各務原市立鶴沼第三小学校)
- P-20 ポトはどんな環境で寝るのを好む？
土性亮賀¹, 廣澤麻里^{1,2}, 武田直子¹, 田中ちぐさ¹, 綿貫宏史朗^{1,2} (¹ 公益財団法人日本モンキーセンター, ² 京都大学野生動物研究センター)
- P-21 モンキーキャンパス受講生有志による屋久島研修ツアー
都丸亜希子¹, 石樽玲子¹, 中野洋二郎¹, 堀部紀夫¹, 万野美香¹, 森本裕里¹, 上村直子¹, 堀川晴喜², 赤見理恵^{1,2} (¹ 日本モンキーセンター友の会, ² 公益財団法人日本モンキーセンター)
- P-22 ニシゴリラのタロウさん奥にいるってよ ～会わずに帰るのもったいない！来猿者誘導大作戦～
中村千晶¹, 林直弘¹, 石橋ゆき子¹, 綿貫宏史朗² (¹ 日本モンキーセンター友の会, ² 公益財団法人日本モンキーセンター)
- P-23 飼育ジェフロイクモザルの集団コミュニケーションについて
林美花 (愛知県立明和高等学校)
- P-24 天王寺動物園の飼育環境等におけるプランクトンの生息状況と周辺環境の相関について
平井理愛¹, 辻本珂歩¹, 久保聡一郎¹, 鎌田祐輝¹, 佐野祐介², 早川昌志^{3,4}, 金重美代¹ (¹ 大阪府立天王寺高等学校, ² 地方独立行政法人天王寺動物園, ³ 大阪大学大学院人間科学研究科, ⁴ ミクロ・ライフ Project)
- P-25 日本モンキーセンターにおける飼料の取り組み～物価高に打ち勝つために～
星野智紀, 浮瀬百々香, 川原宇翔, 今井由香, 安倍由里香, 根本真菜美 (公益財団法人日本モンキーセンター)
- P-26 「リスザルの島」における世代による近接頻度の違い
細野水月 (南山高等学校女子部)
- P-27 日本モンキーセンターのヤクシマザルの歴代アルファオスについて
堀川晴喜, 奥村文彦, 赤見理恵 (公益財団法人日本モンキーセンター)
- P-28 新アフリカ館『原野と森の家』における動物の移動変遷
宗像大和¹, 田中ちぐさ¹, 星野智紀¹, 辻内祐美¹, 廣澤麻里^{1,2}, 土性亮賀¹ (¹ 公益財団法人日本モンキーセンター, ² 京都大学野生動物研究センター)
- P-29 互いに血縁関係にある飼育下フサオマキザル個体群において年齢及び順位変動が個体間の交流頻度に及ぼす影響
森純伶¹, 栗田絢音¹, 浅井晴香², 山本真也^{3,4}, 徳山奈帆子³, 村上聡⁵, 鹿野遥斗⁶, 横坂楓 (¹ 関西大倉高等学校, ² 大阪府立北野高等学校, ³ 京都大学野生動物研究センター, ⁴ 京都大学高等研究院, ⁵ 京都大学農学部, ⁶ 京都大学工学部)
- P-30 混合展示におけるシマウマとキリンの群れの構造
山口諒¹, 原千慧¹, 清水郁未¹, 岡田美乃湮¹, 岡部大葵², 村上聡³, 池上美鈴⁴, 池田義知⁴, 横坂楓, 山本真也^{5,6}, 徳川奈帆子⁵ (¹ 関西大倉高等学校, ² 大阪府立北野高等学校, ³ 京都大学農学部, ⁴ 京都大学経済学部, ⁵ 京都大学野生動物研究センター, ⁶ 京都大学高等研究院)

P-31 Just teasing! Exploring tease-like interactions in orangutans at Tama Zoological Park
TRINH Thien Ngan, KATSU Noriko, YAMADA Kazunori (Osaka University Graduate School of Human Sciences)

2. 講演会の開催

- (1) ニシゴリラのタロウ 50 歳記念講演会
「タロウの 50 年：ニシゴリラの福祉と保全のアンバサダーとして」
(Taro's 50th years as an ambassador for welfare and conservation of western gorillas)
日時：2023 年 4 月 22 日
会場：ビジターセンターホール
講師：ラケル・コスタ
通訳：林美里
- (2) 講演会「白黒つけよう！ベニガオザルの知られざる魅力に迫る！！」
日時：2023 年 7 月 17 日
場所：ビジターセンターホール
登壇者：豊田有
西江仁徳（日本学術振興会、京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科）
永野祥子（京都大学学術出版会）

3. シンポジウムの共催

- (1) 第 5 回 動物園水族館大学シンポジウム
「動物園水族館が「野生への窓」となるために」
主催：京都大学野生動物研究センター
日程：2024 年 3 月 9 日・10 日
方式：会場参加・オンライン参加のハイブリッド
(3 月 9 日)
会場参加のみ (3 月 10 日)
会場：京都大学理学研究科セミナーハウス
(京都府京都市)

(9) 展示、保全、環境教育及び 社会普及活動に関わる人材の育成

1. 京都大学野生動物研究センター実習

- (1) 野生動物・動物園科学基礎論
内容：レクチャー、飼育実習、標本実習、来園者調査、獣医療見学 など
日程：2023 年 6 月 23 日～6 月 25 日 5 名

2. 飼育研修の受け入れ 計 20 名

- (1) 名古屋 ECO 動物海洋専門学校
2023 年 7 月 10 日～7 月 16 日 2 名
2023 年 7 月 31 日～8 月 6 日 2 名
2023 年 8 月 7 日～8 月 13 日 1 名
2023 年 9 月 25 日～10 月 1 日 2 名
2023 年 10 月 2 日～10 月 8 日 1 名
2023 年 10 月 9 日～10 月 15 日 4 名
2023 年 10 月 16 日～10 月 22 日 1 名
2023 年 10 月 23 日～10 月 29 日 3 名
2024 年 2 月 26 日～3 月 10 日 1 名
2024 年 3 月 3 日～3 月 16 日 1 名
2024 年 3 月 10 日～3 月 23 日 1 名
- (2) 中部大学
2023 年 8 月 10 日～8 月 23 日 応用生物学部 3 年生 1 名

3. 職場体験・インターンシップの受け入れ 計 20 名

- (1) 岐阜県立岐阜農林高等学校
2023 年 7 月 21 日～7 月 23 日 2 年生 2 名
2023 年 7 月 29 日～7 月 31 日 2 年生 2 名
2023 年 8 月 5 日～7 日 2 年生 1 名
- (2) 岐阜県立加茂農林高等学校
2023 年 7 月 26 日～7 月 28 日 2 年生 2 名
2023 年 8 月 2 日～4 日 2 年生 1 名
- (3) 大成高等学校
2023 年 8 月 28 日 2 年生 2 名
- (4) 犬山市立南部中学校
2023 年 10 月 17 日～10 月 18 日 2 年生 2 名
- (5) 多治見市立小泉中学校
2023 年 10 月 19 日～10 月 20 日 2 年生 2 名
- (6) 犬山市立城東中学校
2023 年 10 月 26 日～10 月 27 日 2 年生 3 名
- (7) 各務原市立鵜沼中学校
2023 年 11 月 29 日～11 月 30 日 2 年生 3 名

4. 博物館実習の受け入れ 計 8 名

- (1) 日本大学
2023 年 6 月 22 日～7 月 2 日 4 年生 1 名
- (2) 帝京科学大学
2023 年 8 月 5 日～8 月 16 日 4 年生 1 名
- (3) 岐阜大学
2023 年 8 月 5 日～8 月 16 日、8 月 30 日～9 月 2 日 3 年生 1 名
2023 年 8 月 17 日～8 月 28 日 3 年生 1 名
- (4) 名城大学
2023 年 8 月 31 日～9 月 11 日 4 年生 1 名
2023 年 9 月 13 日～9 月 25 日 4 年生 2 名
- (5) 長岡造形大学
2023 年 10 月 6 日～10 月 16 日 4 年生 1 名

5. 獣医実習の受け入れ 計 2 名

- (1) 岡山理科大学
2023 年 6 月 19 日～6 月 23 日 獣医学部 5 年生 1 名
- (2) 東京農工大学
2024 年 2 月 16 日～2 月 29 日 農学部 4 年生 1 名

(10) その他

1. 友の会

会員数：1,125 名（2024 年 3 月 31 日時点）
うち、サポート会員 281 名

年会費：サポート会員 5,000 円以上
大人（高校生以上） 4,000 円
小中学生 2,000 円
幼児（3 才以上） 1,500 円
（2023 年 4 月 1 日改定）

- (1) モンキーセンター友の会 NEWS LETTER の発行
Vol. 10-1（通巻第 19 号）2023 年 9 月 10 日 発行
Vol. 10-2（通巻第 20 号）2024 年 3 月 8 日 発行

(2) 友の会のつどいの開催

① 第 17 回
日程：2023 年 4 月 1 日 13:30～15:30
方式：ビジターセンターホールでの現地参加
YouTube 同時配信によるオンライン参加 併用
内容：「新アフリカ館ができるまで」
綿貫宏史朗、田中ちぐさ、宗像大和
来賓：犬山市長 原欣伸氏

② 第 18 回
日程：2023 年 10 月 15 日 13:00～16:10
方式：ビジターセンターホールでの現地参加
YouTube 同時配信によるオンライン参加 併用
内容：講演「動物園で人間の本質を学ぶ」
山極壽一（JMC 理事長）
JMC 活動報告
Wao ランドのリニューアル 坂口慎吾
海外動物園研修報告
綿貫宏史朗、赤見理恵、新宅勇太、田中ちぐさ

- (3) サポーター専用ページの運用
2017 年 4 月 1 日より運用開始
2023 年度中に記事 17 本を公開

- (4) 友の会会員有志による環境整備作業
第 1 回：2023 年 4 月 23 日 16 名
第 2 回：2023 年 10 月 15 日 約 20 名
内容：ビジターセンター周辺の環境整備

2. 日本モンキーセンター団体協賛制度

2022 年 4 月 9 日より運用開始
協賛団体（2024 年 3 月現在）
天野エンザイム株式会社

3. 日本モンキーセンター大学等賛助会員制度

会員校（2024 年 3 月現在）
中部大学
名古屋 ECO 動物海洋専門学校

4. オンラインサロン「猿分補給」

2021年3月6日より運用開始
登録メンバー数：151名（2024年3月31日時点）
月額会費：1,000円以上
プラットフォーム：

CAMPFIRE

ブログ「飼育の部屋」（2023年9月～）

Discord（2024年1月～）

内容：飼育員による限定記事配信
オンライン交流会の開催など

5. 会議・研修

(1) 令和5年度EHUB-JMC-KS獣医師合同カンファレンス （Zoomによるオンライン開催）

① 第1回合同カンファレンス
日程：2023年5月11日
報告：ヤクシマザルのがん性肺胸膜炎（岡部）
岡部直樹、武田康祐

② 第4回合同カンファレンス
日程：2023年9月7日
報告：リーフイーターの症例まとめ（岡部）
岡部直樹

③ 第5回合同カンファレンス
日程：2023年11月10日
報告：ポトの死亡例について（岡部）
岡部直樹、武田康祐

④ 第6回合同カンファレンス
日程：2023年12月20日
岡部直樹、武田康祐

⑤ 第7回合同カンファレンス
日程：2024年2月16日
岡部直樹

⑥ 第8回合同カンファレンス
日程：2024年3月12日
報告：扁平上皮癌症例まとめ（岡部）
岡部直樹、武田康祐

(2) 愛知県博物館協会

① 令和5年度愛知県博物館協会総会
日程：2023年6月1日
場所：愛知県陶磁美術館（愛知県瀬戸市） 高野智

(3) 日本霊長類学会

① 2023年度代議員会
日程：2023年7月2日
方式：オンライン開催 高野智、赤見理恵

6. その他

(1) あいちサイエンスフェスティバル2023 第1回実行委員会
日程：2023年5月24日
方式：オンライン開催 高野智

(2) 屋久島いきもの調査隊理事会
日程：2023年6月1日
方式：オンライン開催 赤見理恵

(3) 宮島会議・現地視察
日程：2023年6月8日～6月9日
場所：宮島（広島県廿日市市） 綿貫宏史朗、星野智紀

(4) ゴリラ計画推進会議
日程：2023年10月5日
場所：京都市動物園（京都府京都市）
田中ちぐさ、武田直子

(5) アーク溶接講習
日程：2023年10月14日～16日
場所：那加クレーンセンター（岐阜県各務原市）
宗像大和

(6) 刈払い機講習
日程：2023年11月18日
場所：那加クレーンセンター（岐阜県各務原市）
川原宇翔

日程：2024年2月17日
場所：那加クレーンセンター（岐阜県各務原市）
浮瀬百々香

(7) チェーンソー伐木講習
日程：2023年11月25日～26日
場所：東海安全教習センター（愛知県小牧市）
堀川晴喜

(8) 第5回マーモセット飼育研修会
日程：2023年12月1日
場所：京都大学ヒト行動進化研究センター
（愛知県犬山市） 岡部直樹

(9) フランソワルトン計画推進会議
日程：2023年12月18日
方式：オンライン開催
綿貫宏史朗、坂口真悟、田中ちぐさ

(1) 動物園における物品並びに飲食物販事業

場所： ビジターセンター内

取扱商品： 書籍、海外民芸品、美術作品、
オリジナル雑貨、菓子類、委託販売品等

新規商品の開発：
コロブスしっぽ（ショート・ロング）
動物園イベント関連デザイン商品の開発
（タオル、てぬぐい、トートバッグなど）

(1) 澤田浩造（愛知県常滑市）
オリジナルラベル商品の販売

第5弾：「燐銀」	2023年4月1日～
第6弾：「枝垂れ猿」	9月2日～
第7弾：「Bone to be wild 2」	12月21日～

UTme!にてオリジナルデザイン商品のオンデマンド
販売（衣料品）

オンラインサイト SUZURI にてオリジナルデザイン
商品のオンデマンド販売（衣料品、スマホケースなど）

クリエイターズスタンプの販売

京都大学野生動物研究センターとコラボした
キーホルダーの販売

Merch by Amazon にてオリジナルデザイン商品の
オンデマンド販売（日・米・独・伊で展開、衣料品）

コラボによるレトルト食品の販売

オリジナルラベル商品の販売

奇跡のミカンを使ったパウンドケーキの販売
(100 個限定) 2024 年 2 月 3 日～

オリジナルラッピングを施した自動販売機を
園内 15 か所に設置

広告およびスーパーチャットの導入

阿野隆平、綿貫宏史朗

日程：2023年6月17日～7月18日

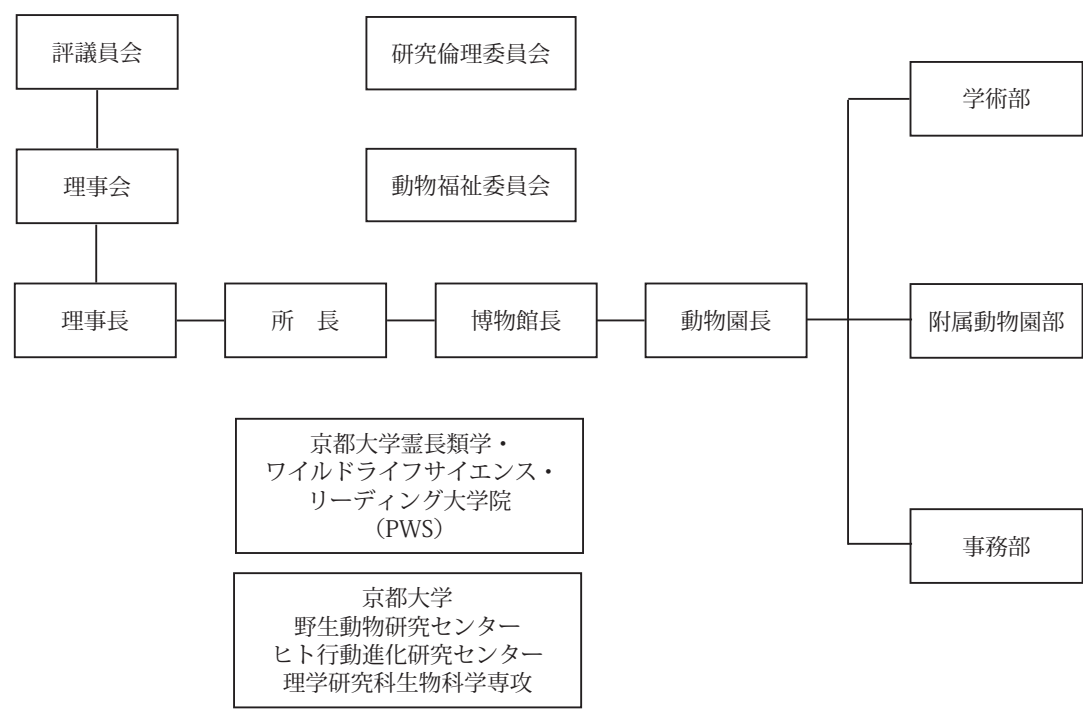
(2) 所有する土地・建物の賃貸事業

1. 犬山市大字犬山字官林他 土地建物
賃貸先：京都大学
目的：サルの飼育・繁殖・観察並びに教育研究
2. 犬山市大字善師野字小野洞他 土地
賃貸先：京都大学
目的：サルの飼育・繁殖・観察並びに教育研究
3. 犬山市大字犬山字官林 建物
賃貸先：京都大学
目的：教育等
4. 犬山市大字犬山字官林（JMC 管理棟） 建物
賃貸先：（株）名鉄インプレス
目的：日本モンキーパークの運営
5. 犬山市大字犬山字官林 駐車場施設
賃貸先：（株）名鉄インプレス
目的：駐車場
6. 犬山市大字犬山字官林 土地
賃貸先：グレー株式会社
目的：太陽光発電

III 総務

(1) 組織

1. 組織図（2024 年 3 月 31 日現在）



2. 役員（2024 年 3 月 31 日現在、50 音順、敬称略）

理事長		
山極 壽一	総合地球環境学研究所	所長
常務理事		
伊谷 原一	京都大学野生動物研究センター	センター長
	日本モンキーセンター	所長
湯本 貴和	京都大学名誉教授	
	日本フードスタディーズカレッジ	学長
中村 美知夫	京都大学大学院理学研究科	准教授
理事		
牛田 一成	中部大学創発学術院	教授
長谷川 壽一	独立行政法人大学改革支援・学位授与機構	参与
古橋 幸長	名古屋鉄道㈱	常務執行役員
明和 政子	京都大学大学院教育学研究科	教授
吉川 泰弘	岡山理科大学	獣医学部長

監事		
中野 雄介	清友税理士法人	代表
松下 明	名古屋鉄道㈱	常任監査役
評議員		
今井 啓雄	京都大学ヒト行動進化研究センター	副センター長
小川 秀司	中京大学国際教養学部	教授
川本 祥子	国立遺伝学研究所	准教授
齋藤 亜矢	京都芸術大学文明哲学研究所	教授
坂本 英房	京都市動物園	園長
鷲見 勝彦	㈱名鉄インプレス	社長
田中 正之	京都市動物園	生き物・学び・研究センター長
村山 美穂	京都大学野生動物研究センター	教授
平田 聡	京都大学野生動物研究センター	教授
山口 浩明	名古屋市東山動物園	園長

3. 職員（2024 年 3 月 31 日現在、同日付退職者を含む）

理事長・博物館長（兼任）

山極 壽一（総合地球環境学研究所・所長）

所長・動物園長（兼任）

伊谷 原一（京都大学野生動物研究センター・センター長）

国際学術顧問

James R. Anderson（京都大学名誉教授）

学術部長

林 美里（中部学院大学・准教授）

附属動物園部長・キュレーター（兼任）、動物取扱責任者

綿貫 宏史朗（京都大学野生動物研究センター・特定研究員）

学術部

高野 智 キュレーター、標本・資料管理責任者

赤見 理恵 キュレーター、教育責任者

新宅 勇太 キュレーター
（京都大学野生動物研究センター・特定准教授）

豊田 有 リサーチフェロー
（日本学術振興会・国際競争力強化研究員、
タイ国立霊長類研究センター・
アライアンス・リサーチャー）

Raquel Costa 研究員
（日本学術振興会・外国人特別研究員）

江藤 彩子 エducーター

阪倉 若菜 エducーター

國枝 匠 研究補助員

附属動物園部

岡部 直樹

獣医師・病院長

（京都大学野生動物研究センター・特定研究員）

奥村 文彦

動物管理責任者

坂口 真悟

施設・設備管理責任者

田中 ちぐさ

辻内 祐美

企画責任者

星野 智紀

飼育責任者

阿野 隆平

荒木 謙太

浮瀬 百々香

奥川 みらい

川崎 千穂

川原 宇翔

工藤 大輝

近藤 竜明

鈴木 かさね

植物管理

高田 晃行

武田 康祐

獣医師

武田 直子

土性 亮賀

廣澤 麻里

（京都大学野生動物研究センター・特定研究員）

藤森 唯

堀川 晴喜

宗像 大和

事務部

安倍 由里香

今井 由香

根本 真菜美

大岡 幸男

仙石 久子

大坊 早苗

木村 陽子

柴田 彩子

(2) 人事

1. 採用

2023 年 4 月 1 日付
附属動物園部
奥川みらい
高田晃行
栃洞佑亮

2023 年 4 月 12 日付
事務部
柴田彩子

2023 年 6 月 7 日付
附属動物園部
武田直子

2023 年 7 月 16 日付
附属動物園部
近藤竜明

2024 年 1 月 1 日付
附属動物園部
工藤大輝

2. 就任

2023 年 4 月 1 日付
理事長
山極壽一

3. 着任

2023 年 4 月 1 日付
学術部
豊田有

4. 退職

2023 年 4 月 30 日付
附属動物園部
栃洞佑亮

2024 年 3 月 31 日付
附属動物園部
近藤竜明
武田康祐

5. 退任

2024 年 3 月 31 日付
附属動物園長
(所長職は継続)
伊谷原一

(3) 総務

1. 理事会、評議員会の開催

(1) 第 25 回公益財団法人日本モンキーセンター理事会
日程：2023 年 6 月 1 日

(2) 第 13 回公益財団法人日本モンキーセンター
定時評議員会
日程：2023 年 6 月 22 日

(3) 第 26 回公益財団法人日本モンキーセンター理事会
日程：2024 年 3 月 5 日

(4) 第 14 回公益財団法人日本モンキーセンター
臨時評議員会
日程：2024 年 3 月 21 日（みなし決議）

2. 訓練の実施

(1) 初期消火訓練 2023 年 10 月 23 日

(2) 大型類人猿脱出時対策訓練（捕獲訓練）
2023 年 12 月 5 日

(4) 寄附

1. 寄附受領

(1) 寄附金の受入

内訳	金額
法人寄附	217,661,622 円
個人寄付	11,625,408 円
合計	229,287,030 円

(2) 寄附物品の受領

① 動物用飼料の寄附

年間で 120 品目、1007 件を受領

② Amazon ほしいもののリストの運用

2019 年 4 月 25 日運用開始

③ 中古でもいいからほしいもののリストの掲載

2019 年 8 月 20 日開始

④ その他寄附物品の受領

(3) れこると大須「日本モンキーセンター支猿プラン」 (株式会社レコファーム)

レンタル農地での農業体験に、収穫した
サツマイモの寄附プランを設定

(4) 株式会社 OHANA「Hello! OHANA」

生産者から直送される飼料をアプリを通じて寄附
動物の採食動画を返礼として受け取るサービス

2023 年 10 月 1 日開始

個体：ニシゴリラ・チンパンジー・アカオザルなど

6 種 18 個体

寄附件数：延べ 153 件

令和 5 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」はありません。

令和 6 年 6 月

公益財団法人日本モンキーセンター